香紅花

六月號

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

番紅花 第一巻第四號

目次

鈴蘭（短歌）……與謝野晶子……（一）
盲樂師（コロレンコ）……青山菊榮譯……（六）
ダンシングに就て（下）……原信子……（三七）
きれぎれ（詩）……八木さわ子……（四六）
動搖（小說）……菅原初……（五二）
最近の不平（手紙）……松井須磨子……（六五）
N氏のマニユスクリプト（小說）……神近市……（七〇）
大阪より（手紙）……伊達虫子……（九一）
西班牙物語ルイザ姫様の詩（詩）……淺井三ッ井……（一〇三）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

別れの手紙（小説）……八木麗……（一〇九）
中性論（エドワード・カーペンター）……青山菊榮譯……（一三〇）
海外通信……O・P・Q……（一四一）
夢をゆくわが船の（詩）……尾竹一枝……（一五六）
草と鳥と魚と神樣（感想）……尾竹一枝……（一七〇）
編輯室にて……同人……（一七八）

挿繪

I　サアリー・ゼエリ……（一）
II　ゼラジン・フアラー……（四七）
III　アンナ・パウローワ……（七九）
IV　ベルビス……（一一一）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Sahary Djeli.

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

鈴蘭

與謝野晶子

あな悲し生（せい）も得がたく死も知らぬもの一つあり心の中に

ある時に君の曲げたる背のかたち嬉しき日にもうき日にも見ゆ

心いと正しき人がいかさまに僞るべきと思ひみだるゝ

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

夜の汽車に鈴蘭の香のたゝよひし胡地の皐月の白かりし月

男てふ底しらぬ淵うち見つゝ歩みしものゝ行方しらずも

わが心はかなし紅きひとひらの切れのはしにも酔ひて泣かるゝ

いのちなど栗粒ほどのはかなさに見ゆる日つづき人を戀ひ居り

大陽が心を昇るいろ見よと口づくる時人ちがへしぬ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

こは何ぞわれは夜中にいと深き森の道ゆくほほゑみつゝも

草拔きて指染まる時まだかつてわが覺えざるすなほさとなる

六月や障子の敷居のみ見つゝ日のくれ時をさびしと思へる

君とわれ打笑める時這ひいでぬ芝居のごとき蟹のむれかな

戀をわれ思ふにいたり運命をそなへ物ともあなづりそめぬ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

夕ぐれの部屋の中をば角かきぬ弱きことなど
一つもなけれど

夜ゝを寢ぬ青きまぶたを映す時魔の使かと鏡を
おもふ

つらかりきはかなき言葉なりけれどわが數年
の時くもるほど

人ごとは目も及ばねばみづからの心のみ見る
涙のみ見る

蔓たれしはかなき草を踏みながら涙くだりぬ
身の尊さに

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

手をのせてふるき玉をえらびぬと男はなせり
いどあぢきなし

昔今おのれと君と神と魔と戀といつはり愛と
のろひと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

盲樂師（コロレエンコ）

青山菊榮譯

一

子供は其父の小露西亞の豐かな貴族の家で深夜に生れた。

若い母親は眼を閉ぢて失神した樣に臥てゐたが、嬰兒のいたいけな初聲が其の耳にはいると不安らしく枕の上で身動だ、其の唇はムツ〳〵動いて、慣れぬ悲哀に惱む幼兒の樣な齒痒さうな苦悶のさまが上品な目鼻立ちの、蒼白い脆弱げな顏を掠めた。頭を婦人の唇の所へ寄せた乳母は、微かにかう

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

また嬰兒が啼いた、するとまた激しい懊悩のさまが母親の顔を掠めて、猶閉ぢたまゝの眼からは涙の雫が溢れた。
『何故――何故その子は――？』と微かに息の下で繰り返した。
『まあ、何故お啼き遊ばすかつて仰しやいますの？　あかさまは皆お啼きになります。何も御案じになる事はございません。お醫者様はこれが可いのだつて仰しやいますよ』
しかし母親は慰められなかつた、而して子供の啼く毎に人目にも著く戰のいては繰り返した。
『何故――何故其の子はさう――さう哀つぽく啼くの？』
乳母は兒供の啼くのに不思議は無いと思ふ許りなので、主人はきつと少し熱に浮かされてゐるのだと考へた。それで床の傍を離れて、ひたすら小さな珍客に心を注いだ。
間もなく母親はつぶやくのを已めた。しかし時々、人知れぬ悲しみに、又は言葉も及ばぬ程深奥な暗黑な凶兆に胸を嚙まれてゞもゐる樣に、涙がその黑い睫毛を傳つて色の無い頰の上をほろ〳〵とこぼれた。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

母親は果して乳母の考へ通り、熱に浮かされてゐたのであらうか、將又我子は十字架を負うてこの世に出て來たので、つまり恐ろしい禍難——搖籃から墓までの一生に陰影を射す禍難の贄であると其の親心が告げたのであらうか。

子供は生れながらの盲目であつた、しかし暫くは、母親だけはまづ措いて、誰一人さうと氣づいたものは無かつた。

子供は一しきりはどこの子もやる樣に、どんよりした鈍い眼付でぢつと前を見据えてゐるやうに見えた。

一日一日と過ぎた。子供は幾週と數へられるまでになつた。が、その眼は段々はつきりして來て、瞳もちやんと分かる樣にはなつたものゝ、猶外の子供とはちがつた所——何とも名狀の出來ぬ所があつた。鳥の樂しげな囀りや、葉の繁つた小枝を窓の前に動かす白樺のさやぎと共に室に流れ込む日光の方へ頭を向けることなどは決して無かつた。

此頃にはもう力を回復してゐた母親は、子供の顏の無氣味な、只ならぬ樣子に愈々胸をさわがせながら注意してゐた。その顏はいつでも同じ樣に子供に似氣なく沈んでゐた。母親は怯かされた鳥の樣に、そのまはりにそわ〳〵してゐて、產室に來る人每に同じ問をかけた。

『お分りになりますか、どうぞ仰しやつて下さいましな。この子は何故こんな風なのでございませう、かう變な！』
『こんな風？　どんな？　私には一向變な所は見えませんが、よそのあかさんの通りですよ』
といふのが一樣の答であつた。
『でも、これが小さな手で何でもかでも觸らうとする變な樣子がお見えになりませんか』
『このお子はまだ眼の印象を手の運動と同等に見る事が出來ないんです』
同じ問を二十度目に發した母親に醫者はかう答へた。
『でもこの子の眼はどうしてかう据はつたきりなのでございませう。まるで――まるで盲目かなんぞの樣に』
この恐ろしい疑が心に根ざして以來、母親はどうしても慰められてゐなかつた。
醫者は子供を抱いて、急に光の方へ向けて、それからぢつとその眼を瞶めてゐた。
一寸の間彼は迷つてゐるらしかつた、それから譯の分からぬ云譯をして家を出て行つた。が翌日檢眼鏡をもつて又來た。彼は灯のついた蠟燭をとつて、子供の眼の前でそれをチラ〳〵動かした。次に檢眼鏡を使つて幾度も子供の眼をのぞき込んだ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

『奥さん』と彼は母親の方を向いて、いかにも氣の毒さうな聲で云つた。

『奥さん、不幸にも仰せの通りでした。坊ちやんは盲目です。それに――實にどうも申し上げにくいですが――まづ治る見込みは無さゝうに思はれますな』

母親は平靜に悲しみ乍ら聽いた。

『私には分かつて居りました。疾に分かつて居りました』と低い聲で答へた。

二

若い母親と子供との外に、家族は父親と伯父マキシム――畏隈でポペルスキー夫人の一人の兄弟と云はれてゐたその伯父だけであつた。

父親は親切な氣の好い人で、作男や小作人にもやさしかつたが、外に何爲るひまもない程、家を建てたり建て直したりすることに許り耽つてゐた。食事の際と寐る時の外、滅多に彼が家に居る事はなかつた。しかし彼はさういふ時には缺かさず、いたはる樣に妻の健康をたづねるのであつた。それから普請の事で何か新しい話でも無い限り、いつもの通り默つてしまつた。

この毒にも藥にもならぬ無口の地方紳士が息子の內的生活又は性格の發展に餘り關からなかつた

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

事は云ふまでもなからう。

伯父マキシムはまるで違つたたちの人であつた。甥の生れる十年前には、彼はその地方に限らず、キエフにまでも喧嘩好きな物騒な性質のために響いて、皆に恐がられてゐた。彼は幾度も決闘をした、而して相手をいつも負かした程、射撃と劍道とに達してゐたのであつた。此地方の身分のある人達は、どうしてポペルスキー夫人(舊姓タッエンコ)にこんなに恐ろしい兄弟が出來たものかと不思議がつてゐた。彼の交際仲間はこの危險な隣人の氣に障るまいと極力努めたが、マキシムの方では相手が腰を低くすればする程横柄に振舞つた。一方彼は平民には、彼ぐらゐの身分の人なら誰でも擲りつける程腹を立つ樣な無躾な事をさせて平氣でゐた。やがて彼は墺太利を恐ろしく憎んで、伊太利に行つてしまつて紳士達に大よろこびをさせた。伊太利で彼は自分同樣狂猛な動亂好きなガリバルディの旗下に屬して、心ゆくだけ戰つたのであつた。土地の紳士達の噂では、ガリバルディはこの惡魔と親密になつて、畏れ多くも法王御自身に手向かつたと云ふ。その爲めに、もとより異端に傾いてゐたマキシムの魂は永久に失はれたものと紳士達は確信してゐた。が、彼は損をしたにしても外の人達は得をした。社交上の集まりはもとの樣に平和になつて、母親達は息子のために、姉妹達は兄弟のために、心配しなくても宜い樣になつた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

久しくマキシムの消息は絶えてゐた。が、或日、此地方の紳士達に外界の出來事を知らせる土地の新聞の「小報知」は墺太利との會戰で、タッエンコは乘馬を擊たれ、其身はずたずたに切り捨てられたと讀者に告げた。

『あれ丈の身分の人にしては香ばしくない最期ですな』ともとの知人連は語り合つた。而して彼の死に關しては少しの疑も入れずに、これは偏にペテロ聖者が相續人の爲めを思つてのお量らひださ信心深くもきめ込んでゐた。

しかしこれは間違ひであつた。マキシムは死なゝかつたのである。墺太利の劍は彼の强情な魂をその頑丈な身體から追ひ出し損なつた。彼は兇惡なガリバルディ方の戰友に救はれて、安全な場合へ運ばれて、出來るだけ傷を直して貰つた。

幾年か後、マキシムはひよつくり妹の家に現はれて、それから以來ずつとそこに居ついた。彼は右足を失くしたし、右腕は實際何の役にも立たぬ程の不俱になつてしまつた。

同時に彼は非常に沈着いて眞面目になつた。しかし時々何かで腹を立てると、以前劍を以て爲たと同じ樣に辛辣な的中した攻擊を言葉で遣つた。彼は市や集會に出る事もやめ、訪問もせず、大抵の時を圖書室に讀書して過ごした。其の硏究の性質に至つては何人も全く知らなかつた。たゞ噂によれば

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

その書は神を無視するといふまでゝは無くても、確に異端に近いものだといふ事であつた。また彼は出版する許りに物を書いたといふ噂もあつたが、其の書いたものが「小報知」に載らなかつたので、この話は不確だといふ事になり、たゞ僅かの氣の早い人達に信ぜられたに過ぎなかつた。

甥の誕生の頃、マキシムは半白の中年紳士で、一目見て崇められたり、敬はれたりする柄では無かつた。撞木杖のために肩は耳と平行に突き上げられてゐるので、不倶ながらなほ頑丈な其の體軀は眞四角に見えた。その醜い傷痕のある黒い顔、きつと寄せた眉、年中口をはなさぬ短かい煙管から出る煙の雲に包まれながら、ゴトリゴトリと歩く時の撞木杖の音などは、この老武人をかけ離れた人に見せる許りでなく、不意に遇つた人は寄りつかせず、始めて見た子供などを死ぬ程怯えさしたものであつた。たゞ彼の近親だけは、此の不倶の身體の中には温かい心が波打つて居り、短い黒いこわい毛に包まれた角ばつた頭の中には、敏活な脳が絶えず働いてゐる事を知つてゐた。

最初マキシム伯父は盲目の子に餘り氣をとめなかつた。この世界に人一人殖えたが何だ、といふ風で。けれども次第に、殆無意識に彼は愍れな子に氣を惹かれて來た。二人の立場には共通の點がある。二人は同様に人生の闘ひに適せぬ。これが彼の同情を惹いて、その心を動かした所であつた。

『うん』と或日、彼は甥を尻目に見ながら唸つた。『この子はわし同様情ない身の上だ。が、二人一所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

になれば一人前に通用するかも知れん』
然り、子供は情ない盲目であつた。どんな名醫の技術も寺院の祈禱もこの空虚な、而も美しい眼に視力を與へる事は出來ないのであつた。

三

この悲慘な禍患を招く樣な事を故意とでも識らずにでも、兩親又は他の人達が爲たであらうか。そんな筈はない。この子の目の盲ひた近因さへ確かには分からないので、いはばそれは朦朧とした自然の作用の奥にかくれてゐるのであつた。しかしポペルスキー夫人が嬰兒を見る時には、いつも疑惑が樣々の思ひの中にまぎれ込んで來て平和を攪き亂さずにはゐなかつた。理性と事實とがいくら打消しても、なほ夫人の胸中には、子供を生んだ責を負ふ者は等しくその苦しみに對しても、或不可思議な關係で責を頒つてゐる樣な心持が潛んでゐた。かういふ考と盲目の子に對する親心とはこの子を夫人の生活の中心とした。同時に又ほんの一時の出來心も尊重され、どんな望みも氣どられるが早いか、默々の裡に從はれる無意識な家庭の獨裁君主にしてしまつたのであつた。

家内中の者がかうして此子の性質を取返しのつかぬ樣に損ねてしまはうと掛つてゐたのであるか

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ら、打捨ておかれたらこの子はどうなつた事であらう――もしマキシム伯父の血を呑んだ墺太利の劔がその生命まで奪つたとしたら、一體この子はどうなつた事であらう。まるでマキシムはこの若い生命を近親の親切から救ひ出す爲め許りに敵手を免ぬがれた樣であつた。

盲目の子の誕生と發育とは不倶の戰士の冥想に一定の方向を與へた。幾時間も彼は煙草の烟の後光の中に坐つて、考へたり觀察したりしてゐた。長く觀てゐればゐる程緊々彼は眉を寄せて、愈々激しく煙管から烟を吹き出した。而して煙の雲は益々濃くなつた。

とう〳〵彼は口を入れる事にきめた。

『その子は』と彼は雲の中から話しかけた。

『其子は己よりまだ〳〵不仕合せだ。生れない方がましだつたな』

妹はうなだれて眼に一杯涙をためた。

『マックス、それは慘酷です。どうもならないのにそれを私に思ひ出させるのは酷い』と咎める樣に云つた。

『わしはほんとの事しか云はないよ、あなたも知つてゐやうが。わしは片足と指を大抵亡くしたが、それでもまだ眼は持つてゐる。所がこの子には眼がない。それに今に手も足も亡くすだらうし、心だ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

つて物になりさうも無いな』

『まあ何を……何をあなたは仰しやるの？』

『お聽き、アンナ』と兄はくしや〳〵にした眉をゆるめて、調子を和らげて話した。『わしはあてもなしに酷い事なんか決して云やしない。わしは目的があつて云ふのだ、この子は神經質で鋭敏なたちだ。目の視えぬ代りに或程度までそれを補ふ様に外の感覺を發達させる事も出來るのだ。が、それには練習が要るね。所で練習は必要から來る外無い。あなたがこの子の望みを皆先まはりして氣をつけて、努力の必要をまるで失くしてしまふその甘い心配は、將來もつと滿足な生活をする芽を殺してゐるんだ』

アンナ・ミカイロフナ――ポペルスキー夫人は物の分かつた婦人であつた。それで兄の云ふのがほんとだと思つて、その云ひ分を採り上げた。而して以後は泣くとすぐ子供の所へ駈けつけるのをやめた。放つておかれると、盲目の子は家中を氣儘に這ひまはつて、出合つたものや、手のとゞくものは何でもすばしこいよく動く指でさはりまはした。

すこし經つと、彼は足音や衣摺れや、目あきには分からぬ色々の外の點で母親を識る事が出來る樣になつた。客のごた〳〵してゐる部屋の中でさへも、母親を知る事が出來た。母親が不意に抱き上げ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ると、子供はその名を呼んだ。外の人に抱かれると、彼は指で其人の顔を器用に撫でまはした。かうして彼は間もなく父や伯父や乳母をそれ／＼識つた。併し知らぬ人に抱かれた時には、その小さな手の動き樣は少し遲かつた。子供は徐かに未知の顔を指で撫でまはして、如何にも深い注意を拂つてゐる樣な顔をしてゐた。彼はその手を通じて觀察するのであつた、彼は賢い快活な性質で、分かりが早かつた、しかし時がたつにつれて、その盲目は性質にも氣分にも影響し始めた、その運動には段々活氣が乏しくなつて來た。彼は人目につかぬ片隅にぢつと坐つて、石の樣な顔をして耳を澄ましたまゝ幾時間も過ごした。家中が寂然してゐて、その注意をかき亂す外界の物音が全く絶えてゐる時は、彼は深く思ひ沈んでゐる樣に見えた。而して眼の視えぬ、物を云ふ顔には嚴肅な子供らしくない、思ひ惱んだ樣な樣子が次第に備はつた。

マキシム伯父は甥の性質を云ひ當てた。子供の神經的な鋭敏な性質は段々現はれて來て、聽覺と觸覺とを通じて滿足な印象を得やうともがく樣になつた。その觸覺は實に鋭敏なものであつた。彼は色彩までも指で區別する事が出來るやうに見えた。彼は暗い、又ははつきりしない色の布端より、明るい冴えた色のをいぢる方が好きであつた。

しかしその最も鋭い感覺――聽覺――は何より先に發達して、彼を最も滿足させた。彼は一つ／＼

の部屋をそれ〴〵の特徴的な音で聞き分ける事を覺えた。彼は伯父の椅子は妙に軋るのでそれに坐つた事を知り、さら〳〵とかすれる糸の音で母親が縫物をしてゐる事を知り、懷中時計のカチ〳〵いふ音で父親を悟つた。

子供は壁に沿うて手さぐりで歩きながらふと立ちどまつて、誰にもきこえぬ幽かな音に耳を傾けて、それから手を擧げて、仄かに聞きつけた極々輕い蠅の足音をたよりに、こつそりそれを捉まへやうとしたりした。蠅の見えなくなつた事は彼には分からぬ、が次の瞬間には一生懸命になつて、些かな翼のたてる羽音を聽き澄まして、その行方へ眼を向けた。

動いて、響いて、輝いてゐる外界は大抵音を通じて盲目の子の頭に來た。彼は其の音をたよりに到底目堵し得ぬ人生の概念を作り上げなければならないのであつた。何かに深く聽き入つてゐる樣子がその顏の固定した表情となつた。彼は眉を寄せて首をうなだれて歩いた。ぢつと据はつた切りの美しい眼は、多少顏をきつく寂しくは見せながら、云ひ知れぬ傷ましさを見る者に感じさせた。

四

時は過ぎて行つた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

盲目の子の二度目の冬は終りに近づいた。雪は野から消えて、悦ばしい春の先ぶれの小流は礫がちの川床で可愛い歌をつぶやいた。

ペトリックは長い冬中屋内に閉ぢ込められてゐたので、健康も氣分も共にすぐれなかつた。しかし日が長くなつて、二重の窓框が窓から外づされて、たのしい春の潮が南からやつて來ると、彼の氣は引立つて健康も回復した。日は晴れ／＼と遊び部屋をのぞき込んで、一杯に光を漲らした。金剛石の驟雨は柔らかに梢から降つて土に泌み入つた。牧場は冬の棺衣をぬいで春の衣を着た。無數の小さな生物は長い睡りから覺めて、母なる大地の新な活動をよろこんだ。

盲目の子にとつては、春は忙しげな物音が一時におし寄せて來る時であつた。彼は溪川が嵐の様にごよみ合ひながら、柔らかな濕めつた土に新に穿たれた流れ路を奔る時の高らかな響きを聞いた。棡の枝はひそ／＼と窓にさゝやいては、調子を合はせて輕く窓ガラスを打つた。垂氷は軒から落ちて土にぶつかつて千百の相異なる響を立てた。或時はさま／＼の光彩を放つ礫が一齊に射出される様に、或時は急激な不規則な遠雷の轟きの様に、かうした物音は凡て室に流れ込んだ。折々は又、空を渡る一群の鶴の叫びがこの絶間なしの喧囂を鋭く劈いて、徐々と大氣の中に融け入る様に消えて行くこともあつた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

この自然の覺醒に對してペトリックの顏は惱ましげな惑亂のさまを呈した。彼は眉を寄せて首をさし出して深く聽き入つては、此不可解な入り亂れた響に怯やかされたかの樣に母親の方へ手を延ばして、震へながらしがみついた。

『どうしたのでせう、この子は』とポペルスキー夫人は怖んだ。

『わしもそれを思つてゐた』と煙草の烟の中からぢつと甥を見守つてゐたマキシム伯父は云つた。

『丁度わしもそれを考へてゐた所だ。何故この子はかう落ち着かないのかしら』

『何かこの子に分らない事があるんですよ』

とペトリックが思ひ惱んだ樣な顏を自分の方へ向けた時、夫人は云つた。

夫人の推量は當つた。此子には理解の出來ぬ事があるのであつた。聞き馴れた舊い物音は逝つてしまつて、聞き分けられぬ新な響がそれに代つたのである。

間もなく冬のあとは殘らず消えて、大地は春のものとなつた。温かい日光のもとに、自然は出立したての行列の樣な勢ひでずん〳〵よみがへつて來た。野原はまばらに延命菊に彩られた綠の上衣を着飾つた。鳥は謠つた。白樺の若芽の甘い香はあたりに滿ちた。或晴れた朝、子供は母親に手をひかれて散歩に連れ出された、伯父は撞木杖にすがつて一所に步いて行つた。目ざした所は風と日とにさら

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

されたた河沿ひの小さな丘であつた。丘は深い草に覆はれてゐて、ひろ〴〵とした景色を見渡す事が出來た。

ペトリックはおど〳〵して母親にしがみついて、その人さし指を小さな手に握りしめてゐた。しかしその時、母親はわく〳〵してゐたのと、あたりの美しさに氣をとられてゐた爲に子供の此のおちつかぬ樣子をつい見のがした。もし一目でも見たらば子供は殆ど無我夢中でゐるのが分かつたであらう。その大きく開いた視えぬ眼は默然と驚嘆して日に向かつてゐた。そして彼は開いた唇から奔り疲れた人の樣に新鮮な空氣を大息に吸ひ込んでゐた。其の顏は無限の歡喜を呈してゐた。それから困惱のさまを見せて、最後には殆ど恐怖の色を現はした。

三人は丘の頂について芝の上に坐つた。もつと心持のよい所に移さうとポペルスキー夫人が子供を抱き上げると、彼は大地が足の下からずり落ちてゞも行く樣な氣がしたらしく、母親の着物にすがりついた　しかし母親は猶眼前の光景に氣を奪はれてゐたので、子供の只ならぬ樣子には氣がつかなかつた。

時は眞晝であつた。太陽は淡碧い空を悠々と渡つた。丘の麓には波立つ河が勢よく流れて行く。氷は碎けてしまつた、が、濁つた流れには日中の暑さにずん〳〵溶けて行く其の破片がぽつ〳〵泛かん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

である。水の溢れ出た牧場には鏡の樣な些やかな湖が出來て、それには滔々と流れる河の中の小さな氷同樣、見るまに消えてゆく浮雲が映つてゐた。時々風がさつと牧場に吹いて來て、小さな湖を漣で蔽うた、其の漣は溶かした銀の樣に日光に輝いた、河の彼岸の氾濫した野原からは透きとほる樣な靄が泛かんで、白い顫へてゐる薄絹で地平のはてに立つ黒い松林を包んだ。それは恰も大地が歡喜の吐息をついて、其の宏大な胸から謝恩の贄の烟が騰いてゐる樣であつた。

其の光景は大祭の用意をした大伽藍にも似てゐた。しかし盲目の兒にとつては、これはあたりに動き呻いて、四方からその靈に觸れ、新な未知の感じで心をそゝり、云ひしれぬ思ひを以て胸をときめかす無邊の暗に過ぎないのであつた。

彼は周圍の總ての自然の引かれる方向を知つて居るかの樣に、其の弱い皮膚を温める太陽の方へ我識らず顏を擧げた。が、猶彼には大空の深い蒼さ、空氣の澄み切つた透明さ、地平線の涯しなさなどは存在しないのであつた。彼は何だか温いもの、さわる事さへ出來る樣な何物かゞ温かにその頬を撫でる事だけは知つてゐた。すると今度はそれが冷やゝゝした新鮮な力のあるもの——何やら動くものにつと拂はれて、一時温かみは記憶にとゞまる丈になつてしまつた。

ペトリックは家の中ではまはりに何も無い事を知つてゐるので勝手に歩きまはる事に慣れてゐた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

然るに今は、急激に起伏する異樣な物體の波が代る〴〵空氣を溫めたり冷やしたりして、強い歡喜に自分を醉はすのを感じた。その頰を煽いでゐた風は足をもち上げて空へ投げつけでもしさうに耳もとをヒユー〳〵掠めて、顏や首や身體全體に吹きつけた。身のまはりを一面に流れてゐるこの神秘な力この起伏する波は百千の相異なる物音と入り混つた。時にはそれが揚雲雀の朗らかな歌であり、時にはしめやかな若葉の葉摺れであり、時には又逆捲く河の搖動する音樂であつた。燕は輕げな羽音をたてゝ飛び過ぎる、蝿は頭のまはりをくる〳〵飛びまはり乍ら呻る、折々遠い畑で馬を驅る百姓の長いうら哀しい叫びも幽かに聞こえて來た。

子供は是等混沌たる物音をそれ〴〵辨別する事が出來なかつた。彼には音の起る場所の遠さ近さも分からず、亦それを一々明白な觀念と結びつける事も出來ないのであつた。柔かに朧げに、低く高く穩かにはた烈しく起る諸々の音は、時には離れ〴〵に、時には軋り合ひ群がり合つて、彼の小さな暗い頭腦に突き入つて來た。風は耳もとにヒユー〳〵鳴つて、次第々々に高まり高まつて、遂に一切の外の物音を消してしまつた。

今度はそれも鎭まつた。するとペトリツクには、音の表はしてゐた世界が追憶の樣に薄らいで行つて、消え失せさうに思はれた。まだかよはい彼の心はかういふ巨多の新な印象の重みに堪へかねてよ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ろめき始めた。一寸の間彼は負けまいと爭つた、が、彼には荷が過ぎた。身をつゝむ暗黑の奥から洩れる物音――高まつては沈み、また更に河向ふの畑のうら哀しい人の聲と入り混る物音――は海濤の樣に彼の心を强壓した。

不意に深い靜寂が來た。

刺激は强すぎた。一聲呻いてペトリックは草の上に倒れた。母親はすぐ振向いてあつと叫んだ。子供は眞蒼になつて氣を失つて地面に倒れてゐた。(未完)

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ダンシングに就て（下）

原　信　子

丁度佛國革命のダベロダンサーとして巴里に名聲を博したのはギルマルド孃でして（Mlle Madeleine Gimmard）其美其優は天使をも驚かすほどでした、彼女は天才と呼ばれました、啻に姿勢、動作が藝術をよく解し且つ表現したばかりではない其思想感情も當代を風靡したのです、其田舍の別莊のある所パンチにも小劇場を自分で建設致し又シャウシーダチン（Chaussée D'Antin）には立派なHôtelを設けまして現時の名士を招待して其藝術を發揮致して見せたものです。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

でギルマルド孃は非常の慈善家で一方藝術家を助けて勉强さしますと又一方貧民を救ひました、年々プリンスドスビセ(Prince de Sovbise)から新年の進物を貰つて居ました。一度『本年は金で下さい』と願ひますとプリンスは六千リーブルを贈りました、すると孃は其近傍の貧民に向つて之を皆與へました、此美擧此藝術があると同時に社會に勢力を張つて隨分其氣隨氣儘もやりましたとのことですから革命は此ダンスの女王をして其得意を失はせました、七十三才で貧乏に死しました、其財產は六十萬リーブルで賣買になつたと申します。

田舍向のダンスの中には、ゼ、ラウンド(The Round)が最も古き社會的大勢で致しますダンスです、此ダンスには誠に自然的な所があります、之は野原で致すダンスでして其內にもメイダンス("Maïades" 又は May Dance)と申すのは昔より流行致したもので今でも仲々盛に行はれる所があります、此メイダンスの歌はカレンダイイア(Calenda Maïa)即ち「春の女王」と申すのです、で此ダンスは希臘の起りでありまして、ギリシヤの處女等のダンス致したものです、此ダンスは右から左りへ廻りますのです、リモシンのメイダンスは結婚のダンスに進化したのもあります。此は無數の人でダンス致すのです、プロメネード"Promanade"と申すダンスも亦多數の人でダンス致すのです、皆喜びのダンスです、今でも伊太利のサルデンアの田舍では面白きラウンドダンスを農民の子女が致して樂しん

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

で居りますとダンシングの歷史家ガスト、ヴイリヤーが申て居ります。

ダルマテアにはコローと申す田舍ダンスがあります。コローは輪と申す意味です、男女入り交つて輪を形つてダンス致すので、奇妙にも男子が自分の傍の女の手を取らず次の女の手を取つてダンス致すそうです。ルーマニヤでも此ラウンドと申すダンスはホラ“The Hara”と申す名の下で行はれて居ます。バリバイプで音樂を奏してダンス致すのです。

ブールレーBourréeはアウヴェルンのダンスです、ラウントの一種でしてヴヒエンナ地方古くよりの平民的ダンスです、之はメデチ、の全盛時代には上流社會でも行れましたダンスです、尙カタランと申すダンスも一寸靜かな幽美なダンスです。

フワランドール(Farandol)は南佛國のダンスでプロヴエンス及ルシロン地方には今でも之がダンスされて居ります、其外我邦の盆踊の如くマダカスカルにもニユーベブライデスにもダンスがあります。

西班牙のダンスは大古の遺風を留めて居ます。モーリス人のダンスが最も多く殘つて居ます、彼のフワンダンゴー(Fandango)と申すダンスは最も人々の心情を動かすダンスです、『ボレロー(Bolera)は醉はしフワンダンゴーは燃やす、』

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

輕快で活發なるボレローは古きダンスではありませぬ、十八世紀の終りから始まつたものです。之は二人でダンス致すので五部に分れて居ります、バセヲー又はプロメネード、デフェレンシア、トラヴェルシヤ、フワイナレー、ビエンバラドー、*Paseo, Differentia, Fraveria, Finale and Bien Parado* 舞臺でダンス致す時は數個の二人でダンス致します。

セギデラ(Seguidilla)は古いダンスで仲々有名なダンスです、『私の心は汝の胸に飛びました、汝は其羽を切りましたから其處に止つて居ます、それで今は愛されて居ますから何時迄も其處に居るでせう』とはセギデラスのダンスの歌です此樣な歌が澤山にありまして西班牙人は至る所でダンスして居ります。

昔のメイダンスは當今でも存在して居ます、伊太利のタランテラは大蜘蛛に喰ひ付かれた時に疲勞する迄ダンス致せば癒ゆると申すダンスです、其他印度南洋諸島にも各ダンスがあります。

近時のダンス

ウヲルツ(Walz)千八百二年代に流行致し、ヴヲルタ(Volte)はヘンリ王第二世の時代に始まつたものです、ウヲルツは一七九五年獨逸から佛國人が取つたものです、獨逸には四百年間も在つたのであ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ると申すことです。

ガロップ(Galop)は巴里人が一八百三十年代に好んだダンスです。ハンゲリヤ國が此ダンスの生れ場所だと申して居ます。千八百十五年後から此ダンスが認められたのです。

一八四四年頃にはウヲルッガロップが衰へましてボルカ(Palka)が流行して參りました。ボルカの採用された爲めに歐洲のダンス界は革命が行はれたのです。之が爲めに中流及下層社會にダンスが流行致すことになりました、ボルカは始めボヘミヤから流行して參りました、其からヴェンチ、バテンそれから巴里に來たのです。

カントリーダンス(Conntry Dance)は多血的でウヲルッは(The Wolz)狂氣的でボルカは(The Polka)脈管的で情慾的ガロップは(The Galop)膽汁的でありますさ。

當時のダンサーの王はマルコヴスキーでした、質に勢力を持つて居たものでした、ボルカの名優セレリアスが衰へた時に頭を上げて巴里の社會を鳴らしたものです。

那翁第三世より最近に至る佛國のダンス

クヲッドリール及ヴエース(Quadrille and Volse)は私人の宴會で用ひられたダンスです(Volse)の中

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

には Polka, Berline, Pas de Quatre など申すダンスが含まして居ます。クヲットリーには十八世紀末頃より用ひられて居りました、即ち田舍ダンスの名の下に (Country Dance) イムペルアル、クヲッリール (Imperial Quadrille) は十九世紀の中葉一八五九年巴里のダンス專門家が發明したものです、併も其後は衰へました、佛國第二帝國時代には大舞踏會が盛でした、コルケーは當時のダンサーに有名なるものでした、然れど千八百七十年の巴里の市が獨軍に占領されまして一時ダンスは跡を絶ちました。

バレット舞踏と近世劇場ダンス

ロシニー及メーヤビーヤ (Rossini and Meyerbeer) の下にバレットダンスは一層表現的且詩的になりました、一八四一年にカーロッタ、クリシー Carlotta Grisi (女)はバレットで名聲を博して居ました、ラセリトー (La Cerito) は彼女の藝術で社會を魅しました。

レヲンチン、ボーグラント (Leontine Beaugrand) は總べてのオペラ學校を卒業して Guillaume の第三幕のトリヲで一時に名聲をあげましたが一八六五年にはフヒヲレッチー及フヒヲレー (Fioreti and Fiore) が社會の人氣を集めました。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

千八百八十年代にはスブラ(Mlle Subra)孃がフワンダンゴーをオペラに演じて喝采を博しました。此頃よりオペラダンスの流行したのです。スブラ孃は最近に至る迄其地位を巴里で保つて居ました、バレットの作者としては、ヌイッター(M. Nuitter)が最も有名です、ナムナのバレット The Grand Ballet of Nomouna の詩は彼の作です。

ペチパスのダンスは(Petipas)酔はせ、リタ、サンガリー(Rita Sanglli)は魅し、スブラ孃のダンスは驚く計りです。

數年前迄はバレットダンスは非常な人氣でしたが今は衰へました、近時はバリソン姉妹(Barrison Sisters)マーチンス(Martyns)及びエグランタイン(Eglantine)其他のダンサーが單純なるダンスをして勢力を持つて居ますが佛國では倘ほクラシカルダンスが仲々貴ばれて居ます、彼のサロメのダンスは實に忘れがたいダンスです。

英國のダンス

最後に英國のダンスを少し紹介して見たいと思ひます。古い所は餘り長くなりますから抜きまして近世の所だけを。英國にもメイダンスは種々變化しては入つて居ります、蘇國及び愛蘭にもカントリ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ーダンスは盛んに行はれて來たものです、而して巴里の有名なダンサーはヤリトー、ウエストリス、グリシー、など英國に來て其妙技を示して居ります、ホルトン孃(Miss P. Hartorは)千八百四十年代の花でした。

チグ(Jig)と申すダンスは英國殊に愛蘭で盛に行はれる面白いダンスです、一三〇〇年頃からあつたさうです。

ホールンパイプ(Hornpipe)は英國產のダンスです、ヴァイリンでダンスするが最も適して居ります。

リール、フリングス(Reel and Flings)は英國產のダンスです。

オリヴワー、デールトスミスはダンスを好みました。ヴィカー、オヴ、ウエーキフヒールドにはダンスの事が澤山あります、ミネエット及ガヴッタは上流社會に行はれましたがメーポール、などカントリーダンスは平民的に一般に行はれるダンスです。コチリオン(Cotillon)も御所の舞踏會では十九世紀中葉に盛んでした。

プリンセス、ヴィクトリアはダンスの極上品にお出來になるお方でした、女王とおなり遊ばしてからもクヲッドリールをお始めになつたことがあります、(大舞踏會で)又ポルカもランサースも共に其盛時を英國女王の御所に持ちました、併しダンスの盛衰は佛國と略ぼ同一經路を辿つてをります。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

以上はダンスに就いてざつと紹介致したまで誠に粗末なものです。今日歐米ではダンス專門の劇場は極く少ないやうに承はつて居ります、ダンス、バレットダンス又はパントマインは衰へて居ります。只米國ではダイムショー（小劇場）我が寄席の如き所で一幕宛演せられます、英國ではミユーヂックホールで同じく一幕づゝ他の物を演せられます。其他は外交場裡及び上流社會の舞踏會でダンスさるゝのです。現時の所では演劇及歌劇に壓されて居ますが又漸次盛んになるかと存じます。是は歐米今日の實際でありますが身體美を發達せしむる教育として殊に我が日本女子の如き屈座の習慣の結果と致しまして姿勢の不完全に發達して居る者にはダンスを習ふことが最も必要であります。日本の舞踊が舊慣の日本風に必要でありますが如く今日活動的日本女子にはダンスは心身を活潑輕快に致しますから學ぶことが必要です。其身體動作を美化する上に又手足の藝術として必要なものです、日本人にも完全に近いダンサーを持つやうに成つた事は實に喜ぶべき事で御座います。殊にこの六月には日本で始めてのバレットダンスの試みが我が帝國劇場にあるはずです。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

きれぐ

八木さわ子

夕

むらさきの雲のたえまを
沈みゆく夕日のあえぎ
あるかなき光の中に
天地（あめつち）はかすかになげく。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

大空はゆめにひたされ
はなやかに星もにほへば
あるかなきなげきの中に
わが魂（たま）はかすかにふるふ。

海

山にしてわれの望めば
はるかなる目路のかなたに
わが海はさわぎてありぬ。
かすかにも目路はるかなる
遠海の波のうねりよ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

鉛色にも日はかゞやきぬ。

夢

かくて
われはいと高き雲に座して
大空を驅けてありし
わが衣は白妙にかゞやき
我が額は美しき
冠もてかざられてありぬ。

いと尊き聖母は
わが手をばやさしく取りて
よき子よ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

汝はよき子なれば
わが榮えの座に伴ひゆかん
かくこそのたまひしか。

舟

はてしなき大海原の
遙なる波路をこがれ
川の瀬の水のまに〱
下りゆく舟やわが舟。

ひたぶるにながれ〱て
はるかなる波路の末の
幻（まぼろし）のうつゝの海に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

漂へる舟やわが魂

指

いと細う
あはれたほやかなる
君が指(をよび)よ。

かくて日毎
君が繰り合ふ
ロザリの珠は
いやなめらかに
なりて行くらん。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

かくて君に
囚はれしわが心
あはれそがこゝろ
そも如何に
なりもゆくらん。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

動搖

菅原初

美津がこゝの某私立學校に職を得て、今の生活を初めるやうになつてから、もうかれこれ一年近くなつた。今ではもう幾分か事務にも慣れ、多少人にも慣れてきたので、さうにも思はなくなつたが、こゝへきた當座はまたとなく寂しく、わびしかつた。

今でも當時の光景がありありと眼に浮く——初めてこゝに着いたその夕、名も知らぬ街の宿屋で夕食をしたとき、たつたひとりの寂しかつたこと——それから夜更けて窓近くの梧桐の葉をたゝく

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

時雨の音はこの上もなく彼女を淋しがらせた。

彼女は初めて經驗した職業の手ざわりに、若い涙を流しながら、別れてきた友と、東京のみが戀しくなつかしく思はれた。

最初美津が南のK市から上京して、××校に這入つてから四度の春を迎へた東京は、彼女にとつて離るゝことの出來ない愛人であつた。彼女は東京と別るゝとき、親しいいとしいものと別るゝ涙をもつて北へ去つた。後髮引かれながら東京を去つた。

それはしめやかに降る秋雨の夜であつた。濡れた、アスファルトに灯が映つて、一しほ街は華であつた、美津を送る一群(ひとむれ)の友は美津をなかにとりまきながら、わいわい言つて電車でU停車場に向つた。美津はくつきりと當時の光景を覺えてゐる――アゝ、その群には、Hも居た、Kも居た、Sも居た、Yも、Tも、Iも………

美津は別れた友がなつかしく、益々戀しくなつてきた。身も、心も友の前に投げ出して泣きたくなつた。泣いてもらひたかつた。

美津はこのやる瀬ない想をその度毎に、長い手紙にして東京の友へ送つた。淋しいながらもせめて手紙をかくうちは幾分しのぎよかつたので。そして情緒の流れた手紙をもらふのが何よりの慰めで

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

あり、うれしかつた。

美津はこの感情を驅逐するためによく友にペンを執つた。かうして、東京と、U市との間にはセンチメンタルな手紙がよく往復した。

初め、美津が北のU市に職を得て、行くといふ噂が彼女の仲間に傳はつたとき、或る者は意外な顔をした。或る者は驚いた。殊にSなどは口を酸くして之を止めた。

然し美津自身ではかう考へた。職業としてはむしろ容易である。そのためにすつかり自分を囚はれてしまうやうなことはあるまい、自分の仕事し得るべき、私の所有し得る時間は決して少ないもんじやない、と考へた。そして心ひそかに私の仕事に對する時間のプログラムを作つて見た。それになほさし當つて獨立して行かれるといふことの愉快が大分手つだつてゐた。

職業もつ片手で出來る丈の研究を續けるつもりで作つたプログラムは軈て實際にやつて見て、その半分も遂行することの出來ないことを知つた。

美津は多少心に悔いた。

どうにでもして東京に居たら――と脣を嚙んだ。

散漫な田舍の空氣は、美津の身體一ぱいに倦怠を感じせしめた。打つてもちつとも反應のない田舍

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

街の氣分がつまらなくなつた。

美津は毎日欠伸しながら生きた。

美津はまたよく同僚に會話をして見た。

けれども、どこまでいつたつてくつきりかち合ふやうな氣分には一度だつて出合はなかつた。いくらこちから打解けるやうに話して見ても、向ふの靈が遺憾なく流れ込んで來るやうなことはない、人間の皮と話をしてゐるやうでつまらなくなつた。世間的な、會話に飽きあきした。それに餘りにセンチメンタルを投げると笑はれる――あゝしてよく物足りなく感じもしないで生きて行けることだと美津は不思議な感じがした。そしてその内的生活を疑はずには居られなかつた。

午後四時退出の鐘がけだるさうに控所のすり硝子に響くとき、思ひ思ひに退出する。

或る日いつもの通り、例刻に同僚と一所に出た美津は赤い夕陽(ゆうひ)の裡(うち)を歩きながら、長い並木路を話しながら前方を見ると、同僚のUと、Lとが之も話しながら歩いてゐる二人の黒い着衣の肩を秋の入日は赫と照りつけてゐる。

柳の並木はどこまでも、どこまでも長く續く。

ふと美津の頭には、『平凡』といふ字が楷書でかゝれてそれが見る見るうちに大きくなつて、頭一ぱ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いになつたやうな氣がした。そして瞳には柳の並木と二人の黑い脊中が映つてゐる。何の逸れたこともない、特徵もない、平凡の地盤に制裁の手で植えられた、並木の暗示、平凡の象徵のやうに思はれた。秋の入日の射る同僚の脊中に同じ運命を、見出されたやうな感じがして、美津は哀しかつた。

柳の並木路は長く、ながく續いた。

美津は自づと首を垂れて步んだ。

同じやうな日が續く。

無事と言へばぶし、平和と言へば平和と言へないこともないが、美津には控所全體が大きな倦怠(アンニユーイ)であつた。

時には空き時間にペンを走らせて見るけれども思ふやうに考へがまとまらなくて、遂い鉛筆を削つたり、新聞に讀入つたりして、つまらなく時間はすぎてしまうのが多かつた。

こんなときには、お天氣さへいゝときにはいつも郊外へ出た。

地面に充分な地方のことで、運動場は隨分と廣かつた。

春三月殘りの雪が斑らになつて消えるとき雪の下に嫩(わか)い綠りが既に首をもたげてゐる。雜草の漫(はびこ)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るのを防ぐつもりで植えられたのだが一ぱいに青々したクローバの色は見るからに快よく、刺戟を與へる。

四百と群る生徒を、一萬坪のグラウンドに撒くと、まばらでむしろ寂しい程である。

永い間、廣く、冷たい雨天體操場に冬を越した群が、暗い室から明るい、春の日の照る、暖かい野に嬉々として遊ぶ乙女の歡喜の瞳。それは詩にもなれば繪にもなると美津は思つた。

萠え初めた寸に足りない若草の綠の上を唱う聲が撫でゝ行く。

天地に漲る日の光りも、あらゆるものに憧れ渡るといふやうに、うらゝかに照らす。

控所のくさ〲した空氣から拔けて美津はいつもこゝに出た。そしてこゝで思ふさま、若い空想の翼を擴げた。

或るときは美津ひとり、クローバの上に座つたまゝ紺青の上に薄絹を掩ふたやうな、輕い空の色を眺め入つてゐると、葉陰から、ちよろ、ちよろ、よよろと蜥蜴が出てくることがあつた。あの小さい、黑い瞳に、傍に人の影が映つたと思つたら、またちよろ、ちよろと葉陰に隱れた。小さな動物のちよろちよろしたその小さな擧動、美しく光る五色の皮膚――美津はこんなことで、くさくさしたことも忘れて行くことが出來た。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

轉がるやうな、白い雲が夏の野に起つて、純白の布で作つた帽子を被つた群を、夏の太陽は白く照らす、遊びつかれて、汗ばんだ小女の横顔は甚だデリケートに美津の眼には映つた。

長い夏の休みも過ぎて、グラウンドを照らす日の光がだんだん、美津の眼にはオレンヂがゝつてきたと思ふとき、中庭一つ向ふの、棟から洩るゝ歌ふ聲も、樂器の音も、朗かに聞えて、高い校舍の屋根からは、打てばカンカン鳴るやうな氣圍がつゞいてゐる。美津はアヽ秋が來たなと思つた。

美津は還つてゆく、季節のさまや、外光の變化に興味をもつてきた。

また美津は、自分になづいてくる生徒が可愛くなつた。

敎室で海老茶の袴をはいて、講議に耳を傾けてゐるあどけない小さい娘が、帶をしめて街を歩いてるのによく合ふことがあるが、かう幅の廣い帶をしめた姿を見ると、もう、胸のあたり頸のあたり立派に女になつてゐるのを、美津は面白く感じた。また發達の盛んなときだけに、僅か一年たゝぬ間に、まじまじと大きくなつてゆくさまも美津には興味があつた。

美津は自分の趣味性からして、學生時代からの多少の讀書家であつた。新らしい頁(ページ)の香をかぎながら書見するのが樂の一つであつた。それが終ひに習慣的になつて一日でも頁の香を嗅ぎないと自ら荒廢の感じがした。この故でよくひまをぬすんで活字に親んだ。

Geraldine Farrar.

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

美津はまた會話がすきであつた。

よく氣の合つた友達と文學談をもち出したり、感想を聞いたり、聞かされたりするのが娛樂の一つであつた。そして一旦話に油が乘つてくると夜を越しても話すさいふ風であつた。

こゝへきてからそれが全く出來なくなつた。

美津は東京に新刊の書を注文して僅かに讀書して慰めてゐた。

かうしてかれこれ一ヶ年近くなつた。

けれども東京を懷かしむ、火のやうな念ひは中々に消えさうもない、時おりに風に煽られて益々その炎を擧げるばかりである。

美津は時間と、財布の許す限りよく東京に出た。歸り路の寂しい夜汽車の影を想ひ乍らもやつぱり出た。然し汽車が寂しいU市の停車場に着いたときには、流石に溜息を洩らすのであつた。

美津の心は始終動搖してゐる。

『どうかして都に生きたい。思ふ存分に自分の仕事がして見たい。自分の仕事に生きてゐるやうになつたならどんなに……』とかう思はないで居ない日は無かつた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時には美津はかうも思つた。

自分は餘りにあきらめ過ぎて居るのではないか。あまりに引上げ方が早いではないか。まだまだ自分は若い。

美津の心は且つ沈み、且つ昂つた。

讀書に餘念なかつた美津が稍疲れた眼を活字から離したとき、ついこの頃張り替へた南の緣の障子にぱつと日の射してゐるのを見た。

明るい反射は室内の空氣を陽氣にはしやいだやうに見せてゐる。美津はしんみりした氣分を傷けられたやうな氣がして、何となく落ち付かれなくつて、くつきりとその文章を味ふことが出來なかつた。

四ッ辻で吹いて居る飴賣の笛の音はいつまでも、いつまでも單調な音に流れた。

美津はいつになく氣がそはついて、落ち付かれなかつた。聽てばたと頁を仰せた。そして室内をぐるぐる歩き廻つた。鴨居のところにまで鴨居にとゞくやうな伸を一つして、傍にあつたけふの新聞を

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

どり上げて線端に出た。

田舍街の町はづれの彼女の宿は、秋は殊にも靜かであつた。

家の軒からは直ぐ蒼い空が續いた。巨人の持つた大きな刷毛で紺青をべつそり厚く引いたやうな濃い色は澄み反つて打てはカンカン鳴るやうな、朗かな氣圏は一ぱい漲つて、渡る鳥の影一つさへ見えぬ。

中秋の太陽は凡てのものを朱色に染め盡さねば止まぬというやうに、强く照りつけてゐる。美津は熱い日の反射を片頰に受けながら日の照るなかで新聞を讀んだ。第一頁を大きく開くと、そこには文展の記事で一ぱい充されてゐた。暫らく紙面に眼を曝してゐたが、聽てだるさうにぱつたり新聞を落した。

笛の音はなほ續いて聞えた。

美津はこの音を聞きながら、着物の前をうちはたげた、やんちやな兒や、鼻汁垂らした薄汚ない子供の群がぞろぞろ集まつて來る 田舍町の 樣がありありと眼に見えるやうで、それがわびしく思はれた。

美津は暖かに光を背中に受けて、うと〳〵した氣間になつていると、配達夫がきて二枚のハガキを

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

投げ込んでいつた。まだ所名も見ない内に、字の特徴で一枚はKからだと直覺した。もう一枚はA市のMからで、それはこの間問合せて置いた文展行の返事であつた。美津はこの返事をみて妙な顔をした。そしてもう一枚のハガキをとり上げた。

お主ふたりは今度文部の繪を見に來るさうだと言ふことを本郷のYさんに聞いた。さうなりや無論、宿は俺の家、妹と女中と三人の氣樂な生活。きつと待つてゐる。若し之が間違つたら、もう友達ではない。

美津が初めてKを知つたのは、××校時代であつた。二人が寄宿で落合つてKは美津を知り、美津はKを解してから、どつちから親交の歩調を進めたか解らないけれども、二人は互に心のどこやらに共鳴を見出した。

やんちやの最も盛んな××校時代のKとはよく二人して喜劇、笑劇の幾幕かを作つた。

箒星のやうにして來たKは、一ト月とたゝぬ間にまた箒星のやうに舍を去つてしまつた。Kを失つた舍は急にひつそりしてしまつた。アンニュイな舍の空氣を、沸かして活かしてゐたのはKであつた。美津はこの愛すべき道化役者の去つたのを悲んだ。

美津は時おり田甫の近くに住んでゐるKを訪ねていつた。

一時Kが大阪に歸つたとき、よく『西の街』からの消息がきた。
その後、Kは××社に這入つてしまつてから暫らく交渉はとぎれた姿になつたけれども決してKのことのみは忘るゝことが出來なかつた。たとへどんなときでも、どんな場合でもKのことは不思議な位に忘れてしまうことは出來なかつた。はらからの名を上ばない夜でもKの名を忘れたことはなかつた。音信のない中にも溫かい情緒は流れてゐた。そしてKの噂は活字で間接に聞いた。そして、いつもKの完成の日を祈つてゐた。
この夏から、秋にかけて東北地方に長い旅を續けてゐたKの紀行文は、××新聞に出てゐた。美津はいつもそれを面白く讀んでゐた。
先達てKが旅行先のA市で私の親善なMに會つたとき合作の手紙がとゞいたときなぞは、昔の頁が暗を廻る松火のやうに鮮かに浮んだ。そして『三人一所になれないといふことがこの上もなく寂しかつた。』
今美津がKのはがきを手にしたとき、Kの好意のはがきを手にしながらも直ぐに筆とる勇氣は出なかつた。
この間から上京の問合せをA市のMに打合せたが、Mの都合のいゝときには美津に惡かつたり、こ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

つちによかつたときにはMが出來なかつたり、あつちがどうの、こつちがどうのとすつかり興醒めのしてゐる矢先、けふのMのはがきではもう全く中止同樣な返事がきたので、先達てMも美津の方も好都合にゆきさうなので、この旨直ぐ本郷のYに知らせてしまつた。そしてYがまた、直ぐKに知らせたと見える。

Kにも、Yにも直ぐに筆執る氣にはなれなかつた。心から待つてゐる心を思ふといよいよ筆とるのがいやであつた。

Kのはがきから眼を前庭の方へ遷した美津はふり返つて咲き亂れたコスモスを見た。そしてその根本に櫛(くし)らしいものが落ちてゐるのが見えた。美津はそこにあつた下駄をつゝかけて庭に降りた。そして腰を折つて拾ひ上げたのは雨にたゝかれ、泥にまみれた後ろ櫛であつた。さう、さう、この間考へ込んで、柱にもたれたまゝつんぐり、つんぐり悲觀してたとき、どうしたはずみか、髮を辷つて緣で一つとんぼを打つて、向へ飛んで行つてしまつたまゝ、ついそのまゝに忘れて居たことを思ひ出した。美津は自分乍ら、少し可笑(おか)しくなつた。

そこへ宿の小娘が電報が參りましたと言つて一通を渡した。

『ケフ、ニジソノチヘタチヨル』

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

發信人はMで、途中の××驛から引いたのだ。だめを押しながら、一昨日、Mに出した手紙にこんなことを書き込んだ、『文展が最後の目的じやなかつた、――會話がして見たかつたからだ。あなたに會ひたかつたからだ。』この手紙がMの心のどこかに引つかゝつて、遂々この電信になつたんだと考へた。あまりに手近に飛込まれて、一寸驚いたが、忽ち嬉しさがこみあげてきた。

美津は緣に上つた。そして時計を見た。その汽車までにはまだ餘程時間があつた。

少し、早目に宿を出た美津は歩きながら考へた。

今私はあなたを迎へん爲め歩いてゐます。殆んど眞晝に近い日の光は空一ぱいに漲つて見る眼も眩しい、赤死に反射して居ます。屋上花壇のダーリヤの花も赤く顫へてゐます。

今時計はIの字を指してゐます。あなたの汽車はもう一時間の後この××驛に這入るのです。感情に強い丈、またそれ丈心臟に弱い私はこのときを想像して、胸に一皷動を覺えぬわけにはいかないのです。

ダンヌンチオの死の勝利の主人公は、己の愛するものゝ歡迎のために、道々に花を撒いて、あらゆ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

る美しさと、熱誠とを以て之を、祝福したといふじやありませんか。今私が、私の好きな、友達、敬愛してゐるあなたを迎ふるために、そんなまねは出來ないけれどもせめて、私のこの胸も、心も、眼も、手も、すべてを捧げて迎へたい。

Mさん。

二度までもこの街で、この停車場にあなたを迎へやうとは更に思はなかつた。全く私は意外なのです。

この前、こゝへきて下さつたときの私は、不幸な悲しみのため憂ひ悶へてゐました。折から在京中のあなたには知らせはしましたが、まさか尋ねてきて下さるとは思はなかつたのです、勿論冷なかたとは思つては居ませんでしたけれども、まさかはるばるこゝまで尋ねて來て下さるだらうと迄は思はなかつたのです。全く思ひがけはありませんでした。私は自ら辱ぢました。そして心ひそかにあなたに感謝したです。——然しこの時からしてなほ一層、頼もしさと、心強さと感じてきたんです。身を動かして來て下さつたのが、この上なく嬉しかつたのです。悲しいことも忘れて嬉しかつたのです。

二十分過ちました。

いよいよ近くなりましたね。今あなたの汽車は×××驛間近く走つてゐることゝ想ますそら、もう

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

薄すら白いものが降つている××山の左に、××湖の水が白く光つて見えますでしよう。Mさん、あなたの大きい、黒い瞳をじつと凝らして見て下さい。情深い輝く眼ざしで。

『大變、順調に話したね』

かう言つて、美津は眞面から灯の光を受けたMの顔を見た。そして、先づ自分が先に掴みながら、

『之れ、どうなの？』

と言つて餅菓子をすゝめたが聽て思付いたやうに、

『さう、さう、Mさんはあまり食べなかつたんだつけね。甘いものは』

美津は傍にある林檎にナイフを當てた。

『嫌じやないのよ』

『おや、いつから好きになつたの、だつてあの時分はあまり食へなかつたんじやないの』

『あの時分……』

と小さい聲で言つたMの語尾につけて、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

『覺えて居ますか』

と美津が言つた。

美津が始めて西の國の市から上京して、××校の寄宿に這入つたその夕、美津の室に遊びにきて、窓際で讃美歌をうたつた人があつた。天地のすべてのものに憧れ渡るといふやうに眼を細くしたその表情、音量の豊かな迫らない聲、そしてクロースの表紙持つ手は白かつた。美津はうつとりと聞きされた。暫らくして美津はこの人の名がMであるといふことも知り、そして國も、學校も同じくしてゐるといふことも知つた。

Mとはいつの頃から親しく話をするやうになつたことは、美津自身にも、はつきり解らぬけれど、Mがよく詩を作つたり、短かい歌を作つたりして美津に見せた。また美津はこの人の居ないときでも机の上にあるスケッチブックをそつと開いて見たりするやうになつた。そして話をしたり、一處に遊んだりしてゐる内に美津はだん〳〵Mが好きになつた。なつかしくなつた。その人が居ないと何だかひとりが寂しくてならなかつた。

Mはまた何一つ世馴れない小供のやうな、美津を妹のやうに可愛がつた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

その夏の初め、美津は心臟を惡くして順天堂病院に入院したとき、Mは他の友達ともよく連れだつて來たが、日曜などにはきつと一人で訪ねてきた。そしてその時おりの草花を持つてきては美津の枕元に挿した。

或時なぞは大きな五六本の白百合をさげてきたこともあつた。そして看護婦からもらつた度盌のついた玻璃をもらつて之に挿して暫く眺めてゐたが『藥瓶じや殺風景ね』と言つて次の日には青磁の花瓶をもつてきた。

百合の甘つたらしい、高い香が、灰色の壁の病室一ぱいに充ちたときは、Mは『高い香だこと、惡いでしようね』と言つて窓を開けた。美津にはこの人のなすことすることが好きになつてMの言ふまゝにしてゐた。そしてこの人の言葉も擧動も一つ一つ美津は覺えてゐた。

夏の休みには一所に故鄕に歸つたとき、二人はよく遠い路を往來した。Mの宅は街はづれで殆んど村に近かつた。ikuri の赤い木の實の生つた下では唄をうたう際で美津は畵をかくといふ風であつた。

Mはまた街の趣向が面白いと言つて長い間、カンヴスを携へて美津の家に遊びにきた。

その秋も終りに近い頃、美津はMがだんだん自分より遠退いてゆくやうな心持がした。何だか知らそんな氣がした。その輪廓は朧ろながらも美津には意識せられた。美津にはそれがかなしかつた。

美津は友達に重きを置く方であつた。

嘗て自分に交を呈した友達の一人でも自分から離るゝのは厭であつた。彼女はよく交つて居ながらも何かのはづみで煙のやうに消えていつてしまう友情を思ふて悲んだ。離れゆく友達を思ふてはかなしんだ。

彼女はそれ程友誼に重きを置いた。

彼女は時おりこんなことを思ふことがある幼い時分の友達で今はその死生さへ分らなくなつてゐる昔の友達を思ふては、永い夜などはふとその面影を思ひ浮べて、その友の名一人づゝ呼んで見ては懐しい、哀しい想ひをする。

遠い昔の友達ばかりでなく、近い日に交をした友達で、或ものは既に物故したものもある。嘗ては自分と同じ思想に、同じ傾向を有つた友達が、或は人の妻となり、母となり、家庭に執着して遠ざかりつゝあるのも想つた。

美津は明らかにMが自分を遠退いて行きつゝあるを認めるやうになつた。けれども美津の性質として之を冷淡に考へることは出來なかつた。

美津は友達に重きを重いた結果、仲違ひしたり、感情の行そこねをしたりするのが不愉快であつた。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

また友達に自分を不愉快なものに見らるゝのがいやであつた。

美津は苦しいものを心の一角に抱いたやうな、落付きのない日を送つた。その内にMが卒業の日は用捨なく近づいてきた。Mが卒業も心一ぱいの歡びの言葉を述べることも出來ず、二人は甚だ物足りない別れをしてしまつた。

Mが故鄕に歸つた後も美津はよくMに手紙をかいた。幾度も、幾度もかいた。Mの方からも來ないではなかつたけれども、みんなそれは受動的で、Mの方から進んで美津を動かさうとした積極的な形跡は見出されなかつた。

然も美津はMのことを忘れてしまうことはどうしても出來なかつた、美津自身にもまたこんな氣がして仕方がなかつた――Mもまるで美津のことを忘れてしまうことは出來ないだらう、時おりはきつと思つて居るに違いない――さう、さう忘れてしまはれるもんじやない――こんな感じが美津の神經のどこやらにした。

その翌年の夏、Mが上京して折から舍に居たYに『美津は近頃どうしてゐる』と尋ねたさいふことを後で美津は耳にした。すでに音信さへも不通になつて居たので美津にはこの言葉がなつかしく、悲

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

しく響いた。

その秋Mは北國のA市に職をもつていつてしまつた。

そして翌る年の正月MはA市から上京した。そして、永い間音信不通になつてた二人は、久しぶりで、舍の二階で會つた。そのときMは

『やつぱし會つて見ると誰れよりも一番なつかしい』

と笑ひながら言つた。

その後からして、ちよいちよい、繪ハガキに短歌などかきつけて寄した。

その翌年の一月A市から上京したMは折からU市に居た美津に次のやうな手紙を出した

其後ぶじと聞いて甚だ嬉しく思ふ、思ふと隨分永く手紙をかゝなかつたのね、然しあなたに對する私の心は安心した――恰度姉妹のやうな一種言はれない温味が音づれない時でも、離れてゐるときでも、恰も相接してゐる時と少しも變らぬ心持が通つてゐるんです。あなたの感じはどうか知らないが、私の心持ちは、昔の日よりも冷淡になつたといふことは決してありません。之は私のほんとうの心持なんです。

實は此度あなたも上京なすつたことゝ思つて、上京したらすつかり當がはづれて稍失望しまし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

た。何だか私と同じ境遇に君も這入かと思ふと一寸でもいゝから、會つて話がして見たい。私の心は今頻りに動いてゐる、ね、美津さんどう？　私は明午後の九時の夜行で停車場を立ちます。もし贊成だつたら××驛かどこかまで出て居てくれませんか。それが出來たらどんなに嬉しいか知れない。とにかくMはよき返事を待つてゐます。久しぶりで、實に久しぶりで、話しもしてみたい心行くばかり……

アヽせめてさうして戴けたらどんなに嬉れしいか知れない、近頃私は莫迦に寂しくていけない。どうぞ會はして下さい。よき返事を待つてます、さようなら。

この手紙を讀み終つて美津は思いの外の感じがした、反感を有つて去つたMがこれ程迄情緒の流た溫かい手紙を書かうとは思はなかつた。美津は久しい間苦になつてゐたのがすつかりして、淸々して嬉しかつた。

美津は××驛あたりまで出掛けやうと思つたけれども、どうしてもはづされない用事が出來てゐたので、手紙でU市へ來るやうに言つてやつたらMは素直に來てくれた。そして一ト晩話し明してMは北へ去つた。

この事あつて以來どんなことがあつても週に一度位Mの手紙が來ないことはない、美津もMに筆

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

執らなければ何だか寂しいやうな氣がするので、大に書く。美津とMとの交渉はこの後どこまで發展するか、ふたりのローマンスはどこまで續くか、今そんなことを考へて居はしない。

それから美津は起つて手箱からA市からきたKの手紙をとり出して見せた。

『あのときKさんから讀んで聞かせてもらつたけれども、かうして手にとつて讀んでみると趣が違ふのね……全くKさんて感じのいゝ方ね、』

と言つたが、直ぐ、

『今までKさんのことを、あまり話して下さらなかつたの、何故なの』

と言つてMはじつと美津の顔を見たが、

『それともあなたはSさんのことから感情を惡くした爲めなの、何だかKさんがそんなことを一寸言つてらした樣だつたの』

之までKのことはMにもよく話した、美津の好きなKのことは自然と口から出た。よく話題に上したけれどもまだKを知らないMはいつでもいゝ加減に聞いてゐた。美津も自分が好きだからと言つて丸で知らないKのことを持出す不合理を想ふて、それからあまりKのことは口にしなかつた。Mは

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

そんなことはまるで忘れてゐる。
『だつてそのとき私がKさんをもち出してもあなたはとり合はなかつたじやありませんか、あなたに面白いKさんでも私にはちつとも興味がないつてさう言つてたじやないの』
と言つて笑つた。
『でも氣持のいゝ方ね、若々しくて、憧れて活々として、身も心も伸びのびして……』
美津はまた手箱の中から厚い封筒を取り出した。それはずつと以前、美津が友のSと感情の行違ひからそのまゝ別れてしまつたふたりのゆきがゝりを、K一流の文章で、間に小唄など入れて、戯曲的に作つた面白いものであつた、Sあてに出したのであるが、その後Sの手から美津に還つてしまつた。
美津が面白いところに來ると、わざと低い聲で讀んだり、飛ばして讀んだりするのでMはじれつたがつて取り上げて自分で讀んでしまつた。
それから話しは友達の上に及んでその夜は美津の室の窓は遲くまで灯がついてゐた。
明る日の午後美津は停車場までMを送つた。
『私の方はどうかして都合してよ、安心なさい』

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

『きつと待つてよ、――今一所に行かれる樣だといゝけれど――』

Mはつぶやくやうに言つた。

『KさんとYさんによろしくね……：あなたの電報はYさんまでに引いて置くから、』

『じやさようなら。』

二人は握手して別れた。（未完）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

最近の不平

松井すま子

ねえ、Oさん

世の中はほんとに妙な者よ、私の樣な我まゝ者に聖人になれと言ふのですもの、私は聖人なんて柄ぢやないんですよ。一體今の時勢に聖人なんてものがあるのでせうか、みんな昔の聖人なんてものとは反對の方角に行く樣に出來てるのが今の人ぢやないでせうか、まあ他の人は何うでもいゝとして、私はたゞ私として生きて行きたいと思ふのです。型の變つた人間になんかなりたかありません、私はね、思つた事は明けつぱなしに誰の前でも言はなくちや蟲の納まらない性分なんですよ。感じる事も

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

人一倍に强ければ、それを隱して猫をかぶつていゝ加減な事を言つてることも出來ない人間に生れて來ちやつたのです。自分でも時々困ると思ふんですよ、だけど之が私の性なのだと思や、そんなにそれが憎いとも思ひません。今の男の人なんかには隨分そんなのが有りますよ、そして文壇の議論なんか見て居ると、其方が現代人でいゝ事の樣に言つて有るぢや有りませんか。S先生がよく私の事を文壇で言つたら正宗白鳥さんと小川未明さんをつきませた樣な性分だと言はれますが、正宗さん小川さんは知りませんけれど、きつと感情的でつけ〳〵物を言つたりなさるのだらうと思ひます。夫でも正宗さん小川さんは別に聖人でないと言つて人格がどうのかうのとも言はれないで却へつてさういふ所に文學者としてゑらい所がある樣にも思はれてるぢや有りませんか。私はたゞ女だといふためにそれが惡い事かなんぞの樣に言ひたてられて、隨分つまりませんわね。つまり女といふものは男よりもずつと〳〵聖人にならなければ惡いわけなのですものね、同じ人間で有りながら、男には許されて女には許されないと言ふのはおかしいぢや有りませんか。私正宗さん小川さんがうらやましいさ思ひますわ、假りに私が男だとしたらまさかあんな失敬な物の言ぶりはすまいと思ふ樣な態度で私たちの事を彼是言ふ人が有ります。さういふ人はやつぱり知らず〳〵「女の癖に」といふ女子輕蔑の思想からぬけ切つて居ないのですよ、夫で自分ばかりゑらさうな事を言つて、女には自分等男よりも遙

に多い負擔をしよわせるのが當然のやうに考へて居るのです。それでゐて自分たちは別に相手が女だからといふ譯ぢやないなどゝ立派な事を言つてるのですよ、さう言ひながら、其口の下に女を踏みつけて居る事が語氣の中で裏切られて行くのです。

ですけれど文學や藝術をやる人はみんな私たちの樣な傾きを持つてるのぢやないのでせうか、猫をかぶつて人とつき合つて行くなんて事が不得手な人が多いのぢやないでせうか。さういふ人は、つまり一人一人で仕事をするのが一番いゝのですね、二人三人以上と集まればもう一致しなくなります、結局は孤獨で生きて行くのが一番いゝのですわ。それには一人で書齋の中やアテリエの中で仕事の出來る文學者や書家がうらやましいと思ひます。私たちの仕事は何うしても多人數集まらなければ出來ない藝術なのだから、しやうが有りませんわね。一方感情的な藝術家で、一方どんな人とも調和する聖人のやうな寛大な人にならなくちやならないのだから矛盾ですわ、俳優と言ふものは矛盾のかたまりですのね。

文藝協會以來よく私の性質が問題を起す〳〵と言はれますが、それぢやさういふ相手になる人はみんな完全な聖人ばかりで、私一人が惡いのでせうか。隨分世の中は妙なものですわね、私がたゞノラをし、マクダをしたばかりで別に何にもしないのに、私より上に立つて居た人が、これぢや何だか此

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

團體の中心が私のやうになつて不快だと思つて何うかしたとしたら、其時私は何うすればいゝのでせう、そして其人は私から問題を引起した樣に言ひふらして、罪を私に着せてしまつたぢやありませんか。私は女だから、後輩だからと思つてだまつて居ると、いつかそれが世間の定論のやうになつて了つたぢや有りませんか。近頃の事だつて同じですよ。此前の男優退座の時は、私が松竹に誘惑されて誠意がないとか何とか向うから無實の罪を着せて問題を起して置きながら、其實それよりもずつと前から男優のSはもう、美術劇場の某女優に消息を通じて教へになんか行つて居たぢや有りませんか、男優のKはもう其方へ一緒になると云ふ内約をにほはせてゐたと言ふぢや有りませんか。それがいざとなればみんな私から起した騷になつてしまう、私がそんな不利の地位に立つて世間からいろ〳〵言はれても、內部の人で私の爲に辯護して呉れるものは一人もなくて、私が不平を言へば高い木は風に觸られるものだと思つて我慢せよと體のいゝ事を言つて押しつけられてしまひます。女はさうまでしてだまつてゐなくちやならないものでせうか。傍の人は何年でも我慢してゐられませうけれど、彼是言はれる當人の身になつて見ると隨分つらい事が有ります、夫も我慢して敵からの的になる時はいつも私が引出されて、そしてちよつと私が何かすると差出た事でもする樣に言はれて、隨分つまらないぢや有りませんか、私はたゞおとなしく敵の矢おもてに立たされて、せい〳〵舞臺の上

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

では働いて、そして何にも言はずに引こんで居ればいゝのでせう。隨分つまらないぢや有りませんか、夫もつまりは女だからでせう、私はすべて私のする事を男として考へて貰ひたいと思ひます、男と同じ自由を與へ同じ尊敬を拂つて見て貰ひ度いと思ひます。

最近のMといふ女優の退座問題だつて、初は大變いゝ人だからと思つていゝ役を振つて、せい〳〵早く評判の立つ樣にとS先生なども相談してゐると、大阪へ行つて同じ家に寢起をして見ると、まるで樣子が違つてるぢや有りませんか。元々經歷もある事でせうが、とても私たちと一緒にやつて行ける習慣の人ぢや有りません、お酒によつぱらつて一時二時に歸へつて來ると言ふ樣な事は私は大嫌です。私がやる以上、私は私の主義で行きますから私の下に立つ以上夫に合はなければ去る外はないぢや有りませんか。夫をやれ、あれが善いの、これが惡いのと言つて、男の人などが味方に出て騷を二重にも三重にもするのだからたまりませんわ。男と言ふものは、くだらない處でちよいと親切ぶりを見せたがるものね。そんな事でMが退座とでも言ふとまた例によつて私が惡いからさうなるのだと言つて相手は世にも珍しい淑女でゞも有る樣なことを言ふ、夢にも知らない出來事までまことしやかに附加へて言ひふらされる、馬鹿々々しくてお話しになりません。私はもう〳〵私だけを信じて自分の行く道を行ける所まで行つて見樣と思ひます、違つた人は違つた道を行く外は有りません。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

N氏のマニユスクリプト

神近市

その日私は同僚の者の妻君が盲腸炎を煩らつて居たのが亡くなつたから、役所の歸途に小石川の奥迄行つて來たので、家についた時にはもう電燈がついて居た。

沓脱に居て靴を拔いで居ると、四つになつた虹一をさきに立てゝ妻がどす黒い顏を出した。

「さあ、おかへんなちやい仰有いよ」

「お父さん、おかへんなさ――い」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

食事を、してるらしい芳子迄が、茶の間から云つて居る。
「あなた、今日はね秀子さんが入らしつて、たつた今まで待つてゐらしつたんですよ」
「さうか、ぢや夏休みにはこつちに來て居たんだね」
「えゝ、それが何か面白くないことが有つて、もうあちらにはゆかない樣なこと云つていらつしやいましたよ」
妻は幾分はづんで來て、もう何かの理由を臆斷して居る樣な口吻を顔に出して居た。

秀子と云ふのは中學時代に友人だつた男の妹で、四五年前鄕里の女學校を卒業して東京に出て來て以來、監督者と云ふ位置ではない迄も私は兎も角その行動の大部分を知つて居て、いろ〳〵な相談にも預つて居た。ある專門學校をこの春卒業して田舍の町の女學校に雇はれて赴任して行つたのであつた。
丁度卒業頃になつて大分評判になつて居たS社に關係して居たことが學校に知れて、校長と可成の間爭つて居た、が仲に立つ人が有つて到頭正式にS社を退いて、當分は地方に出て働くことゝ云ふ條件で卒業した。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

「追放と云ふ格ですよ、でもね折角行くからには一年と二年は働いて來ますよ、怠けてばかり居りましたから、今度こそみつちりと勉强もして又こつちに來ます」

二三日うちに立つと云ふ時に、妻がお別れにと云つて夕食に招いた時に染々私にさう云ふた。勝氣な情の强い處のある人で、濃い眉の下の大きな光る眼と、閉ぢればきつかりと結ばるゝ大きな口とが無暗に意志がつよくて、何處か男性的な處のあることを示す丈でなく、時とすると女には出來ない事でも平氣で云つたり仕たりするので妻などは

「秀子さんはほんとに男に生れそくなつた方ですわね、あの方が男だつたらほんとうに申分のない立派な人でしようにね」

などゝ暗に普通な意味のはねつかへりのお轉婆だと云ふことを諷して居つた、それでもその一面には細心な深切と、物にこだわらない無邪氣なところがあつて、私は若くて死んだ亡友の記憶をこの人に辿つてなつかしいものに思つて居た。

迚も長くは續くまい、とは私丈でなく上野に見送つて行つた可成り多い友人や知己の皆が、一樣に思つたことであつた。然し四五六七とたつた四ヶ月で止して來たとは可成意外であつた。

でも大方S社に關係して居た頃に書いた物でも禍して、止さねばならなくなつたのであらうと私

は直に思つた。

「何とか話があつたか、何うして止したのだとか、これからどうするとか」

「いゝえ、何だか私に云ふのがいや相で、あなたの歸るのを可成待つていらしつたんです、これからの仕事はきまつた樣なこと云つてらつしやいましたよ、どこか麹町邊の私立の女學校ですつて」

私は凡の事の上に自分を理解することは出來ないと妻に見切をつけて、なまじいな事を云つて却つてつまらない臆斷をされるのをいやがつて、何にも云はないでイラ〳〵して私の歸るのを待つて居たことを考へると氣の毒になつて來た。そしてこれからさきの方法に就ても自分の位置と手が貸せるなら貸して見度いと漫然と考へて居た。

翌日少し早目な晩飯をすまして、若松町行の電車を山伏町ですてゝ、酒井屋敷のうす暗を通りぬけてコマ〳〵した生垣の多いあの邊の道を通つて探し廻つた。通りかゝりの郵便屋の説明で三軒長屋の一番奥の家の門に立つた時には、もう門札も見えなかつた。

十三四のおさげに結つた女の子が取次ぐと、意外な客に慌てた樣にボツとした顏をして出て來た。

「さあ、どうぞお上り下さいまし」

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

「お邪魔ぢや有りませんか」

「いゝえ、でも荷物がつきましたばかりのとこですから、大變散らかつて居りますけど……」

通されたのは二階で、六疊と三疊のつゞきであつた。疊も壁も眞新しくて六疊の方の床には何か餘り見苦しくない幅物もかゝつて居た。北に向いた窓からは目白あたりの高臺が見晴せて、近くの寺院の墓場や雜木林をすかして向ふの家々の燈火の明滅が見える上に、窓に近い桐の葉の摺れ合ふ音が、何とはなしに安らかな落ち付いた呼吸をとゝのへて居つた。

床の前に大きな一閑張を据えて、今迄何か書き物でもして居たらしく、メリンスの座蒲團の周圍にはみだれ籠やら小形な箱やらレターペーパーやら手紙やら引つくり返されて有つた。片一方に寄せてある本棚には假綴の黃表紙の小說のシリースや、新しい飜譯物などが暫時見なかつたうちに殖えてギッシリと背を揃えて居た、簞笥の上の小さな棚には白い無地の燒物に紫苑がつまみざしにさしてあつて、凡がいかにも女らしい氣持のいゝ氣分をたゞよはして、艶めかしい匂が部屋にこもつて居て、打ち寬いだ夕暮の男の氣持をそゝつて居た。

私は以前もよくちよく〳〵と秀子の宿を訪ねて見たことがあつた、卒業迄は九段の裏通の方の見附に近い處に陸軍將校の遺族のうちに居つた、そこは表の通を隔てた堤に大きく根を張つた榎の大

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

枝が、手をひろげた様にその家をかこんで、秋の初頃など秀子の二階の部屋の縁側に、カサ〳〵になつた葉を落すところであつた。向方には矢張左内坂あたりの高臺の青い木の間の家が、心地よく太陽にてらされて居るのなどが見えて、私が毎日通つて行つて生活の糸をくりたてゝ居るあたりとは似もつかぬ氣持であつた。私は準庇護者と云ふ立場丈でなく、一個の物好な傍觀者の態度でそこによく出掛けて行つた。自分ではウヤムヤのうちに一歩と一歩と踏み込んで、もうぬきさしもならぬ深みに落ちて終つた人生の沼の中に、秀子は今やうやつと踏み込みかけて居つた、そしてその一歩々々に落ちて行く階段に、私は私自身の苦惱の跡がくりかへされるのを見て居つた、そして目には見えぬ力と力の爭ひに揉れて行く道に起つて來る出來事の一個々々の結果するところが見へて、あゝもかうもと自分の意見はあつても、時と性とが二人の間に造へて終つた淵を超えることが出來ないで、只ぢつと行くものを行かして、流れるものをながれ行かせて眺めることに慣れ切つて居た。

　仕事の性質上私は可成り女とは近寄る機會は多かつたが、若い時に基督者として賣つた相場が通りものになつて終つて、久しい間私はついした男と女との間に起つて來る樣なアフエアには遠ざかつて居つた。それで友人など出逢ふとなると、その周圍と云ふものがどうしても特種なもので、その方の道にかけては專門と云つてもいゝ位な男ばかりなので、よく女の話が出て來て、各自の經驗から

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

自己の自惚を中心にした婦人觀などをのべる人が必ず一人や二人は出て來る。私の樣に何時も聽衆の役割ばかりつとめる者は他には一人も居ない。男の兄弟ばかりの私は、母を除いてよく知つて居る女と云つては妻と秀子丈であつた。

その女の一人が學校を卒へると、行きがゝり上、足元から鳥がたつ樣な急ぎ方で田舍の町に行つて終つた時、私は自分の生活になくてならぬ品物を奪ひ去られた樣な不自由な淋しさを抱いて暮らして居た、一しきりはその淋しみが何であるかに就て友情とか深切とかを勝手に引合に出して來てはいろ〳〵考へて見たこともあつたものゝ、こんな出來事に多く出あはない私は何時もあれこれと比較して批評する樣な餘裕をもたなくて、男が女に對して女が男に對して起す興味は、ある一點の中心に歸着すると獨斷して終ふては自分自身の秀子を思ふ氣持に厭氣がさして來て、何時もいゝ加減なごまかしでその淋しさを味はふて居つた。その秀子が歸つて來た、丁度私の無聊な行き止つて終つた生活の隣に生へて來て、私の生活と例へ幾百分の一丈でも交渉をもつて、微妙なほどの少部分でも交叉さして生きて行く生活をもつ秀子が歸つて來たことは、うれしかつた。

秀子は變つて來て居た。色がやけて束髮を以前にミッション風と呼んで居た樣なやゝ引き目な型に結ふて、肩あたりの肉の落ちたのが目に立つほど瘠せて居た。少しけわしさを見せて居つた光つた

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

眼が、妙におだやかな表情を帶びて來て、例の結んだ口を見て居ると、沈默に根を生やされた曲線を見る樣に思へて、私は又一段と深くなつて行く自分との懸隔を感じ出した。

「もう可成早くから來て居たんですね」

「えゝ、八月の中頃、今年はこちらには歸らないで北海道の方に旅行する考で居りましたら、急な事が出來て歸らねばならなくなりましたので」

「ぢや、何故さう知らさないのです、宿だつて困つたでしよう、うちに來て居てもよかつたぢや有りませんか」

私は今迄の關係上、物をかくした樣にして歸つて來たことに就て、秀子に對して穩かな氣持で居ることは出來なかつた、又さうした人と人との間の氣合のわからない女でもあるまいと思ふと ついそれを口に出して云つて見度くもなつて來た。が秀子は何事も覺悟して居たと云つた樣に、私の云つた皮肉にも少しも惡びれた樣子は見せなかつた、只いつも變らぬ 誠實さを見せて居る 眼を少し小ばやく瞬いて居た。

「でもね、私にしては多少は面目なかつたのです、皆の人に一年二年は辛抱するだらうと思はれて居

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

たのに、たつた一學期で歸つて來るのですからね、それに向ふの學校でも東京の學校でも出來る丈は秘密にしておいてくれと云ふものですから、こちらに參りますと直に學校の寄宿に入つた切り、どこにも參りませんでしたから」

「又S社が原因なんですか」

「えゝ」

何でも秀子が赴任した前後から、その地方の新聞にそこの學校の體操の教師と、家事の教師とのことが、穢き物になつて出たのに、學校の方ではそれに對して冷かな態度をとつて格別の注意も拂はない様に見せかけたのが、新聞社に一層憎まるゝ因を造つて、幾度も〳〵同じ攻擊がくりかへされ、到頭生徒を煽動して、ある知名の人が參觀に來た時に上級の生徒が全部體操を休む様な事に到らせた。さうすると、勢二人に同情するものと同情せぬ者とが教員の間にも出來て來て、様々な暗鬪が校內でも行はれて居るらしく、それに關連してある陶汰が年內にはあるらしいなどゝ云ふ風評がどこからともなく出來て來た、校長も考朽陶汰になる筈だなどゝ、反對新聞は聞いて來た様な僞を書いて居た。それでも秀子は赴任したばかりな時であつたので、別にこんな凡ての陰の事には關はらない様にして、たつた一人その渦卷をのがれて居た。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Anna Pawlowa.

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

この夏秀子は早くから只一人の生活を味はふ爲に、友人の多い東京に歸ることを止して、獨で北海道に行く考で七月の終に學校が休みになるのを待つて居つた。

その終業式がすんだ日、——それは七日の卅一日の日——校長が自分の宅に話に來ぬか、出立前に一度ゆつくり逢いたいことがあると云ふので、直その午後出かけて行くと、茶など出して四方八方の話の後で、校長はその頃地方の新聞に手ひどく攻撃されて居つた、その體操敎師の話を持ち出して意見を聞いた。秀子は新聞に書いてあることは、自分の赴任前のことであればそれに對して何の纒つた考もゝたぬことを返事はしたが、全然無根のことではないと云ふ風評を聞いたことを校長の參考の爲にと思つて話しておいた。さうすると校長は體操敎師の肩をもつて辯解につとめて凡のことを誤解に歸して終つて、散々に誤解の恐るべきことを說いた後で、近頃秀子がS社の社員である事を承知したと云ひ出した。

「遲かれ早かれ、それはつき廻つては來るだらうと思つてましたけれど、あんまり早かつたので私も一寸呆れました」

と秀子は一寸そこで溜息をついて居た。

秀子は少しも事實を曲げないで有の儘を云ふと、校長がそれでは社員であつた頃、S社の幹部のH

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

やKと寫眞とつたことが有るだらうと聞くので、そんなことは決してないと返事した。すると校長は一冊の書物を出して來て、卷頭に入れてあつた寫眞をひろげると、寫眞の下に後列の二番目松田秀子とそこに秀子の名がS社の幹部の四五人の名と一所に並べて書いてあつた。その寫眞は一度秀子もH氏のところで見たことのある見覺えのあるものではあつても、自分がそれに關係は少しもなかつたので秀子は少しもおどろかなかつた。

而し事實をそのまゝに云つて若しその地方の新聞社でその寫眞を見付けて騷ぎ出す樣なことでもあつたら、責任をもつて辯解すると云つた秀子の返辭に校長は慌て出した。一度得た椅子に生へつい た樣に老いて終つた校長には、新聞紙に兎も角も世間の攻擊の的になつてゐる新しい女、凡の道德と常套の破壞者と自分が考へて居る——新しい女の一人を女學校に雇ひ込んだと云ふ事實の曝露が恐かつた、正しい判斷の出來ぬ生物識の地方の識者達のおもわくも恐かつた。その寫眞の主が秀子そのものであつても、名さへ出て居ないなら何とでもごまかす、とさへ校長は思ひ餘つて口に出した。體操敎師と家事の敎師のことに就いて、學校が散々物笑ひの種となつたあとに、又新聞種を出し度くなかつた、老朽事理を見る明がなくて敎員の選擇をあやまつたと云ふ謗を自分自身に負ひ度くもなかつた。出來るならそつと評判にならぬさきに他に轉任させるか、退かせて終ふかに仕度と云ふ考が咄

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

嗟の間に、校長の胸には決心が出來て居た。
その日秀子が事の眞相を學んだときはこの校長の決心はもう餘程實行されて居つた。初めに校長の依賴をうけて秀子の出身學校に卒業生の配布方を交渉した人の返書も既に屆いて居つて、それにはそれ〲の方法を取つて必ず退職させるとの返事が來て居つた。
S社との關係に就て面倒臭いことが起つたら何時でも潔く退いて終はう、その爲に拂はねばならぬ稅はどこ迄も負ふて歩いて拂つて仕終はふと考へて居た秀子も、專斷にすぎた校長の仕打に、平らかな心持で先方の意志通に退くことは出來ないと考へ出した。それで校長のいやがるのを知りつゝ、事の公になつた時は新聞紙には立つて爭ふことを云ひ張つて、辭表を出すとは云はなかつた。そして近所の温泉に行つて終つて、東京に出様ともしなかつた、縣が辭令を出して雇入れた以上、一通り事情の説明なくては校長の意志丈で敎師を左右することの出來ないことはよく知つて居つた。
「それに縣廳内には可成な位置にある人を知つて居りましたから、若校長が解雇の手續に出相な樣子があつたら、先に縣廳の人の耳に入れて置かうと思つて居りました。校長は前の體操敎師達のゴタ〲が縣廳には知れた樣でしたから、私のこと丈はどうかして私と自分との間ですましたいと最初から云つて居りましたから、腰の弱いことは私は最初から見貫いて居りました」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と秀子は考へ深さうな殘酷さを顔に出して居た。

「そしたら又何故歸つて來たのです、何も歸る必要はないぢや有りませんか、北海道にでも行けばいゝのに」

「温泉場に居つたのですけど、こつちの學校では何もその寫眞のことも眞相がわからないし、又私が眞實は卒業當時の約束の實行を仕ないで、S社と關係をもつて居るのがばれて終つたのだと思ひ込んで、幾度も〱電報や手紙をよこして歸れ〱と云ひますから、逢つてよく説明仕樣と思つて來たのです」

私はこの一人の女を中心にして、不安な渦をこしらへた教育家達の狼狽した加減を一寸想像して見た。地方の新聞や雜誌などが人氣取に書く記事で、S社に何等のよるところなしに解釋をつけて蛇喝視して居る老校長と、新しいムーヴメントのよつて起るところに相當の理解も有り、それに對しての意見も同情も有りながら、尙社會から前に一歩を進むことを氣兼ねして、又自分達がよつて立つ基礎をうごかすわづらはしさにも堪えないで、手をひつこめて事なかれかしと歩いて居る表面の人達の、こんな場合に際しての當惑さ加減をも考へて見た。

「そしてあなたの母校の意見はどうでした」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「學校では私が說明した事に滿足しまして、私に辭職をすゝめるべき理由は何にもないと云つて、最初私を推選した時に私につけた正札は今も少しく引くことは出來ないと云つて居ります、が然し先方の校長が私の留職を迷惑だと云ふなら、それは誠に御氣の毒に思ふから、私に對しては校長代理の人が個人として一應辭職をすゝめる代に、今後の私のことについては責任をもつと云つて私の決心を促しましたんです」

「私もあつちに居りました時こそ、あちらの校長の仕打に腹が立つて、復讐にどんなことでもしてやらうと考へて居たのですが、こつちに歸つて見ますと妙に先方でのことが客觀出來て、あの瘠せた肩に子供の多い一家を負ふて居る老校長が氣の毒になつて來まして、自分一人の進退があの人の位置を强固にするものなら、辭職仕樣してあげ樣と云ふ氣になりました」

「でも考へて見れば凡のことは斯うなるのがほんとうですわね、私はどの點から云つても純粹な敎育家ではないのですから、勿論自分の仕事に責任は持つて居る積でしたから、する丈のことはどんなに忙しくてもしてのけました、而しそのうちに矢張り私は敎育家ではないと云ふ考が何時も念頭を去らないで、自分の最上の注意と最大の勞力は、自身の勉强の爲にとつておく樣にしてをりましたから。校長としては部下の敎育家に望む點は、例令その人の能力は私がもつてる丈なくても、兎も角そ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の全力を教育に費す人でなければならないんでしょうからね、ある實質は少くとも全力をあげて打つゝかつて行く時にほんとうのその價値を出すものですから」

かうした様な話を秀子がして居たと私は覺えて居る。

「そしてあなたの母校があなたの將來に責任をもつと云ふのは一體どの點にです、生活にですかあなたの立場にですか」

「兩方にです、私は何もあちらを止したからと云つて、私の文藝上にこれから行く立場に大した妨になるとは考へませんけれど、生活はもう直にも困るのです、卒業の當時ですとこれで未だ人に相談の仕様も有るのですけど、こんなけちがついてからには一寸人にも云へませんから、で學校の方では奬學金を出すから、も少し研究科に出ることにする様にと云ひますし、學校に居る頃大變よく見て下すつたミスAが仕事が見付かる迄の生活の保證も自分がすると云つては下さるのですが、私は少し考があつて斷はりました。

奬學金を貰ふことに就ては そんなに反對の理由もないんですけど、私は今迄目撃した奬學金を貰つた人達が、在學中に受けた壓迫と汚辱とがあんまり印象深く思ひ出せて、そんな人達の卑屈なさもしい態度に、自分の身を落して考へて見ることは出來ません。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

又ミスAの慈善に私迄が生きねば生きられぬわけはないと考へましたからです、ミスAの慈善に生きねばならぬ様な弱い人は、未だ私より外にどつさり有る筈ですから、私はさう云つて兩方とも斷つて終ひました。

えゝ、生活はもう明日からもつまつて行くでしよう、私は今もつて居る僅かな貯の一錢も、もう無駄にはつかふわけに行きません。私は今もつてる丈の貯を最も賢く用ひて次の生活のもとにせねばなりません。

こちらの母校にだつて好意で便宜をはかつてくれる樣には云つておきましたが、私は自分の生活に責任をもつて貰ふことは望みません、責任と云ふものはある人に對して何等かの犧牲を拂はせた時に出來て來る筈のものですのに、私は今度のことに就ては何等の價も拂つては居りません、それより寧ろ皆の出來事は私の成長の土臺となつて行きますから、こんな事でも皆私の道に必然に起つて來ねばならぬ生活のリズムの一起一伏だと思つて居ります。

それにどこに責任の歸する處がムいましよう。

あちらの學校にだつて私はこの頃少し氣の毒になつて居るのです、體操の敎師や家事の敎師もこの夏中には解決つける樣にしたでしようし、その方の退職の理由は云ふ必要はないとしても、他の敎員

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

達には私が退いた理由位聞かれませうし——最も最初の時、大方結婚するのだらう位のところで濁しておくとは云つて居りました、若い女にはそれが一番もつともらしく聞えるさうですから——その上退職する者に對しての好意上俸給何かの都合から直に後任を任命することも出來ますまいから、一度に三人欠員が有つては補欠をするにも大した苦勞でしようし、可愛想に今度は可成な苦勞をしたわけですからね」

「そしてその間違つてあなたの名を署名した書物の著者はどうしました」

「一寸逢いたいと云つて葉書かきましたら、先日來てくれました、失禮な奴だと思つてやかましく云つてやる積で居りましたけれど、あつて見ますとその本——それはほんとうにつまらない本なのですから——だつて、つい原稿料が欲しくて書いたあて本だと云ひますから、眞面目になつて怒るわけにゃゆきませんし、その寫眞だつても自分はもち合せて居なかつたので、本屋の方で勝手に入れたと云ふんでしよう、私はどう怒り樣もないんです、つまり今度のことの憤はどこに行くところもないわけです、私は又妙に誰にどう怒らねばおさまらぬとも思ひませんし、みんな食事したり寢たりすることの樣に當然起らねばならぬことが起つたのだ位な氣ですよ、えゝ、著者には只學校が要求した通りの文句の詫狀を書かせた丈です」

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

「そして生活の方法は何とかつきましたか」

「えゝ、學校の方からの紹介で一口は麹町の女學校に出來たのです、一週に九時間三日出る丈です上に報酬はやすいのですからいくらも貰えません、も少し何か見付けなきやならないのですけれど、學校の人達や何かは金をやらうの責任を持たうのと云つて、消極的な同情丈しか持てないんですから、私は無用な心配はさせまいと思つて、もう何にも云はずに自分一人で出來る丈の方法で探し廻つて居ります、自分の足と手をうごかして出來ることなら何でもしますから、お心當りの仕事でもあつたら御紹介下さいませんか、でも矢張何か書くことか、人に敎へることがほんとうの自分の畠ですから自分にも樂ですし、自分の成長の爲にも一番賢い方法だと考へて居ります」

私は丁度知つてる男で獨逸人の貴女に日本語を敎へて居たのが、今度急に外國に行くことになつて、しつかりした餘り見苦しくない人格の、成るなら日本の女を後任にしたいとたのまれて探して居たのに紹介仕様と思つた。

「心がけておきます、何かないことも有りますまい」

私はさう云つておいて歸つて來た。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

道々私はいろ〳〵なことを考へさせられた。運命からも境遇からも全つきり獨立して終つて、その中の一のパートを取つて行く自分の上に、賢い理智の眼を向けて指導することを、今の日本のある若い女達は何時學んだらう、自分達を少しも理解しないでつぎ込まれた盲目的な敎育に滿足が出來ないで、自分自身の敎育を自分でする樣にとは誰が云つて聞かしたゞらう。そして私は自個敎育の難易について、自分の性と女達のそれとを比較して見た。私共日本の男は直に自分一人ではなくなる、一人の男となるが否や養ふべき義務の生ずる一人乃至八九人を私共は殘念ながら餘り屢有することゝなるその場合私共は勢、勞力も時間も殆ど自分有する限を生活の爲につくすことになることが屢ある。然し女は自個敎育を志して獨身で住むことになるとしても、自分自身を支へる丈を働いて尙勞力と時間を餘すことが出來る樣に思はれる。そして若し我々がそれらに關する警告は受けながらも、女性のそれより執拗な性慾に敗北して行くとしたら、どこかの學者が云つた樣に今の男と女との位置が轉倒して、女は雌蜂の樣な位置を男に對して保つ樣になりはしなからうか。

さうすれば今女達が自分達の權利を主張する爲に、最初に得樣として居る財政上の獨立は、男も贊成してその完成を扶けるのが賢いことでは有るまいか、生活と云ふものを女にも半分責任を負はして、男は生活の困迫と共に加はる身に餘る負擔を輕くすべきでは有るまいか、そして女性の發達をあ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

る程度迄で阻まねばならぬ、――男性と權衡をとる程度迄で――ではなからうか。

百年二百年たてば私共はどんな戀をする樣になるであらうか、私は妻に對して有して居つた愛と、秀子に對して私が有して居る今のある情緒とを比較して見て、その懸隔の甚しいのに驚くと共に、私達の戀が既にもう知らず〳〵のうちに後者により多くの執着をもつて來て居るのを感ずると共に、無理にも秀子に對して自分のもつて居る情にある解釋が出來て來て、今迄の樣な平和な心で秀子を顧ることが出來なくなつて來た………。

N氏のマニユスクリプトはこゝで切れて居る。

N氏は私の尊敬して居る中年の紳士である。私はその人の家庭には可成な自由をもつて出入して居る。數日前はからず私はこれを氏の書齋から發見して、氏の内的生活の一端に觸れた樣な感じがした。秀子は私であるかも知れず或はN氏の架空的人物であるかも知れぬ。兎も角全篇の事實の一部は私の一身に最近起つて來た波瀾には相違ないけれど、全體のうちには氏のいゝ加減なあて推量も獨斷にすぎた不快な主觀も見えて、私はこれをこのまゝN氏に發表されてはたまらないと思つた。そして氏が旅行の留守中に自分の手でそのまゝ發表仕樣と決心した。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

實云ふと私はこれをよんだ時に、何かいやな人間の一番厭ふべき弱點を、遺憾なくひろげて見せられた様な感じがした。そしてＮ氏に對して今迄もつて居た尊敬の念が、心易しい親しみ――よく云へば――をもつた輕侮の念と變つて行くのを意識した。そして尚こんなことを考へついた。ほんとうに男達は自分達の性慾は女性のそれよりは執拗なものと考へて居るのであらうか、さうとすれば男と云ふものは可成迂遠なものに相違ない、女と云ふものは征服されぬ前は兎も角として、一度打ち勝たれたらもう駄目なものだ、奴隷たることも犧牲となることも辭すことは出來なくなるものである。男達は幾千年の歴史に證明をして貰つて居て、未だそこに氣のつかぬ様な人もあるのであらうか。女が雌蜂の様な位置を保つことが出來るのは、絶對貞操を守り得た時に限るので、女が男性に對しての戰闘準備としては性慾に對しての明確な意識をもつことが出來て、それを牽制する様に修養するのが第一番であると云ふことの自覺が、一部の女達には出來て居ると云ふことをこの人達は未だ聞きも見もしないのであらうか。私は何だか大きな聲でＮ氏に代表されてる性の人達を笑つてやり度い様な氣がした。

Ｎ氏の作に對して、私がこんな峻酷な批評と冷淡な態度をもつて居ることは、或は氏には不快なことであるかも知れぬけれど、それは又私には餘儀ないことなのである。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大阪より

伊達虫子

大阪の錢湯は、女湯にても五時頃より沸きをり候。されば、私この地へ參りをれば、起きぬけに楊子を持ちてお湯に參り候。七時頃はすきをり候へども七時半ごろよりは一ぱいの混み合ひに候。私の居り候家より錢湯へまでは一丁も御座なく候。夫ゆゑ温泉宿に居るもおなじ樣に候。湯札は二十四錢にて十枚に候。番頭の無きは前にも申し上げ候かと存じ候。

大阪の人のぬる湯ずきには一寸驚き申し候。私は家にても外にても、最もぬる湯好きに候。その私

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

が何とも思はぬ位の湯をなほうめ申し候。湯をうめる時は手をポン〳〵と叩くのに候。水のいつまでも出るを止めるのも拍手に候。

大阪の人は髪美しく候。虫子の如きバラ〳〵の髪いたしをる人はこれなく候。觸ればコチ〳〵と堅けれど、見ては洗ひ髪の如き艶あるはよく梳き候ふためにやと思はれ候。

大阪の人は口惡けれど、言葉柔かき爲めにや、少しも厭はしからず候。面白く候。好きに候。おせじ氣の少なきが宜しく候。京都は又その上に優しきやうに思ひ申候。試みに聞き給へ。

「いやだわ、姐さん。」

東京のお酌はかく申候。

「いやゝわ姐ちゃん。」

大阪の舞子はかく云ひて云ひがたき、あだけなさを見せ申候。大阪の舞子よりも京都は一層優しくて*おほや*うに候。

いづれも役者を尊み候は同じやうなれど、ハイカラ頭のなきが最も嬉しく候。

今日は日曜に候ひき、晝間を單襦袢縫ふに暮し申候。旅なれば少しのものゝ費へをも恐れて自ら針を持ち候。針をもてば止められぬ面白さがあるは裁縫に候。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

夜、新町へ踊見にゆかむと立ちいで申候。幾日にや細き月中空にかゝりをり候。四回目の十時まではには、まだ時あり候まゝぶら〳〵と歩いてゆく事にいたし候。ひらの町より千日前へゆく道にて連なる人の知人に逢ひ申候。その人私をも知れる由にて挨拶いたされ候。されども私には覺えなき人に候、されど慶應義塾のお人たりし由なれば、兄を御存じのお人にてうきくさ會へでもお出でありしお人かと思ひ候。

虫子は久しぶりにて東京に近き言葉の人と話をいたし申候。されど、東京に近き言葉を聞きたる虫子は一層なまり無き東京の言葉を聞きたくなり申し候。

そのお人は懐中に永井先生の「散柳窓夕映」を入れてお出でなされ候。しきりに「氣分」と云へる言葉をつかひをられ候。永井先生崇拜のお方のやうに見受けられ候。崇拜と申し候よりも盲拜――こんな言葉は昔にはあるまじけれど――せらるゝやうに見受けられ申候。先生によつて傳へられたる「江戸趣味」の流行はもの恐ろしきばかりに候。上より下まで御存じの先生のお書きなさるものを、只そのお書きなさる丈を理解する丈にて崇拜する人の多きを先生は如何に考へられ候にやなど思ひ申し候。

それより宗右衛門町を歩き申候。西洋づくりの無きと電車の通らぬと家の中の奥深きと、揃ひたる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

建築と自動車のブーブー通らぬと提灯の灯とによつて宗右衛門町は懐かしく候。富田屋の表なりと聞き候とて、そこに縁のなきものには別段の興味はこれなく候。東京にもあんな處が無い事もなく候。あれより好い處があるかもしれず候。東京の人が東京にて聞きたる「宗右衛門町」ゆゑ此上もなき處のやうに云ふにはあらずやと思ひ申し候。東京にて「宗右衛門町」の如き處は何處にやと尋ね候ふを辱づかしきやうに思ひ候人も、大阪へ來ては「宗右衛門町」「新町」を尋ぬるは容易なればにやあらずやなど思ひ申候。その中に宗右衛門町と何者かを結びつけて、宗右衛門町ならではならぬやうな事を見いだしたる上、今少し强き印象を得たしなど思ひ申し候。

四ツ橋をも見申し候。吉井先生の「椀久」の幕開のいしぶみをも見申候。夜目にて只石の立ちあるを見たるのみに候。昔はちやんと四ツ橋なりしが、今は五ツ橋位なりと大阪生れの連の一人は語り申し候。

我等はそれより川に添ひて加賀の倉屋敷のなまこ壁の長くつゞける暗き道を歩き申候。やゝ風冷たくコートなき身は肌寒く覺え申候。

それより又新町まで戻りたる我等は、そこの西洋料理店明陽軒に入り申候。いつ來ても藝者舞子の居らぬ時とてはなき店にて、其夜も賑やかに候ひき。紅茶、菓物など食べたる後いよ〳〵女紅場に向

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ひ申候。我等が踊見に參りたるは之にて二度目に候。最初は只「浪花踊」と云へるもの見む爲めに候ひき、その時の連れの中に新町の作延をり候。今夜はその作延の出番ゆゑ見に參りたるに候。作延は小皷に候ひき、過ぎし京玉の夜に淋しと見たる顔は、今宵は美しく彩られて、友禪の舞子姿は見違へるばかりに候。

踊りを出でたる時はもはや十一時頃に候ひき。我等はそこにて二組に別れ申候。一組は梅田へ、我等は京玉へ入り申候。

その夜の作延は殊に美しく元氣に候ひき。髮は踊の時のまゝの島田にて、髮もはへたるまゝ、只かけたる切と簪とぬきたる風情、又なく情けあつげに見え申候。後より參りたる舞子の名は、つゝじと申候。浪花節を語り候由なれど風引にて「くッしやみ」ばかりいたしをり候ひき。

濱勇にも逢ひ申候。されど、只新橋に居た濱勇、岩倉さんの濱勇といふのみに候。

その夜不思議なる藝者參り候、東京にて聞えたる亡名優の姪に當る女に候。父も知る人ぞ知る俳優にてこれも早や故人に候。おもかげなど、よく似通ひをり候。

「東京ぢや、父親の名折れになりますからねえ。」

と申候。何となくもの哀れを覺え申候。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

さらば今宵は東京の者をあつめんとて朝次をかけ候へども、さし支へて參らず候ひき、朝次の娘はよし町の金彌に候。
濱勇の歸りたる後に我等は午前の二時頃まで面白く語りて更けたる道を堂島さしてかへり申候。わざと俥をさけて歩み申候。まだ三味の音、絕へず。トン――トンと響く太皷の音なども淋しく聞え申候。一現茶屋の前にて左の腕に喪章卷きたる洋服男の醉ひどれてトある店へよろけ込むを見受け申候。　（五月三日）

今宵も又踊見に參り候。その夜は作延の踊なればに候。濱勇も出づる筈に候。
待合所にて井上正夫、月岡一樹、深澤恒三、小織桂一郞などを見受け申候。
いたづら者と聞えたる千代作は盛んにあばれて相手を困らしをり候ひき。
作延の踊りは柔かく千代作の踊りはよく動き申候、濱勇は踊れぬ人に候。つゝじは小皷に候ひき、我等を見ては笑ひをり候。相變らず「くッしやみ」になやまされをり候樣に見受けられ申し候。
歸途、明陽軒の前にて男衆に連れられたる若雛に逢ひ申候。こなたへと呼びたるに直ぐ參り候。若雛と申すは十一の舞子にてまだちご輪に結ひをり候。過ぐる夜、京玉にて一處に寢たる舞子に候。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「小福さんから手紙呉らはりました。」

若雛は斯くいひて虫子が遣りたる緋鹿子の紙入より半紙の端切に何か書きたるものを出し申候。

「ソノノチワアナタサマモオカワリゴザナク候ヤ。ワタクシモブジユエゴアンシン下サレタク候。マッテオリマスサカイ、オテガミヲオクレヤス。サヨウナラ、コフクヨリ。」

と片假名にてよぢりもぢりにしたゝめあり候。小福と申候は誰やらの弟子の子役の由、若雛のひいきに御座候。

「わてえにこれをお呉れやす。」

とバナヽを取るを見て、

「夫は何?」と聞けば。「バノナ」と濟して答え申候。

「まだ何か食べる?」

と連の人の聞きしに、「にぬき」と答え申候。「にぬき」と申候は東京の「うで玉子」に御座候。

明陽軒を出でたる三人はまたもや京玉に入り申し候。間もなく參りたる鶴若は、虫子の顔を見るなり。

「あんたとこへな。今日ハガキ出しました。」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と申し候。この舞子は十四に候。少し肥り肉なれど顔立上品にて吉彌結がよく似合ひ申候。

「○○はんはな。まだこんなちご輪に結ふてはりました時な、いつも〳〵遅うなると、えらう眠がはつてな。ようく皷の箱の中で寢てはりました。」

と鶴若は若雛の居眠るを見て語り申候。その夜の鶴若は藤色地に一面に白と青磁にて藤の花を染めたる紅なしの友禪の振袖に紅地錦の帶を吉彌に結びをり候。髮の前差しの簪も白き花に候ひき。この舞子も過ぐる夜京玉に泊りたる一人にてお伽話の上手に候。

「ほんならな。又來てお呉れやす。きつとだつせ。」

電車まで送りくれたる二人の舞子はかく云ひていつまでも〳〵見送りくれ申候。　（五月四日）

今日は五月の節句に候、虫子は宿りたる家の娘さんと共に梅田までゆく用ありて外に出で申候。曾根崎を通りたるに、長き帳面と袋を下げたる男の幾人に逢ひ申候。

「あゝ今日は御節句だつしやろ。そやによつてな、お茶屋さんの勘定だつせ。」

と娘さんは申し候。虫子はふつと油屋與兵衛を思ひ出し申候。

それより堂島をぬけて濱通りへ出でたるに相場にたちあふ人がかなたこなたに屯して、屈托さう

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に顔を見合せをる者、ひそ〳〵と話すもの、その中に夏みかんの荷を下せる男などたちまぢりて、事々しく見え申候。女も數多見え申候。丸髷の髪ほつれたるも構はず、腕をくみて、相手の男と何とか小聲に語るさま何となく恐きやうに覺え申候。

その夜籾山氏の番頭さん參られ候。それより家内うちより賴みたる「靑鞜」をもつて面白く夜を更かし申候。

虫子が床に入りたる時は、虫子の隣りの床なる娘さんはよく眠りをられ候。虫子は、聞き及びたるらいてう氏の「讀んだものゝ評」を拜見いたし候。その中に私に關する氏の御批評六號にて一頁あまりも御座候。私は私如き小さきものに氏が斯くまで注意致され候を嬉しく有難く存じ候。さりながら、かゝる御眼もて見給ふ者の作をも掲げざるべからざる雜誌經營者の苦しき立場のほど如何ならむと御察し申候。同誌には氏の所謂「輕々しき」、「不眞面目」なる、「オッチョコチョイ」なる、「無意味」なる、「自尊心なき」、「小細工」なる、「御客相手」の「藝人根性」なる「日本婦人の臭味」を脱せざる「弱さをみえ」にしたる私の、「お前の日記」といへる、私自身にもあまり好いとは思つてをらぬ作が掲げられをり候。私は只々、御氣の毒に存じ申候。之は決して皮肉にては無之候間一寸お斷り申置候。（五月五日）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

安洋丸に乗りて神戸に入る人に逢ひにゆけば、御身も神戸見に行き給はずやと誘はるゝまゝに共に立ち出で申候。梅田より阪神電車に乗りたる我等は、しば〳〵方向の下なる電車の時計を見申候。六時五十分までに來よといひしが、遲れしかも知れずと友は申候。

しばし走るほどに、電車は松多き道に入り申候。松はいづれも大木にて、砂白く、川のたゝずまひ、山の風情、景色大きく豊かにて心地よく思ひ申候。

「深江」といへる處より望む山の中腹に、建てる大いなる西洋館は、西本願寺の別莊の由に候。そこにて多くの美少年を愛し、印度、ギリシャの古物を集めてさながらの羅馬法王の如き生活を營めると聞く法主の日常の程こそ見まほしけれなど思ひ申候。

「メリケン埠頭場」に着きたる頃には、月も朧ろに海を照らして、心地よき夜となり申し候。

二三日來度を過ぎて温かなりし氣候は、亦昨日今日度を過ぎて寒くなり申候。埠頭場なる待合所には船乗らしき服つけたる人二人火を焚きてゐたり居り候。友はそこに入りて安洋丸の事を尋ねたれど、確かなる答えを得ざりし由にて、一度會社へ電話にて聞き合する事になり申候。神戸の電話は千何十番といへる如き場合には一〇何〇と云ふならはしの由に候。

次のランチは十時頃に出づる由にて、そのランチは今宵の中には埠頭場へは返らぬとの答えを得

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

て、友は、是非なく人に逢ふ事をあきらめて私を諏訪山へ案内いたしくれ候。

倖にてそこへ向ふ道にて、此處が神戸の中檢、東京にて新橋の如き處なりと敎へくれ候。靜かなる事東京の山の手か築地あたりのやうに候。稲荷の前にて車を下りて我等は暗き石段を上りはじめ申候。赤き鳥居は目まぐるしきばかり我等が歩む道に立ちをり候。伏見の稲荷はもつと〳〵鳥居の數多しと友は語り候。

何の木かもしれず被ひ重なりたる上より、ユウデン木のしきる音淋しく聞え參り候。まだ石段はつゞきたるやうなりしが友は其處より右へ折れて廣場へ出で申候。そこなる藤棚の花只ほの白く見え申候。月はいつの間にか雲に入り申候。

美しき灯の眺め！ 共進會のイルミネーヨシンはさながらの書割に候、俗に候。されど海にうつる灯、明滅する燈臺の灯、船と共にゆく灯の美しさに私はあかず〳〵眺めをり候。

「ソラ、恐ろしい音が聞えませうう?」

と友は耳を傾け申候。ガラガラガラといふ音の、電車のしきりを離れて物凄く聞え申候。

「あれは船へ重い荷を卷き上げる音ですよ。あれでね、毎晚、沖仲仕が一人や二人死ぬんです。」

我等はしばし又その音を聞き申候。薄寒き夜の公園にはそゞろ歩きの人も絕へて、ふと觸れたる指

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

先に、ベンチの背のいと冷たきを覺え申候。

間もなく、我等は無言にて暗き道を町の方へ引返し申候。後より學生らしき人しきりに「カチウシャ可愛いや」を口笛にて吹きつゝ參り申候。

家にかへりたるは一時過ぎに候ひき、虫子が寢間の二階の裏合せは北の新地の茶屋に候。

虫子は亦明日は此地をも離るゝ人に候。一人靜かに荷物を纒めをり候耳に

「君と寢やろか、五千石取ろか、
何の五千石、君と寢よ。
よい〳〵。」

と唄ふ聲、藝者と客と和して陰氣に陰氣に聞え申候。(五月六日)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

西班牙（スペイン）物語ルイザ姫様の詩

淺井三ツ井

白い葡萄の葉のかげに
祈り姿のルイザ様
泪は白い花とちる
白い鳥がなきまする
海のかなた　かなたで………

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

「愛する一人の弟(おとうと)よ
御身は悲しいことでしやう
ああ神様よ　何故(なぜ)に弟は
白い鳥となりました」

思ひいづるも悲しきは
あの恐ろしき夕暮よ
灰色深き谷底に
夕星さえもかがやかず
夕露さえもかがやかず
花束胸に抱いたまゝ
君は白い鳥となり消えました…………

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

父君の死にこの胸が
つめたく冷くありますの
また悲しい悲しい出來ごとに
わたしは死にたくありますの
夢の國にいるやうで

ああ私はただひとり
淋しく淋しく今日の日も
また暮すのでございます
ルビイの首輪もいりませぬ
サフアイヤの櫛もいりませぬ
清い弟が白い鷗でゐるならば
私はここでこのままに

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

白い薔薇(ばら)となりましやう
私の泪が弟の
白い羽を飾るとき
水の精はうたひましやう
白い鳥よ　白い鳥よ
おかへりよなつかしいお城へ
白薔薇(ばら)の花が可哀さうだから
弟は紅い目をとぢてなきませう
そして答へます

「朝は乳色(ちいろ)にわが城(いへ)が
美しくかがやけば悲しく

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

夕暮は姉様の
吾ための祈りの時なれば
ことに悲しくありまする
夜は赤い灯が窓につけど
わが目みえねば
死ぬ程の悲しみよ」

ああ愛する愛する弟よ
なぜに歸へつてくれませぬ
夜の星が眠る御身をてらすとき
私は眠らず泣いてゐます
御身の胸に水色の花環を
かけてあげませう故

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

私の窓に飛んで來て下さいな
やがて夜の鐘がなりましやう
白い鳥よやすくお眠り。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

別れの手紙

八木麗

私の今度の行爲を、あなたは唯我儘とのみ批難しないで下さいまし。全ての人に背いた私は、それほどの强い女では御座いません。いえ／＼弱い女で御座います、自分の爲たことの大膽さにびつくりして、一人おろ／＼してゐる弱い女で御座います。

親にも同胞(きやうだい)にも解せられない私は、せめてあなたに、私の眞實の心の聲を聽いていたゞきたいと希ひます。すれば永久に私の負ふべく定められた重荷も、やゝ輕くすることが出來るやうに思はれます

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

から。

『あんなに優しい女の、何處にそんな勇氣が潜んでゐやう』

どなたもさうおつしやつた相で御座います。私も自分にこれほどの力があらうとは、全く其時の來るまでちつとも知らずにをりました。

今度のことをお聴きになりました時、多分あなたもさうお思ひになつたことで御座いませう。けれどもあなたには、きつと私の心持が、幾分なりともお解りになつていらしたことゝ私は信じます。私は私を解して下さい、信じて下さいと、强ひて願ひはいたしませんけれど、さう信ずることの出來る私を、私は幸福に思つてをります。

あなたは過去の私に就て、全てを知つていらつしやる唯の一人でいらつしやいます。私の郷里のこと、私の家庭のこと、私の生ひ立ち、それはもうみんな今までに幾度となくお話しした通りで御座います。あなたはそれをすつかり御承知でいらつしやいます。

けれどもたつた一つ、あなたにも秘めてゐたことが、私の胸の奥深く藏はれてゐたので御座います。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Verbisk.

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

それは大事な大事な、私の生命そのもの丶如く大事なものなので御座います。それが弱い私をこんなに強くして、どなたにも意外な、今度のことをさせるやうになつたので御座います。

それは――戀でございます。

あれほど親しくして、どんな事でも打ち明け合つたあなたにも秘して、私は或る人を戀ひしてをりました。人しれず、私は私の戀を育くんでをりましたのです。

けれどもこの私の戀は、何の酬ひをも得る事は出來ないのです、それは好く解つてゐるのです。

何故といふに、其人は私を愛してはくれません、いゝえ、非常に愛してはくれるのですけれど、それは唯妹として愛してくれるので御座います。それだけなので御座います。

其人といふのは、五年の學生時代を私が送りましたあの伯父の家に出入りする、やはり伯父の緣者のもので、今は東北大學にまゐつてゐる人なので御座います。

私が初めて父に連れられて上京いたしました十四の春、私は伯父の家ではじめて彼に會ひました。彼は其時中學の四年生でした。彼は日曜や祭日など、お休みの日にはいつも伯父の家に參るのが例でございました。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

これはあなたが好く御承知のことですけれど、私は一體他人に親しみ易くない性質を有つてをります。これは私の生れつきなのでございます。東京に來てからの私はそんなでもありませんでしたけれど、夫でも五年の間に親しくお話しすることの出來る方とては、あなた一人の外もとめやうとゝもしませんでしたけれど得られもしなかつたのでございます。

幼少の時から、私は變人といふ名によつてずつと呼ばれて來たのでした。女ばかり五人の同胞の中の、上からも下からも三人目に生れた私は、誰からも大して可愛がられもせず、大切がられもしないで、殆どあるかなきかに取り扱かはれてまゐりました。自分でもさうと自覺してゐたものか、何時も隅の方に引つ込んで、なるたけ人の邪魔にならないやうにと氣を附けてゐたらしい私は、なほ〳〵人からは疎まれてしまつたものとみえます。何時の頃からか私は、誰も人のゐないところを覓めて、海濱の砂丘の蔭や、蓬々と草の生ひ茂つた裏の野原に、孤獨をたのしむ寂しい子供となつてをりました。

波のさゝやき、風のうた、私のお友だちは、他の子供たちのお友だちのやうに、鬼ごつこをしたりお手玉をとつたり、時には喧嘩をして泣いたり泣かしたりするやうな、さうした賑やかなお友だちではありませんでした。

私はいつか沈默のうちに、いろ〳〵の聲や響きを聽くことに慣れました。私はちつとも寂しいとは

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

思つてをりませんでした。自分をさびしい子、變屈な子などゝは思つてをりませんでした。

その私を、他人はみな變人だと申しました。

私の姉妹たちも、その遊び仲間も、「おねさまごつこ」や「おまゝごと」の無邪氣な遊びに、私を誘はうとは決していたしませんでした。私はそれを結句好い幸ひにして、自分は自分だけの樂しみに一人耽つてゐたのでした。

それが私には、ほんとに幸福だつたのでございます。私が一人家を離れて、斯うして東京に來て學校に行くことの出來るやうになつたのも、みんなさうしたところから湧いて出たことなので御座います。

その人づきの惡るい私が、初めて彼に會つた時から、いろんな話しもし、稚ない私の夢を語つたり、面白い彼の話しに笑ひ興じもしたのは、ほんとに不思議なことで御座います。來る日曜日、日曜日を待ちかねて、それからの私は、どんなに樂しい時を有ちましたでせう。私は明るい世界に眼覺めました。彼は私の光りだつたので御座います。

男の兄弟を有たない私は、眞實の兄に對する妹の情は僊うしたものであらうとのみ思つてをりました。

四年の年月は、唯かうして偏へに樂しく嬉しく過ぎ去つてゆきました。

それは一昨年の初夏のことで御座いました。私の彼に對する情が――それが戀であると知つた時の私の心は、どんなであつたかをお思ひ下さい、私は悲しうございます。

或る夕べ、彼と私と從妹の喜美子と、三人で郊外を散歩したのでございます。喜美子は私より二つ下の、伯父の一人娘でございます。やがて彼が彼女と結婚して、伯父の家を相續するのだといふ事は私にも明らかな事實だつたのでございました。

夫までの私は、その事に就て何とも思つたことはありませんでした。時として彼を氣の毒だと思はずにはゐられませんでしたけれど。何故ならば、喜美子は、私の大へんに嫌ひな種類の女の一人でございましたから。

彼女を妻とすることが、彼のために幸福であるとは、如何にしても私に思ふことは出來なかつたのでした。

けれども其事に就て、私は何をも言つたことはありませんでした。それは私が、誰でも自分の生活は、自分でつくるべきものといふ信念を、固く持してゐたからなのでございます。自分の生活に就て他から干渉されたくない私は、また他の生活にも干渉しやうとは思はなかつたからでございます。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

それはほんとによく晴れた、氣持の好い夕べでした。私たち三人は夕方からそよ〳〵と流れ出した涼しい風に包まれて、すく〳〵と氣持よく揃つた麥の穗が、青々と涯しなく打ち連なつた畑の徑を、小聲に歌を合はせながら、どんなにたのしく步いてをりましたでせう。

銀河がボーッとほの白く浮んで、撒いたやうな星屑が、みんな睦まし氣に何やらうなづき合つてをりました。と、大きな星が一つ、スーッと斜めに飛びました。

其時でございます。私の彼に對する愛情が、それが戀であると私のはじめて意識いたしましたのは。いつか默々ともの想ひに沈みながら、後になつてしまつた私一人を殘して、やゝ遠く離れていつた二人の姿を、其時私は言ふに言はれぬ苦しい氣持に、唯呆然とみつめてをりました。

それが嫉妬でございませうか。——

それからの私には、彼と彼女と二人を並べて見ることが、耐へられぬ苦痛で御座いました。而して私には、彼と彼女と二人を離して見ることは、如何しても出來ないことなのでございました。

何時か私は、今までのやうに何氣なく、平靜に彼と語つたり笑つたりすることは、到底出來ない女となつてをりました。

いつか知らぬ間に戀の芽は、ぐん〳〵と生長して、私の心にもうしつかりと根を張つてゐたに異ひ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ないのでございます。さうと知つた時には、もう伐ることも刈ることもならないやうに、私の心一杯に生ひ展がつてゐたに異ひないのでございます。さうと知つた時は、ねむつてゐた戀が、ふとしたはづみに覺めた時なのでございましたらう。

私にはそれが悲しうございました、怖ろしうございました。けれども私には、それを如何する力もなかつたので御座います。

彼は強い男でした、偉い男でした、立派な男でした。彼を愛する私の心を、私はどんなに自ら矜ることが出來ましたらう。彼を愛し得る私の衷に、私は自分の眞の價値を、まことに見出したので御座います。

彼を愛する私の心は、日に〳〵大きくなつてゆくばかりでした。

私は苦しうございました。

彼はそんなことは、ちつとも知らなかつたのでございます。今もまだ、知らずにゐるのでございます。

彼はいつも、私を愛してゐて呉れました、妹として、眞の友として、私を愛してゐて呉れました。けれどもそれに滿足の出來ない私の心は、ほんとに恨めしうございます。私の心は、常に充たされ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ぬ空虚を感じてをりました。私の心は、日に〱不安を引きづり不安に引きづられて、慌たゞしく落ちつかない日々を過してをりました。

私は彼に就ての全てを是認してをりました、それは私が、是非を批判する能力を缺いてゐたがために、無條件に彼の全てを盲信してゐたのではありません、彼の全ては、私にとつて此上もなく尊重すべきものでありました。私の心眼は極めて明らかなものであつたことを私は信じます。私は私の明らかな理智の眼で批判して、彼といふものがそれ自ら、最も高尚な人格の結晶であることを、信じて疑ふことは出來なかつたので御座います。

けれども彼の衷に、私はいかにしても釋くことのならない一の疑問を有つてをります。それは彼があの潔癖な彼が、如何してあの喜美子を、その未來の妻としてうけいれることが出來たらうといふ事なのです。彼は彼女の性格の、その惡るい半面を、それを識らずにゐるのでせうか。あれほど鋭どい彼の眼が、何故其處に徹しないのであらうかと、私にはそれが不思議でならないのです。

兎に角、彼が彼女を愛し得るならば、そして自己の半身としてゆるすことが出來るならば、それが私にとつて何でありませう、私は彼等二人に何のかゝはりもない他人なのでございます。

私は何も思ひたくありません。けれども彼に對する私の愛情は、日に〱大きくなり深くこそなれ、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

消えていつては呉れません。私はそれを悔むことは出來ない、彼を愛し得る私の心は、それは私の有ち得る唯一の矜持なのではございませんか。

私の戀は、私のうちに溢るゝ思念は、今はじめて私の心から出ることを得たのでございます。二年の間、私はこの歡喜を、悲愁を、私一人のものとして、私のうちに閉ぢこめて置きました、そしてかなしい滿足を味はつてゐたので御座いました。

その私を、私は幸福だと思ひたいのでございます。

人が人を愛するのは、愛するものゝ自由でございます。愛する力をせきとめるちからは、それは誰にも何物にも、與へられてないのでございます。お互ひの事情や境遇や、そんなものは愛の前提ではございません。愛は自由でございます。飽くまでも自由なものでございます。

純眞の愛は、何ものゝ報ひをも期待するものではない、愛することそれ自らが、始めであつて同時にまた終りであります、愛は自得の歡喜であり、自己充塞の滿足であります。

私はそれを識つてをります。けれども〳〵、理性は何と敎へやうとも、若い女が、熱い血の漲つてゐる若い女が、愛することのみに——愛されることなしに——滿足してゐられませうか。私は苦しうございました。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

『享くるより與ふるは幸福なり』

それは眞理でございます、それを否むことは出來ません。けれども〳〵絶對に享くることなくして唯與ふることのみに滿足してゐられるものがありませうか。享くるより與ふるは幸福なり……既に幸福なりと言つて、與ふることによつて得らるゝ幸福を、豫期してゐるのではありませんか、私は悲しうございます。

『童子市に座し互ひに呼びて、我儕笛ふけども爾曹踊らず、悲歌をすれども爾曹哭かず』

聖書の一節を、私はふと想ひ起しました。而して此句が今の私の心を、最も好く表現するものゝやうに私には思はれました。それが何の意味であるのかは、はつきりと解らないので御座いますけれど。

私の申し上げることを、あなたは大へん矛盾してゐるやうにお聽きになるかも知れません。けれどどれも〳〵私にとつては眞實なのでございます。みんな私が、眞面目に想つて、考へてゐることなのでございます。

私は誰にも知られないで、彼を愛することの出來る私を、ほんとに嬉しく思つてゐるので御座います。

私は强いのでございます、强いと信ずることが出來るのでございます。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

何をも知らずして彼は昨年の九月仙臺へと參つたのでございました。

秘密を有つてゐることは、誰にしても大きな歡喜でありませう。けれども秘密を保つてゐることは、誰にとつても大きな苦痛であるに異ひありません。

私は幾度、私の心の喜悦を、苦痛を、あなたに聽いていたゞきたいと思つたかしれません。けれども私は、とう〳〵それを我慢してしまひました。

あなたと二人、まともに吹きつける北風にさらされながら、あの原の黃枯れた草を踏んだ時、私はどんなにそれをあなたにお話しゝたかつたかしれません。あの櫟林をくゞつて、暗い杉林に圍まれた池の周りをめぐつた時、今こそすつかりお話しする時だと、私の胸はどんなに高鳴つてをりましたでせう。あなたと二人になつた時、何時とても私は、言ひやうもない壓迫を、この胸に感じてゐたのでございます。

でも私は今日まで、ついぞ一言もそれらしいことを、此口に上せた事はありませんでした。あなたにさへさうで御座いますもの、竟に私は私一人を、此處まで護つて來たのでございました。

私に戀があるとお聽きになりましたら、あなたはどんなにか案外にお思ひになることで御座いませう、けれどもそれは全て眞實なのでございます。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

私が如何に深く強く彼を愛してをりませうとも、それは私だけのことで御座います。彼には交渉のないことでございます。私は彼に愛されやうとは——戀されやうとは——希ふことの出來ないものであることを、私は好く承知してをります。

私を愛するのも、愛さないのも、つまりは彼の自由でございます。私は自分から、何をも覚めやうとは思ひません。それは私自らに對して、私には如何しても出來ないことなので御座います。

彼に對する私の愛情を殺すことは、それも亦私にはどうしても出來ないことでございます。彼は、私の生命でございます、さうすることは、私の生命を絶つのと同一なのでございますから。

私は唯私のこの愛情を、人しれず大切に育てゝ、それを最も大きな美はしいものとすることが、それが私の生涯の仕事であると信じてゐるので御座います。

無論私には、愛のない人と結合して、無意義な共同生活を營まうなどゝは、夢にも思はれぬことなのでした。

私の心は彼で充たされてをります、他の何ものをも容れる餘地はないのです。いかにしても私の愛が、彼ならぬ他の男子に對して芽ぐまうなどゝは、思ひ得ないことなので御座います。

私は自分で自分の往く道を拓いてゆかうと、固い決心を有つてをりました。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ところへ突如として、今度の問題が持ち上つてまゐりました。
私は先方の人を全く存じません、從つて彼が如何なる人物であるか、尠しも存じませんのです。
唯、私の家と彼の家との間には、種々複雜な關係があるといふこと、彼が銀行の重役で、なか〳〵の財產家であるといふこと、そんなことばかりを、父や伯父に聞かされて知つてゐるに過ぎません。
そんな事が私の耳にはいる頃には、もう拔きさしのならないこんがらかつた事情といふものが、私のこの身をしつかりと捉んでゐて、どうにもかうにもならないやうな私を、私はぼんやりといつか視まもつてゐなければならない羽目に陷ちてをりました。
家のため、親のためを眞向に振りかざして、親孝行の美名の下に無言の服從を强ひる人の前に、力無き身は犧牲(いけにへ)として献げられねばならないのでせうか。
「犧牲」何といふ忌はしい文字でありませうぞ。それは羊の皮ごろもをつけた狼の殘虐でございます。昔から如何に多くの人たちが、この言葉の美はしさに欺むかれて、われと身を破滅の深淵に葬むつたことでありませう。
人は生きんがために生れたものに他なりません。生きること、最もよく生きることが、それが人と

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

して努むべき第一のつとめなのではありませんか。

私は謬まつてをりました。私は滅亡の途に一歩踐み入らうとしてゐる自己を見出して、無智の大膽さに戰慄ぐと倶に、覺めたる自己のために限りなき歡喜を感じたので御座いました。人々の絶望と憤怒とが、どんなに激しいものであらうかは、以前 彼等の喜悅と 滿足とが、いかに大きくあつたかを知つてゐる私の、容易に推し得るところでした。

けれどもそれが何でありませう。私は、私のみを畏れます。

私が卑怯だつたので御座います。飽くまでも、自己を主張することの 出來なかつた 私が、弱かつたのでございます。

何といふ恥辱でありませう、私は一度この口で、私自身の舌で、それを承諾してしまつたので御座いました。

私は弱い自分を惡みます、脆い自分を咀ひます。

今、私は强うございます。何ものをも怖れない私は、ほんとに强い私でございます。

父や伯父の立場が、どんなに苦しいものであるかは、私もよく辨へてをります。それを思ふ私も、彼等に劣らぬ苦痛を負ふてゐるのでございます。けれども私には、たとへどんなに苦しいからと申しま

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

しても、自分の本心を僞つたり眞情を欺いたりして、他人の意志に迎合するやうな、そんな卑怯なことは、いかにしても爲すに忍びません。それこそ自分にとつて、大きな大きな許すことのならない罪惡なので御座いますから。

妥協といふことは、自我を沒却することでございます。私には自己を蔑みすることは、どうしても出來ません。自己を瀆すことが此上もない罪惡であると同時に、全力をつくして自己の尊嚴を保持することが、至上の善であることを、私は思つてをりますのです。從つて犧牲といふことも、それが其人自身の眞情の發露によつて爲された結果でない以上、いさゝかもそれに價値のないことは、即ち他から强ひられた犧牲行爲に、三文のねうちもないことは、至極明らかな理であると、私は信じてゐるので御座います。

『今さらどの面さげて斷りが言はれやう』

彼等のさう言ふに無理はありません。それかと言つて謬つた歩みを踏み出したものは、最後までその謬つた道程を繼續せねばならぬといふことは、そんな莫迦なことがあり得ませうか。

魂の危機、それはほんとに私の心靈の危機でございました。一歩を謬まれば、取り返へしのつかない心の破產をするところでございました。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

私は何にも負けませんでした、誰にも負けませんでした。私は全てに勝ちました。

勝利者の悲哀――甘いかなしみと苦いよろこびと、二つながら私は、それを自分のものとして、此小さな肩に負ふことになりました。

今の私には、歸へりゆく家も、棲むべき家もありませんのです。それのみか、親もなく同胞もなく、みよりとて無いのでございます。今私は、自分の生きるべき途を、自分で覓めることの出來る、自分の生命を、自由に育てることの出來る、幸福な境涯に、自分を見つけることが出來たのでございます。

私は自分に對して何時も最も忠實でありたいといふ今のこの願望を武器として、今後のライフを最も生き甲斐あるものとすることに努めやうと決心してをります。私は幸福であらねばなりません。

私は親不孝な娘でせうか。さうかも知れません、さうでないかも知れません。私はどちらでも好いのです。いつかタイムといふものが、全てを明らかにしてくれるでせう。

私は恁うなつた私を、尠しも悔ひてはをりません、私は如何なる場合に於ても、自分が極めて眞面目であつて、何時も自分の最も好いと思ふこころに從つて行動したことを、信じて安んじてをられる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ので御座います。

彼等は異口同音に、私の幸福は其男の妻となることによつてのみ得られるものゝやうに言ひはやしました。或ひはさうであるのかも知れません、未來のことは全て不可知であるのですから。

はじめから愛情はなくとも、特殊の關係に結ばれた男女が共棲してゐれば、其間に愛情は自然に湧いて出る——或る人々は恁う申します。それが無いことではないでせう、さうした場合も、たしかにあり得ることは私とて否定はいたしません。けれどもそれは必至の成行きではございますまい。賴みない偶然の結果に過ぎませんでせう。萬一の僥倖を預望して、尊い自己を投げ出すほど、人は自己を安價にみつもることは出來ない筈です。

もと／＼私は其人を識らないのでございます。或ひは其人は、尊敬すべき人格の人であるかもしれません。が私にとつて、それは問題ではございませんのです。

私には戀人があります。彼はそれを知らないとは言へ、私の全ては、既に／＼彼にさゝげてしまつたもので御座います。たとへ何ものゝ酬ひられるのぞみはなくとも、私の彼を愛する愛は、何の拘束もうくることなき、自由の自由なるものでございます。それが私のよろこびです、満足です、それ以上、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

私は何の覚むるところもないのです。畢竟それが私の、自己に對して護るべき、眞實なのでございます。貞操なのでございます。

何時か孤獨の私のライフに、さびしさの食ひ入つて來る時がないとは斷言されません。けれどもどんな事がありませうとも、私が今日のこの私の斷行を悔むことの、決してあり得ぬことだけは、充分明言することの出來るところなのでございます。

私は餘りに長く書きました。がもう一言加へることをお許し下さい。

それは私の、さしあたつての生活のことでございます。

私が八丈島へ行きたいとは、何時からかねがつてをりましたことで、それに就てはあなたにもしば〳〵語つたことがあつたと憶へてをります。今度いよ〳〵、此多年の宿望が實現されることゝなりました。私は島へまゐります。島へいつて、島の先生となつて、朴篤な島民の間に、當分自然の生活に親しまうと思つてをります。

私は今、舊きものゝ全てをすてゝしまひたいと、それのみを望んでゐます。私は全く新らしい私になつて、新らしい生活に入りませう。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

さうして、靜かに自分を視てゐたいのでございます。自分を育てゝ大きくして、充分強くなつた上で、東京へ歸へりませう。それまではどなたにも、再びお目にはかゝらぬ祈願なのでございます。

これがお別れの手紙でございます。今度お目にかゝりますまで、もう手紙を書かないかもしれません、書くかもしれません。

どうぞ全てをお許し下さい。

私の爲たことは、みんな氣まぐれや我儘ではありません。

私の戀について識つてゐるものは、此宇宙間に、あなたと私と二人しかないといふことを、お憶へ下さい。

私はそれに就て、何をも彼にはしらせたくないのです。彼の心を、いさゝかでも動搖させることは、私に忍びないのでございますから。たゞそれだけをお憶へ下さいまし。

此上私について何をもおたづね下さいますな。この手紙があなたのお手に披かれる頃は、私は既に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

東京灣のまんなかをはしつてゐる船のデックに立つて、消えて行く東京のおもかげを頭腦に描いてゐることで御座いませう。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

中性論

（エドワード・カアペンター）

青山菊榮抄譯

三　同性の愛

其のさまぐな形に於て、愛は我等弱小な人間にとつては常に深奥な意義と切實な關係とを有つてゐる。その一の形たる單純な半意識的「自愛」の如きは、萬有に通じてゐるもので、最下等の動植物に至るまで之を俱有せざるものなく、實に萬物統一の有機的基礎たる觀を呈してゐる。又子に對する母の愛――これもパッションと名づけてよからう――の如きは將來の種族を庇護愛育するの責をも

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

つものであり、更にまた男女間の愛の如きは實に人類社會の基礎を成してゐるのである。これに依て吾人は同性の愛にも亦、究むるに從つて明白となる所の深奥な意義、社會的利益及職分が有るものだと信せぬ譯には行かないのである。

同性の愛を他の愛と同等に見る事には多少異議をさしはさむ人もあらう、また其等の人はこの愛を偉大なる人間のパッションと伍せしむるに足る强烈な透徹的な、時には壓倒的な性質のあることすら認めぬであらう。しかしかゝる説は畢竟事實に關する智識の缺乏から起るのである。そこで本論に入る前にまづ世界の歷史、文學及藝術がこの問題に關して吾人に提供してゐる材料をざつとこゝに述べて見るのも無益ではあるまい。もし愛人の爲めに危險を冒し、苦痛困難を忍ぶこと、犧牲の精神、不動の熱愛及終身の結合が愛の眞實と强さと（健全さと更に私は附加したい）を證明するものならば、さういふ證據は單に男同士のみならず、女同士の戀愛に徴しても無數に發見し得るのである。そして武俠時代の戀語りや、思ふ貴女故の武士の功業や、ヘロとレアンダーの物語に優らぬまでも優に比肩し得るのである。例へば雅典市を潔めむがために進んで贄となつたクラチヌスとアリストデムスの二人の如き、又暴君パラリスの暗殺を企てたチャリトンとメラニパスの物語の如き皆さうである。更に又クレオマツカスの如きは敵陣へ突擊に際して、その愛人なる少年に對つて、戰闘の觀覽を

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

乞ふた。相手の少年が之を承諾した上、やさしく彼に接吻して、手づから兜をその頭に戴せると、クレオマツカスは喜び勇んで味方の精鋭の陣頭に立ち、猛然敵の騎兵を襲撃して之を混亂潰走せしめ、終に味方に大勝を博させた、といふ話もある。

ホーマー前の希臘ほど、この愛に關する崇高な勇武な理想を俱へて居たものは無いやうであるが、とにかくどこの國にもさういふ事實はあつた樣である。ポリネシア島人——大體に於てごく温和な親切な種族で昔は今日よりも開けてゐたらしい——の中には最もロマンチックな友交が行はれてゐる（又は居た。）ヘルマン、メルヴイルは其著 Omoo 中にかう云つて居る。「凡てのポリネシア人が親友を得るのは實に奇妙な方法に依るのである——島の記録はダモンとピテイアの話も及ばぬ程思ひ切つた友情の例を揭げてゐる。時には終生渝らぬ程の熱愛が偶然他島から來た見知らぬ人と一目相見たゞけで成立する事も珍らしくない。」かういふ關係は飽まで正當と認められてゐるので、もし敵對中の二國の男子同士がそんな仲になれば、その二人だけは何等の危害困難の恐れなく敵境を通過することが出來る、とメルヴイルは云つて居る。この愛がどれ程熱烈なものであるかを知るには同氏著「Omoo」の左の一節に照しても分からう——「通常の戀愛關係に於ても彼等は餘り嫉妬に患はされないが、友交の場合には絶對に競爭者が無いのである。」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

これよりも進化の度の低い、且戀愛關係に於ては專ら獸慾にのみ支配されてゐるといふ非難を受け勝ちな野蠻人間にも純粹な友情が芽を出して來た、バロンダ其他アフリカの諸種族はそれで、相愛の二人は各自の酒杯に數滴の血を混ぜて啜り合ひ、名を交換し、最愛の物品を贈り合つて公然約婚の式を擧げるのである。しかし不幸にも目下歐洲を風靡してゐる迂論の爲めに、是等の習慣は研究もされず、當然受くべき注意をも受けずにゐるのである。

轉じて文明人がこの愛を詩に文學に發表したあとを見れば、この情緒の强度と範圍とに今更驚かざるを得ないのである――婦人も及ばぬ愛を傾注して呉れた友を嘆いたダビデの哀歌、アキレスとその最愛のパトロクルスとの勇烈な友誼を基礎として出來て居るホーマーのイリアッドの壯大なバノラマより、下つて希臘盛時の作品――清淨な熱に燃えたピンダルの讃歌、愛人カールナスに對する賢明な訓言に滿ちたテオグニスの高雅な悲歌、テオクリタスの甘美な牧謠、サッフオーの熱烈な抒情詩、アナクレオンのやゝ肉的な歡喜に至るまで、一として同性の愛を表現せぬものはない。エスキラスの Myrmidones 及ソフォクレスの「アキレスの戀人等」の如きはこの愛を動機として成つたものらしい。又プラトーの散文詩的對話も多くこれに鼓舞されたことは確である。

さて羅馬時代の文學になると、當時の物質的氣風のために同性戀愛の靈妙なインスピレーション

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

に觸れ難くなつた、殊にカッルスやマーシャルの如き詩人に在つては單にその野鄙な方面をのみ表現したに過ぎないが、それでも猶ヴァジルの詩に高尙な顯著な例を見出すことが出來る。その第二の牧歌には純粹な熱情のあとが印されて居るが、これはアレキシスなる假名のもとに實は若きアレキサンダーに對する彼自身の愛を不朽にしたものだと傳へられてゐる。またこの愛に關しては浩瀚なペルシヤ文學とサヂ、ハフィグ、ジャミ其他の詩人をも看過する事は出來ぬ、彼等の名と作品とは時代を問はず愛誦さるべきもので、その驚くべき戀愛詩(「友の唇にする別れのキスは苦く甘し」など)は大抵、とまでは云はれなくとも隨分、同性の友に寄せた者が多いのである。

中世の歐洲には無論これといふ文學上の紀念物は無い。が、その末期に近づくと、ウォルターペーターの靈筆に依て不朽にされたアミとアミル(十三世紀)の興味深き譚が傳へられた。尤もこの時代には友人の愛そのものよりも武俠的の戀を理想とした歷史上の證據は在るが、しかし伊太利のルネッサンス、英國のエリザベス時代に至つて友愛は再び熱烈な詩的表現と相俟つて明白となつた。即ちミケランヂエロ及沙翁の莊嚴なソネットは實にこれを謠つたに外ならぬのである。……次にやゝ位置の下る幾多の詩人を經て(獨逸のウィンケルマンもその一人也)近代になると、この愛は甚しく誤解曲說されたに關はらず、——二つの名が特に著るしく顯はれて居る、其一はテニソンで、その「イン、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

メモリアム」は第一の傑作であらう、又其一はウォルト、ホイットマンでカムレードシップを謳つたその詩の情熱に至つては、南北戰爭で傷ついた同胞に彼の注いだ熱誠の外、亦比肩するに足るものは無いのである。

こゝに世界有數の文學者の名が出て來る事と、その同性の愛を謳つた詩文は、其の美、其の熱度、其の人情に於て、普通の戀愛を謠うた如何なるものにもよし優りはせぬ迄も、立派に匹敵し得る事は注目すべき點である。

更に美術の方面に目を轉じて、男子が其の愛情及美感を表現するに當つて男子又は女子の形態を描出した例を比較すれば上に述べたのと全く同じ結果に歸着するのである。希臘の彫像を通覽すれば美に對する男子のパッションは強くあらはれてゐる。が、男子及少年の塑像（男性作家の手に成れる）は數に於ても作家の熱中の度に於ても遙かに女性の塑像を凌駕してゐるに關はらず、ジョン、アヂントン、シモンズがその著「ミケランヂエロの生涯」に述べてゐる通り、男子の像には女子のそれに往々見らるゝが如き劣等な、又は淫逸な表情を帶びてゐるものは殆ど無いのである。

下つてミケランヂエロに至る、これは彩管と鑿とを以て實際百千の人間の形を描出した藝術家であるが、その作品のうち男子の形は何れもロマンチックな情操に鼓舞されたあとを明白に留めてゐ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

るが、婦人の形に至つてはそれが絶無なのである。彼の描出した婦人は――ロマンチックな戀物語中の人物其物でない限り――大抵母親か、受苦者か、豫言者か、詩人か、老女か、力又は温情を示すさまぐの形を示してゐるに過ぎないのである。然もミケランヂエロの男子の像の清さと、威嚴とは到底爭ひ難いものであつて、そのソネットと相俟つて同性に傾注した彼の愛の高潔を語つてゐるのである。

以上の簡單なスケッチに依て世界に於ける同性戀愛の立ち場は十分明白になつた事と思ふ、又上に引用した諸家の實例に照してさへ見れば、少くとも世界最大の人物に表現されたこの情操の威嚴と堅實さとを印象されずには居まい。しかしそれと同時にかゝる見解と相並んで特に現代の歐洲の人心を支配してゐる說――この種の愛を目するに多大の疑念と嫌忌とを以てする說――を無視するのは虛飾である。(イン、メモリアムの發表當時、テニソンがタイムス紙上で受けた猛烈な攻擊の如きは其の一例である)さういふ說に就てこゝに一言するのも無用ではあるまい。

その起因は遠く探ねるにも及ばない。かゝる友誼を知る能力の無い人達は――いはゞ局外者であつて、其の深い情的なロマンチックな性質を解することも味ふ事も出來ぬ人達は、單に腐敗した過激な例を耳にするが爲めである、といふのはさういふ例に限つて世間にぱつとするからである。さうい

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ふ人々はネロやチベリウスの淫逸や、法廷の非議を耳にとめてゐやう、亦寄宿學校や兵營にまま在る惡習を知つても居やう、そこで彼等は（尤も千萬にも）さういふ無節制や肉慾が同性の愛の動機であり目的であると思惟して、これより深い內的結合といふものは容易に認めないのである。さういふ人々には如何なる種類の肉體的親近（少くとも男同士の）はけしからぬ事の様に思はれるのである。彼等の心中には最も單純な素朴な感情の表現と、重大な人間の權利及威嚴の汚瀆との間に何等の差別も無く、亦純なる心と心との愛着と、單なる肉的好奇心との間にも何等の區別を見ないのである。彼等は單に偶發する、又は嘗て偶發した害毒を見て、その再發を防遏せむがためには手段を擇ばなくとも可いのだと眞正直に考へてゐる、然し彼等は內部的愛情は存在する限り、當然何等かの發露を要求するものだ、といふ事を知らずにゐる。かゝる人々は事實の眞相を知る秘鍵が自分に無いので、同性の愛には肉慾以外に何等の原因もなく、且單にそれを覆ふ蓋であるかの如くに看做す性急な判斷を下し、それに依て猜疑し攻擊するのである。

斯樣にしてこの重大な問題に關する見解に妙な齟齬を生じたのである、つまり相互の出發點の相異に依て意見が杆格するに至つたのである。

一方に破門と呪咀の聲があれば、一方にはあらゆる時代を通じて全世界の思想の指導者と仰がれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るプラトーの如き人が崇高な熱誠を以て之を讃嘆してゐるのである。一例を擧げればプラトーはフエドラスに斯樣な言葉を語らせてゐる「少年としては貞潔なる愛人（ラヴワー）を得る程、又愛人（ラヴワー）としては被愛者（ビラヴエワド）たる少年を得るほど大なる幸福はあるまいと思ふ。如何となれば高尚に生きむとする男子を指導すべき主義――その主義（プリンシプル）は近親も名譽も富も將又如何なる他の動機も到底戀愛ほど根づよく植えつける事は出來ないからである。余は何の事を云つてゐるのか、他なし、之なくしては國家も個人も何等の善事をも偉業をも成し得ぬ面目不面目の感じの事を云つてゐるのである。……如何なる人にもせよ、自己の陣地を捨て武器を擲つさまを全人類に見られるより愛人に見られて厭はぬものがあらうか、是よりは寧ろ死を擇ぶのが當然である。將又誰か危險に際して愛人を擲ち又省みずにゐやうぞ、かゝる時には如何なる臆病者も猛者と列ぶ勇士になるであらう、愛が彼をインスパイヤーするのである。神が勇士の靈に吹き込むものであるとホーマーの稱したかの勇氣を、戀する人には自分の戀が吹き込むのである。」……

以上を序論として、次にこれから本問題に關する近時の科學的研究の方面に向かはう。近來――即ちこの三十年來主として獨逸、佛蘭西、伊太利に於ける科學者及才能ある人々の群はこれを專門的に、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

且比較的公平に研究した、その中には伯林のモール博士、維納醫界の泰斗クラフト・エビング、パウル・モロー博士、ロムブロゾー、ウルリッヒス及ハヴエロックエリス等を擧げる事が出來る。エリスの性の心理に關する大著述の第二卷は特に性の顚倒の研究をのみ扱かつてゐる。是等の研究の結果、該問題に對する見解は一變した。當初この現象は病的な性質のもので、同性戀愛の傾向は必ず廢頽又は疾患と關聯してゐるものと簡單に極められてゐたが、信賴すべき報告の集まるに從つてかういふ臆說は放擲さるゝに至つた。つまり見地が一變したのである。其の變化は最近の學者に至つて――モール及エリスの如き――殊に著るしいのである。

こゝに諸家の著書や幾多の興味深き實例を詳細に紹介する事はできないが、その研究の結果得られた一般的結論だけ一寸述べることにしやう。

第一に從來個人にのみ知られてゐた事實、即ち性的轉倒――同性戀愛の傾向――は生理上心理上全く本能的先天的のものであり、從つて其人の根本生命に喰ひ込んでゐて到底剿滅し難いものである、といふ事が明確になつた。さういふ傾向のある人々をウルリッヒスはUrningと名づけた。此の種の人々に關しては稍や明細に前章に述べた。が、是等の人々と、世人のとかく混同し勝ちなかの單なる肉的好奇心が、過度の淫慾又はノーマルな滿足の機會の缺乏の爲めに同性交合に奔る人々との區

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

別はさうはつきりしたものでないことはこゝに一應斷つておきたい。世間の注目を惹き、且當然にもその攻撃を喚起するのは主としてこの後者である。是等の人に在つてはその愛情が單に肉的病的なものたるに過ぎぬ事は自他の共に認むる通りである。しかし前者にとつてはこの感情は、上述の如く心理的情的生命に深く根ざしてからみついてゐるので、その人にはとてもそれ以外に出やうが無いのである。而して少くとも當人にとつては、其の愛が健全な自然であり、從つてその個性の必要な一部とさへ思はれるのである。

第二に性的轉倒の傾向を帶びてゐる者の數は——程度は色々あらうが——意外に多い事が明瞭になつた。

しかしその的確な統計を擧げる事は甚だ困難である、否恐らく不可能であらう、これは國民に依り、社會に依り、地方に依つて非常な割合の差があるからである。又一方該本能が專ら同性にのみ注がれるのと、通常は異性を愛するたちでありながら、偶然又は特殊の牽引を感ずる時、同性をも愛するに至る者との間には、あらゆる段階の介在する事にも無論據るのである。(この後者の如きは萬人には通せぬ迄も隨分多いらしい。)

第三に多くの實例や告白の表や比較に徵して見て、かなり激しい性的轉倒者も生理上心理上、他の普通の男女と何等異なる點の無い事も殆ど確實となつた、(尤もこの種の人々は男子ならば女性的氣

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

質を、女子ならば男性的氣質を帶びてゐるといふ樣な一般的傾向はあるが。）又これといふ程の生理上の構造、又は缺陷、又は明白な心身の疾患との先天的關係も見出されなかつた。又此種の人は通常野卑な、特に低劣な型質では無いのみならず、却て文雅な敏感な人達で、クラフト・エビングの說の如く「美術――特に音樂と詩の天分の豐かな」者が多いのである。又マンテガッツアの說の如く文學上社會上有數の人たる事も稀でない。…………

僅かに科學が確實であると認めた特徵は、この種の人に於ては神經が著るしい發達を遂げて居て、神經的疾患を伴ふ事も珍らしく無いといふ點のみである。しかしこれとても誇張であると考へて可い理由がある、（私はぢき其れを證明するつもりでゐる。）

當初同性戀愛の傾向はそれ自ら病的なものであつて、十中の八九は精神上又は肉體上の疾患と關聯してゐるやうに思はれてゐたが、探究の結果其の反證が擧がつて、最近の科學界の泰斗に至るほど、この說を省みなくなつたのは注目すべき點だとは前にも述べた、尤もクラフト・エビングがこの本能が通常神經中樞の衰弱と關聯して居るとか、遺傳性があるとかいふ說を固持したり、又は「遺傳性神經病的又は精神病的傾向」とやゝ漠然と之を呼んでゐるのも事實である。しかし近代人にはさういふ傾向を全然帶びぬ者は極めて尠い、否絕無かも知れぬといふに至つては餘りに淺薄な見解であ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る。又ドリアの希臘人、ポリネシア島人、アルバニアの山間の住民、其他同性戀愛を盛に行つた著しく强健な種族が皆神經衰弱の患者であつたらうか、甚だ疑はしい！

　モールは此本能を病的と稱してはゐるが（職責上さう云はねばならぬと思つたのであらう）他の病的徴候と關係の在るものと見る說を捨てたのは、著るしい點である。彼はさういふ關係は必然的なものではないと云つてゐる。而してこの傾向を病的と呼ぶ根據は、單なる種族の蕃殖を目的とせぬ性的本能其物は直ちに病理的であると斷ずるきまり文句に外ならないのである――この文句は亦、戀愛には生殖以外何等の目的無しとする科學者の臆斷から生じたに過ぎない。而してもしこの說を究追すれば、職蜂は病的なりと斷ずる樣なヂレンマにモール博士も立ち到らるゝであらう。

　最後に該問題に關する最近の重鎭たるハヴエロック・エリスはその著「性の轉倒」中に、同性戀愛を目して病的とする說を駁して、之は疾病といふより寧ろ變則と呼ぶ可きだと云つてゐる。又曰く「性的轉倒とは異種又は變種とも當然呼ばるべきもので、即ち動植物等、あらゆる生物の中に現はるゝかの有機的變態の一なのである」。

　さてまた、同性戀愛を神經病なりとする說に對してはかう云ひ度い。即ち性的轉倒が特に神質質な人に多い事は事實であるが、神經衰弱との偶然の關係は全く別問題であることを覺えて居なければ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ならないのである。つまりさういふ疾病は轉倒の原因ではなくて寧ろ其の結果なのである。自己の最深最强の本能は周圍の社會に呪咀せられ、その異常の性質を自覺する前に自己に最も近い者の同情も理解も得られぬ事を知り、將又その眞に微妙な愛情を表現するが爲めには忌まはしい罪惡と同一視されてあらゆる攻擊を忍ねばならぬ人々の少時から成人する迄に經る神經の過勞緊張は、身みづからこの種の愛を經驗せぬ局外者の想ひ及ぶ所ではないのである。もとより神經質な所へ斯樣いふ緊張が來ては、神經衰弱や精神混亂を起さすのは當然の理である。もしさういふ疾病が常人よりも同情戀愛者に多いとすれば、斯かる社會的素因が關つて力あることは云ふ迄もあるまい。

次に忘れてならないのは醫師の出會ふのは全體として同性戀愛者中の健全なものより病的なものが多い點である、病的なればこそ醫師の厄介にもなるのであるから。又醫師の研究材料は主に近代の大都市で得られるのであるから、病氣がその結論に色を添へるのも無理ならぬ事である。モール博士は主に伯林警察署の案内のもとに穿鑿をしたのであるが、(警察の關知するのは自然最下等のタイプに限られてゐやう)その說が斯程同性戀愛者にとつて有利なのは寧ろ不思議である。クラフト・エビングもその自序に斯う述べてゐる。「人生の暗黑面、人間の弱所缺點を常に見るのは醫學、殊にサイキアトリーの悲しむべて特權である」。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

該問題に關して科學が鞏固な歩みを進めた方向を見れば、病的なる言葉が同性戀愛に冠せられるのも久しくはあるまいと思はれる。情慾が過度にわたる時——即通常の性愛に於けるが如く生理的欲望が病癖となる時もあるのは予等も當然認める、しかし離婚訴訟を證據として結婚の純潔を是非することの不法なるが如く、近代の社會の眼に最も顯著に映ずる例を以て直ちに同性の愛の眞と美とを量かるのはとんでもない事である。引くだけのものは差引いてもなほ、全體としてこの本能が健全な常態の表出を得て居る例が甚だ多い事は——顯著な變態の一種を成してゐる程多い事は到底否まれぬ事實である。勿論これが病的な過度な表出に奔り得るか否かは問題ではない——それは如何なる本能に在つても已むを得ぬ事だ——たゞ健全な表出を爲し得るか否かが問題なのである。而してこれはもはや予が論をまたなくとも明白になつて居る事と思ふ。

とにかく、科學はその源を發した在來の俗說の專橫な態度を破り、多くの誤解を斥けてこの問題を開示したのである。一方から云へば其の結果は主として消極的なもので、此の愛の正確な立ち場及根據を理解し得ずには居るものゝ、他方、ノーマルな親交を結ぶ人同士の受ける有利な影響を承認した、同時にまた同性からのみ愛されむ事を要求する人もある事を認めたのである。

モール曰く「成功せる愛は同性戀愛者に有利なる影響を與ふ。その心身の狀態は改善し仕事の量は

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

増大すること常規の青年がその戀人を得たる時に全く同じ」。モールの引用したこの種の人の書簡にはかういふ言葉が見える――「愛、友誼、理想、及官能の滿足等、一切を愛する男子一人に求むるが故にこのパッションは斯うも強いものかと思ふ。……然るに今自分は深き、酬ゐられざる愛に苦しんでゐる、それは惡夢の如く余を睡らせない、而して余は胸部に肉體的痛みを感じてゐる」。かういふ場合には相手の愛は健全な生活と活動とに缺く可からざる條件たること、常人の場合に於ける異性の愛と全く同一なのである。

次に、時としてこの愛に伴ふかの生理的要素であるが、これがたとへ難問であり障碍物であるとしても、それは自然が吾人にさしむけた難問であつて、單なる破門や呪咀で片附けてしまふ譯にはゆかない事を認めなければならない。ウルリッヒスからエリスに至るまで、この點に關して多少根據のある説と思はれるのは次の説に過ぎない。即ち先天的轉性者に在ては同一人の中に男女の兩要素が混在してゐるのである、例へば一つ胎芽にしても感情的神經的方面は女性的に發達し、外的體軀及諸官能は明らかに男性に屬して居たりする事もあるといふ。かういふ交雜的發達にも又さまざまの程度種類があるので、從つて同性戀愛者の不同な氣質も如上の理由で説明が出來るかも知れぬ。併し、異樣に聞こえもしやうが、凡てかゝる問題は自然自身の作出にかゝるもので、これに遭遇した本人達に責

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

めを負はす事は難いのである。他の人々には甚だ奇怪に思はれる感情の表出もさういふ人々には自然なのである、單に自然なるのみならず、必要であり避け難いものなのである。さういふ人々に其の感情の表現を一切許さない時は、終に、より大なる暴發を誘致する事になる。我が英國の風俗令は男性同士の愛情の表現を禁じてゐるがために、却てその目的と背反する結果を生じ、公明ならぬ、口にし難い行爲に人を追ひやつてしまふのである。

此の生理的要素に就てはかういふ事も忘れてはならない。即ち同性戀愛は――男同士にせよ女同士にせよ――自然の結果として、普通の戀愛の場合ほど自由に完全に生理的方面に出る事が出來ないので、從つて感情的方面に奔つて社會的生活と友交とに專ら同情を求める樣になり勝ちのである。希臘の彫刻と其の文學の敎訓とを仔細に考究すれば、希臘人の理想は極めて克己的のものであつた事が分明となる。即ち修練を經た男子、鬪技家、自己の力を增進せしめむがために純潔をすら守る節制的克己的な人を理想としたのである。この概念を中心として希臘人はより微妙な感情を燃やしたのである。戀愛の場合も又左樣であつた、劣等な猥雜な放恣はそれには伴はなかつたのである。彼等はこの理想と瞬時も離れた事がなかつた譯でもあるまい、けれどもとにかくかういふ理想を持つてはゐたのである。私は同性戀愛は他日必ずその方向に進むものだと考へる(上に揭げた理由に依て)。こ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

れと共に次の如き事實を擧げる事も出來る、即ち過去に於ける同性戀愛は實に偉大なる武勳とローマンスとの泉源であつて、之と比肩し得るは、その特殊の性質ゆゑに同樣の變化を遂げた武俠時代の戀愛のみである。

凡てかゝる問題に關しては、戀愛の職分を生殖のみに限定する不條理な思想が輿論に大分影響してゐるらしい。而してかゝる意見の後援者は希伯(ヘブライ)及基督敎の傳說である、この說は種族の蕃殖がその成員にとつて第一の義務であり、團體生活にとつては唯一の必要であつた時代に源を發してゐるのである。けれども當時と全く社會狀態を異にする今日は、非生殖的戀愛の地位及目的に對する見解も亦一變すべきが當然であらうと思ふ。

同性戀愛に關しては今なほ未知の點も多く、またそれにはそれだけの危險も誘惑も伴ふ事は事實であるが、他方倫理的及社會的方面から見ればこれは實に意味の深い問題であり、亦歷史上の各時代にわたつて十分是認されて來たことは以上に大抵述べたつもりである。異性間の戀愛には「種族の蕃殖」なる特殊の任務有るが如く、同性の戀戀には社會的の勇烈な事業と精神的子孫の生殖――即ち吾等及社會の生命に變化を來す哲學的思想及理想を生む獨特の職分の有るものと認められぬ事はない。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

スパルタに於ては愛を注ぐ年長者を Eispnêlos ―鼓吹者と呼び、愛を受ける年少者を Aïtes ―聽き手と稱した。これに見ても僚友の愛の敎育的勢力を窺ふ事が出來るではないか。此の愛が武俠的な勇烈な生活の搖籃となつた程、希臘人と深い交渉のあつた事を證するには幾百の例を古典文學から引く事が出來る。

最後に、かういふ關係はもし善導されゝば眞の哲理を心に照し出し、神明に感應せしめ、想中の狀態を誘ひ、且萬人靈內に聖なる美の形を想出せしめ又は再燃せしむるものだ、といふのはプラトーの持論であつたらしい。………

かゝる論議に多少なりとも眞理が含まれてゐるとすれば、同性戀愛は極めて重要な社會の要素であつて、その等閑視、壓迫、又は俗流の誤解が社會の安寧に容易ならざる危害を加ふる事は睹易い道理である。結婚が兒孫の產出及養育の機關として國家にとつて必要なものであると同時に、他の社會的活動の基礎として他の結合の形式の必要なことも明白である。何等かの緊密な愛情的結合を有たぬ限り、人間の生活は不完全であり、其の力は十分に伸張せず、精力が浪費される事は誰しも認むる所である。しかし相愛する男女が子等を捨て家庭を捨てゝ、一層の勞苦を要する遠大な地味な社會的義務に奔る事は(時には起りもしやうが)決して望み易い事では無い。さりとて男子にせよ女

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

子にせよ、難に望んで事をはかるべき友もなく、必要に際して愛を注ぐ者もなく、單身さういふ宏大な活動に對ふ事も望み難い。もし——又希臘の話になるが——ハーモヂアスの愛が家にある妻子に注がれてゐたならば、彼は暴君の誅殺を思ひ立ちもしなかつたらうし、それは正しく彼の仕事でも無かつたらう。もし又友と彼の愛とが互に補佐しなかつたならば、二人はよもやこの勇烈な永遠に記憶さるべき事業に身を捧げやうにもしなかつたであらう。故に最も緊要な社會的精神的活動に必要な刀を供給し、精力を放散させて、然も家庭生活の羈絆と責任とに患はされぬ點に於て僚友の愛に優るものがあらうとは信じられない。

何となれば、今日の社會は暴君の誅戮を以て主要な社會的義務とさせぬまでも、猶舊時の暴君よりも數に於て優り、取扱ふにも一層困難な、多大の勇氣無くしては敵對し得ぬ百千の怪物が居るのである。又兇惡を剿滅し得た後には社會の新形式、思想の新秩序、一般保安の新制度忍耐強く終身を捧げて建設すべき堅固な事實が吾等を待つてゐるのである。(無論是等は何れも當初は反對、嘲笑、憎惡、或は暴力にさへも遭遇しなければならない)。かゝる戰ひは——山間のドリア人のそれとは種類を異にするにしても——それと等しい勇氣果敢を必要とし、又同様に誠實な友誼をも要求するのである。この愛を制度上に公認して、依て戀愛の範圍を擴大しない限り、國民の更に高尚な勇壯な精神生活が果し

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

て營まれ得るかどうか、確に疑問である。………

諸種の社會問題が斯く厖大して來てゐる今日、最も熱烈な恒久な力に依て各方面の人々を結合させる連鎖の重要な事は改めて切言する迄もあるまい。さういふ關係がホイットマンの言の如く「一般政治と至深の交渉」のある事は一寸考へても分かる事である。この政治との深い關係に就て注目すべきは、目下あらゆる文明國に行はれて居る婦人の自由解放の運動には、同性戀愛の顯著な發達が伴つて居る點である。自分らは男子に壓迫され不正な待遇を受けて來た、といふ自覺と、結婚の不平等な聯合に身を屈するを悦ばぬ氣勢の强まつた結果生じた兩性の反目――この反目が婦人同士を親密にし、其の結合を一層鞏固にしたのである。が、その原因はともあれ、かういふ僚友同盟――全く献身的なるは段々多くなつて來て、殊に婦人解放の大主義を實現せんとしつゝある識見ある婦人間に行はれ――に至つた。亦さういふ同盟がかゝる戰ひに緊要な事は云ふ迄も無からう。やはり婦人獨立の戰ひの行はれてゐる北米合衆國に於ても上記の傾向は甚だ著しいのである。

次にこの重大な問題の法律上の地位に就て一言しやう。獨逸に於ても英國に於ても現行法は全く頑迷極まるものである。これは上述の樣な誤解にも基づいて居やうし、又單に立法者が此の問題の論究を欲しなかつたが爲めもあらう。法律が暴行又は風俗壞亂的行爲を豫防しやうとするのは尤もで

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

あるが、成人同士が行ふ内密の然かも有意的關係をも制限しやうと云ふに至つては、既に領分外に踏み出してゐるものと云はれなければならぬ。同性の愛は貴重な社會的勢力であり、時には高尙な人性の必須な要素たる事もあるのである。

然るに一八八五年の法律は同性間の殆ど如何なる親交も刑事上の犯罪を構成し得る樣にした。此の法律は無論何等かの野卑な行爲に對して下された舊法令を根據としたに違ひ無い。しかし男同士の取るにも足らぬ親しさを侯つにさへ斯かる嚴罰を以てするとは（然も婦人同志の交際に全く言及しないのは矛盾も甚しい）餘りに潛越だと云はなければならぬ。法律は（社會的結果とは全く關係なしに）個人の私行を吟味しやうといふのである。これはその領土外たるのみならず、よしさうで無いにしても到底成功する筈は無いのである。（モール博士はもし同性の親交が不道德であり法律違犯であるといふならば、手淫はなほ更さう云はれなければならぬと主張してゐる）。法律は却て眞の、最も重大なる社會的害惡及犯罪――脅嚇取財――への入口を擴大し、且國民生活に多大の貢献をも爲べき愛情の表白――極めて單純な尋常な――さへ暗い影で包んでしまつたのである。

同性の戀が異性間のそれと等しく、自由と品位とに關して世間の非難を招く恐れもある事、嚴正な自制の必要なること、及この問題に關する教授訓育の肝要な事等は勿論認めざるを得ない。併し異性

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

間の關係を取締まる場合、法律の權限は公衆の秩序の維持、弱者を暴力侮辱の危難より救ふ事(結婚法がこの位の事すら實行して居るかどうか疑問であるが)及び年少者を無經驗から救ふ位の事に留まつて居る、同性の愛に關しても法律はこれ以上の程度に出てはならぬと予は考へてゐるのである。此愛に關する緊要な教訓と眞の道義とは適當な教育と思想との普及に俟つ外、到底得難いのであつて、頑迷な法律書などの關知し得る問題では無いのである。

同性又は僚友の愛の重要な事について既に述べた所を見れば、今こそ現代の民衆が制度上に之を公認し、且少くとも輿論や教育機關は之を了解し之に適當の地位を與へむと努むべき時であると考へられやう。この愛と關聯して存在する確かな罪惡――例へば吾等の公共生活と等しく公共學校にも伏在する――は主としてこの問題を一切密閉し隱匿しておくが爲めに生ずるのである。一人としてより善き方へ導かんとする者もなく、惑亂を拔け出る道を指示する者もないのである。而して此感情が最も好もしからぬ方向へ奔るのは畢竟この非公認の結果に外ならぬのである。愛は凡て其の責任を負はなければならない、さもない時は單なる情操又は肉慾となつて頽廢して了ふものである。男女の通常の結婚は家及家族の基礎を作る、親子間の愛は相互の義務と庇護とを包含する、然るにひとり同性の愛のみが公認を缺く時は、其の最善の性質を失つて浮薄な腐敗的なものとなつてしまふの

である。所が一旦之が長幼二者の間に成立すれば巨大な敎育力を發揮する事は予の屢々述べた所である。又之が同等の友人間に成立すれば普通の結婚には到底望む事を得ぬ勇敢な社會的事業を遂行する事が出來るのである。今こそ輿論が如上の事實を承認して、依て公認を得る時生ずる威嚴と是認とをこの愛情に與へ、又同時に理想及標準の存在から生ずる明確な形式及輪廓をも與ふべき時ではなからうか。通常の結婚には社會の公認及或行爲の標準がどれ程必要であるかは屢々聞く所である。それ迄ではなくとも先づさういふ樣なものが同性の愛にも必要ではあるまいか。今よりも古い、原始的な社會にはこの愛は公認された掟となつて居た、而して將來の社會に於ても大抵さういふ取扱を受けさうに思はれるのである。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

海外通信

O. P. Q.

Elvira Castner. 今年三月十二日に七十の誕辰を祝した。西プロイセンの小都會チエムペルブルヒの藥店の子に生れて、十七歳の時女敎師の試驗に及第し、ベルリンに出てバルチモアの齒科學士Henriette Tiburtius の弟子になり、次いで自らバルチモアに渡航して學位を得、ベルリンで開業し、資金を得た後マリエンフエルドの園藝學校を起した女である。今日まで入校したものが六百七十五人、卒業したものが二百七十三人ある。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Elisabeth Mentzel. フランクフルト地方の古記錄を材料にして小說を多く書いた人である。後には單編小說集フエンドネルケン（野生石竹）を出し、又脚本をも作つた。フランクフルト市で亡くなつた。

Molli Rechtlieb. ストツクホルムの手工會（ハンドアルベデツト・フエンネル）の長を二十年勤めて死んだ。

Clarice Tartufari. イタリアの青年男子を誘惑して風俗を亂す歌うたひ（la Canzonettista）の事に就いてロオマで公開演說をした。Eleonore Duse が花束を贈つた。

Kaethe Lux. ライプチヒ女子高等學校の理財學敎授になつた。

孤兒院。女子の職員を置く法案がバアデンの議會を通過した。

寫眞術試驗委員。ブランデンブルヒでは女子の寫眞師が委員に任命せられた。

貧院。ドイツでは一九〇八年に職員五千人中女子が七十二人あつた。一九一三年には職員四千六百二十人中女子が百五十三人あつた。其中に取締役の女子が三人ある。貧院に於ける女子の勤務が優等なことは、次第に公認せられて來た。

Marie Richardson. 女權論者中の先輩 Pankhurst を政府が拘禁した返報だと云つてヱラスケスの名畫「鏡を持てるヱヌス」を小さい斧で切り破つた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

夢をゆくわが船の

尾竹一枝

君見れば
静かなるわが妹君見れば
夢をゆくわが船の薫なつかしき
美しき湖のたゝゆ色にも似て
清らなる森の泉にやすらへる
緑の精に瞳なす君のまなこ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

水にかしげる月のはぢらひにも似る
なつかしきおもて
森の小道（こみち）にあそぶ
小羊（こひつぢ）のしなやかき柔（やはらか）さ
湖（みづうみ）に眩（まはゆ）くもちる夕暮の光（ひかり）か
清らなる綠玉（エメラルド）の夜に煌（きらめ）く夕星か
夢（ゆめ）深（ふか）き君の瞳（ひとみ）に
靜かなる想（おもひ）すずろぎ
わが夢をゆく船（ふね）の黃金飾（かざり）
いと冷（ひ）ややかくみだれ
聖なる光（ひかり）さす夢になつかしき瞳（ひとみ）煌（きらめ）く。

海からに

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

丘に咲いた月見草
優しい嘆きにはてしなく
默つてあがつた眞白な
月の乳首に頬をうめ
燐のきものをきてはねる
海の兒にふるさとの海の
さみしい唱をほのかにも
悲しい節で歌つてゐる。

海の旅人

海のあなたの遙き國に
金と銀との花が咲く
わが戀ふる人の黒金の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

その旅の船の着く港
紺青色の青海に
金と銀との波がちる
海のあなたの遙き國に
こがれ憧れて人がゆく。

雨

靜に雨のふれば
忘れゐし人をやはらかにも呼ばえ
しとしとと憐げにふれば
つれなき人の心に泣く
夜をこめてふる雨
しとやかにふる雨

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

微かにも顫ふ白薊の影に
別れを悼みしつとりと泣く。

夜の瞳

美しい夜の瞳
眠つてゐる銀の夜
緑玉の星、銀の星
靜な心の寢床の陰

泌み入る銀笛のながれ
銀の月光が冴えわたつて
優しい笛の咽びに煌いてゐる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

泉には
森にいこふ泉には
沈黙(ちんもく)の静に眠り
銀(ぎん)と緑玉(エメラルド)の瞳(ひとみ)
さわやかに唱ふ

ふるへる深い夜の唱(うた)
眠る優しい小羊(こひつじ)
泪(なみだ)の瞳(ひとみ)を嵌める小鳥
巣のなかに眠る小鳥
静(しづ)かな夜(よる)のなかに森のなかに
優しく落ちる
夜露(よつゆ)のひとつ——銀色(ぎんいろ)の小さなひとつぶ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

白薊の花

美しい夕暮のなかに
夜を迎へる宵の明星ひとつ
優しくも煌き
かしこくもまたゝく

美しい光りのなかに
夜のただよう薄暮に
輝かしけな黄金色のよろこび
美しく煌く明星ひとつ
緑にちる夕暮の光りに
静かにも涼しく匂ふ白薊の花

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

優(やさ)しく濕ふ夕暮の露(つゆ)
さみしくさみしく
ただひとり泌々と夜をまつ
悲しい影(かげ)の白薊(しろあざみ)

美しい夕暮
煌(きらめ)く宵の銀の星
優しく匂ふ涼しき花
夜のたゆたう光りの流れのなかに
心ゆくまで顫へてゐる

暮調

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

悲しくもまた夕暮の
かはたれ刻の蕭やかさ
物靜かなる微笑に
沈める心の追憶の
そこはかとなくたちどまり
悲しく辿る哀別の
戀の深さの眼差に
いと蕭やかに蕭やかに
無言の微笑にちみゐで
物靜かなる死の如く

夕暮がたの蕭やかさ
沈める銀の絃の節

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

泌(し)みてなくげに辷(すべ)りゆく
いつとしはなく微笑(ほゝえみ)の
悲しく消えゆく蕭(しめ)やかさ。

露臺(バルコン)の草花

暮れてゆくほの白き露臺(バルコン)に
やはらかに白薔薇(しろばら)と紅薔薇(べにばら)と黄薔薇(きばら)の花(はな)
露(つゆ)をためて香ふなつかしきかな。
優(やさ)しく甘(あま)くたゆたう感觸(てざはり)に
いつとしか優しく悲愁(かなし)む夕暮
綠(みどり)うつくしき葉のかげに
靜(しづ)かに呼吸(いき)するみいろの薔薇(ばら)
黄なる夕月のただよいに

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いつとはなしに眠るなつかしきかな。

銀色の花

銀色の小さな光の名もしらぬ草花
惱ましげに呼吸つく哀れさ
夕暮の寺院の鐘
撞かれてはなる寺院の夕暮の鐘
その鐘に恐ろしげに靜寂をあむ
惱ましげなその銀色の花
小さい花のいとしさかな、

五月の雨

――大阪にゐる美しいTに捧ぐ――

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

別れの悲しき日に
雨(あめ)はしとしと銀色(ぎんいろ)にふる
泪(なみだ)は優しうさしぐまれ
二人のこころが啜泣(すゝりな)く。

絹糸(きぬいと)のような雨がふる
銀色(ぎんいろ)の雨がしとしとふる
二人のこころにふりしきる。
誰(だれ)もしらない美(うつ)くしい
二人の戀の挿話(エピソード)
それの別れが悲しいさ
しとしと雨が泣いてゐる。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

雨がふる、銀色の雨が
桐の花が紫に咲いて
綠の葉に冷い雨がふりしきる。

十六日夜

旅の別れ

桐の花が泣いてゐる
燕の兒が泣いてゐる。
細い雨が泣いてゐる。

みんなが一所に泣いてゐる
私の心も泣いてゐる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

別れがつらいと泣いてゐる
みんなが泣けば泣くだけに
私の泪もふへてくる。
雨はしとしとふつてゐる
燕の兒が泣いてゐる、

大阪にて十六日夜

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

草と小鳥と魚と神様（感想）

尾竹一枝

深い山——最も自然な——を通つた。だれひとり人間の歩まい。
そこには美しい花が都會の花園でみるよりも、温室や露臺（バルコン）でみるよりも、ずつとずつと生々（いき〳〵）してゐる美しい花が緑の色も強く咲いてゐた。　みられる事にも飾られることにも無關心で、ひとりびとり立派に咲いてゐた。
大きな自然にどこから何處まで充分に育てられて悦ばしげに咲いてゐた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

咲くときがくれば力いつぱい咲いて、しぼむときがくれば未練もなく根こぎから奇麗にしぼむ。
彼等はみんな自で尊重してゐる。かけがいのない自の「生」を貴んでゐる。他がみてゐようがゐまいがそんな事には頓着しない。
大きくなるだけ大きくなる。
力のあるだけ力を出す。
自然と運命はいつでもぢいつとそれを見守つて心から嬉しそうに微笑でゐた。

深い森――神の始めに創造たままの――を通つた。だれひとり人間の眠らなかつた。
そこの深い森の樹々には世にも強い優しい巣のいくつかがあつた。みんな美しい衣裳をつけた小鳥ばかりだ、まだ都會ではみたことのない。
それらの唄ふ聲、さえずる唱の節の面白さ美しさ清らかさ、ほがらかさ。
青い鳥も紅の鳥も黄色の鳥も紺青色の鳥もみんな樂しげに聲をそろへて唱つてゐた。
自然の緑の蔭に巣を造つてゐる私達
なにもかも生々した根と茂みをもつ私達

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新鮮な空氣と
自由のさへずりと
力いつぱいの働きのもてる私達
けふも愉快な寢床につきましよう。
自然と運命はいつでもぢいとそれを見て心から嬉しそうに「おゝ可愛い兒よ」と微笑だ。

その森のなかの泉にいくつ色でももつてゐる奇麗な魚が跳てゐた。森の綠を透して投げる黃金の日をあびながら、益々奇麗に跳てゐる。眩しい光りのなかに煌く魚のどれもこれもはみんな深い感謝と悅びのために跳てゐるのだ。沈默ゐるけれどみんないつぱいに悅びと感謝を神樣と自然の泉にさゝげてゐるのだ。

自然と運命はいつでも森のかげからそれらをぢいつと見て「なんと云ふ好ましい兒だろう」と心から愉快げに微笑だ。

五月十日旅をして

可成り大きな山を頽してゐる人間の一群に出逢つた。

その山は赤土の山でそこに太陽がギラギラ眩しく輝いてゐた。

人間は男だつた。人足だつた。工夫だつた。土地の百姓であつた。みんな穢く汚れたシャツを着けてゐる。ズボンだけであと裸でゐるものもある。素裸で破れたきれの帽子をさかしまに頭にのせて汗ばむ顔に赤土をつけてゐるものもある。どれもこれもそれらの群の男は張り切つた肉體をもつてゐる。そして皮膚は眞黒だ。氣持よくキユキユとはちきつてゐる背や胸の筋肉を太陽が一層強く射つてゐた。

一生懸命で腕いつぱい全體から力を呼び起して山の土をうんと掘る。赤土の山の麓はそんな力で充ちてゐた。

旅人は思つた。

この人達はなんと云ふ幸福な人達だろう、なんと云ふ愉快な人達だろう。力いつぱいに山の土を掘つてゐる。そしてすぐにこの山を頽してしまふ。力ばかりの仕事だ、力ばかりの勞働だ。この人達は裸になつて、こんなに力いつぱいの勞働をしてゐる。なんと云ふ羨ましい事實だろう。そしてこれらの人達は決して社會の不公平なことを恨んだり怒つたり呪つてはゐない。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

みんな滿足して安心して汗にまみれてゐるのだ。今の社會制度になんの不平も有つてはゐない。都會の人間で今の社會制度に不平をもつ特志家が假にここに來合せて彼等に隨分危險な話――その都會から來た人間だけの話――をきかせたら理もなく只騷ぐだろう。併しそれもすぐ消える。その騷ぎもすぐなくなる。彼等山を頹す爲の人達はすぐに作られたさかしげな智惠から覺めてまたこの山の麓に集つて、力の限り働くだろう。山を堀つて汗を流して暮すだろう。それが彼等の最も安全な眞實な生活なのだ。

人夫や工夫は時々高らかに笑ひ興じて同じように山を堀つてゐる。鶴嘴はキチンキチンと步調をそろへて太陽のなかに光つてゆく。

旅人は二度も三度も幸福な人達だなあと思ひながらこの群から離れていつた。

五月十二日旅して

青く生々と麥が育つてゐた。

その麥畑はよく晴れた空にそつて限りなくつづいてゐた、雲雀はかけづり廻つてゐる。ピイピイと高

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

く低くよく啼いてゐた。

私はその田舍道を歩いた。荷車のあとについて歩いた。元氣よく歩いてゐた。その路ばたに親鷄が澤山のひよつ兒と遊んでゐた。こまかい芽草を嘴でつつきながら遊んでゐた。ひよつ兒は麥畑のなかを愉快げにくぐりぬけて悦んでゐた。

荷車は可成りひどい轍の音をたててそのひよつ兒の群のなかを通りかけた。私はひよつ兒が驚いて怖がつて逃げるだろうとすぐ思つた。

けれど田舍のひよつ兒はちつともそれを怖がらない。もとよりずつとずつと愉快げにはしやぎ出した。

私は何故ひよつ兒が怖がらずにそしてちつとも驚かなかつたのに不思議がつたり感心しながら又荷車のあとについて麥畑のそばを歩いてゐた。

五月十四日旅にて

信心家に出逢つた。

その人は女だつた。初め出逢つたのはある田舍の觀音樣の堂だつた・私はその人は觀音を信心する人

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

だと思つてゐた。その人は可成り長い時間そこでお詣してゐた。私はよくよく信心家だと思つた。
その次には稲荷の堂で出逢つた。その人は初め逢つたとき詣つてゐたと同じ程度でお詣してゐた。そして今度はおみくじまで引いてゐた。私はこの人は稲荷様も信心してゐるのだなあ。ひどく信心家だと思つて別れた。
それから五六度、それぞれ違つた神様や佛様の堂でその人と出逢つた。私はその人のもつてゐる「信心」をすつかり疑つてしまつた。

五月二十七日

夕暮ある町はずれで私は五六人の貧乏人の子供の群のあとについて歩いてゐた。その子供は女の兒が多數だつた。みんなワイワイ汚い言葉で話してゐた。なんでも「金持」の事を話してゐたらしかつた。
やがてその内の女の兒のひとりはその一列より前に出て「金持の家の奥さんの歩き方だよ」といつて妙にすました姿をして歩いた。
前の顏はみえない。後姿だけは汚い衣物の陰から——それでも何處やら金持の奥さんらしいと見

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

させる皮肉な姿がちらと見えた。

あとの貧乏人の兒の連は　ワイワイ手をうつてうれしがつた。

その女の兒はことに得意だつた。

五月十二五日夕方

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

編輯室より

何だかこはれものを抱へて居る樣な氣持のする日だ。今日(廿六日)私は一寸用があつて來られなささうだつたので、來ぬつもりで居て、さつき來て見ると校正は大部分東雲堂にやつてあるといふ、何だか來たことが餘計なことの樣な氣持がする。

雜誌は何だか出す當時の豫期から大分違ざかつたものになつて終つた樣な氣がする、こんな雜誌ならそこら近所にいくらもある、何も私共が騷いで別に出すにもあたらないとも思ふ、然しこれはいざ出すとなつた前後から、私をはじめ同人の周圍にいろんな動搖が起つて同人凡ての全力が雜誌に集らなかつたからなので、つい手なれた見なれた體裁の雜誌に編輯してしまつたからなのだ、やつぱり私達は私達の最初企てたものにせねばならぬ。それで近いうちに體裁内容をかへることにより〳〵相談して居る。

動搖も手がるいものなら時々はある方がいゝと思つて居たが、魂を土臺からゆりうごかさずにおかぬ樣なのは恐しい、もう大概に行つて終つてほしい。その爲に私は半年ばかりといふもの、讀みもせず書きもせぬ、今迄の生涯にない暗黑な生活を通つて來た。自分でそのよつて起つたところと、行きつくところの末の假想も出來るほどな餘裕は有つて居ると信じて居るけれど、それにもまれて居る自分を可愛想に思ふ方が近頃はよつほどかつて來た。

私の飜譯は今月も出ないことになつた、ちやんと出來ては居たのだけれど、ページがどうも超過して終ふので出せなかつた。私共は多い丈がいゝ樣な氣がするけれど、雜誌の經營者にはそれは尤も恐いことなのださうだから。初號次號よりページが少いことに異議をもつて居る方は、兩者の立場の相違に餘儀なくせられて居ることを御了解願ひたい。

「中性論」は今度は抄譯になつて居ると青山さんからお斷りがあつた。それはお忙しかつたので〆切近くになつていそいでして下すつた爲と、拔く方がよみいゝところが有つた爲なさう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

今度の挿繪は大變に美しいからうれしい。サアリー・セエリーのはサロメ踊ださうで、兩手さ足さは蛇の形になつてゐるのださある物識が云つて居た。

この月に私に一番近い人々は私から二度移轉通知をうけさつた筈。ほんさは私の山伏町の宿に虫がわいたので、移りたがつて居たら、尾竹さんが福美さんが居なくなるから部屋が一つあくから、一所に住つて見様さ云ふので、雜誌の方のこさをするにも二人一所に居れたら都合がいゝさ思つて、兎も角行つて見様さ手廻りの物丈もつて行つたけれど、やつぱり日が暮れる頃になるさ牛込の邊が思ひ出せて、大切にして下さるお母さんや福美さんの好意をすてゝ、私は尾竹さんが奈良に行つてる留守に、にげた樣にかへつて終つた。そして今のさころに移つた。そのうちに又うつるかも知れぬ。兎に角家移りは氣が變つて面白い。

私は幼い時に嫂の實家に泊りに行つて逃げて歸つたこさを思ひ出した。九ツ位であつたらう、學校のやすみの時に嫂が連れて行つてくれた。土地の豪家なので馬鹿に大きな構の家で、その頃は別にそこには子供は居なかつたし、私は數多い下女や下男さは廣場の方に出て遊んで居た樣な氣がする。でも日暮れになるさ仕事のある人達は忙しくなるので、さりのこされて廣い果物畑さ野菜畠さつゞいたさころで沈んで行く太陽を見て居るさ、もう母の家が戀しく／＼なつて來て、その時に歸られればもう一生歸られぬこさの樣にさりつめた氣がして來て、一錢の渡し賃をもつた丈で一里ばかりの山道を日暮れにドン／＼逃げて歸つたこさのあつたのをフツさ思ひ出した。そしてそんな子供らしい直にさりつめた感情をもつこさが出來る自分が未だ脉のきれて居ない、たのもしい樣な氣がする。さりつめた戀も出來るし、一生懸命な仕事に對しての努力もたしかに出來る樣な氣がする。

今日(廿七日)尾竹さんはこゝに來る時生れてはじめて奥さんさ車夫に云はれたさうだ。それで折角の先方の氣分をこはしてはいけないさ思つて、どちらへさ云はれた時に、やさしい聲で新榮町一丁目迄さ云つたさうだ、それでさう／＼十五錢さられて居る。これが奥樣さよばれた罰金なのだらう。

松井さんは信州にカチユーシヤをもつて行つた、幾轉變のあるあゝした位置に立つて故鄕に歸るさ云ふこさはどんな氣のするものであらう。故鄕ではあり、ものがものだから無論大成功のこさゝ思つて居る、これからは旅先の感想さ云つた樣なもの

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

が來ることになつて居る。

哥津ちやんはお父樣が久し振で歸京されたので、今月は校正にも出られない。旅のすきな畫師のお父さん、旅に出ると歸りつく迄家のことも子供のことも忘れて居るお父さん、そしてその人を久し振で迎へ入れて居る哥津ちやんのことが頻に思はれる。今月は何にも出來なかつたけれど、來月あたりから具體的に特殊の研究を始めると云つて居る。

福美さんは結婚式がすむと銚子に旅した。六月の中頃迄には歸京のことゝ思ふ。

小笠原さんは來月あたり主人の赴任地の金澤に立つことになつて居る。雜誌は頻にはなしともながつて居るけれど、そして主人も東京に居ていゝと云ひなさるさうだけれど、勉強の爲に暫時東京をはなれ度いと云つて居られる。同人の一人が東京に居なくなるのは可成な苦痛だけれど、私共は自分々々の勝手ばかりは云つて居られぬ、そして同氏は田舍に行つたらもつと勉强が出來ていゝものが出來る樣な氣がすると云つて居られるから、私共の希望をそこにつないで、近く皆で送別の集をする氣で居る。

尾竹さんは頻に奈良に行きたがつて居る。

私も旅に出たい氣がする。ぢつとしては居られない樣な、何だかあはたゞしい氣のするこの頃だ。(市)

桐の花が紫に咲いて燕の兒が雨のなかに遊んでゐるこの時分私は少しの間旅をした。

それは私にとつて大變に心持のよい旅でそして私のこれからの生活にひどく關係のある旅だつた。

私は今度都會生活をしばらくよして平和な優しい田舍に生活することに決めた。この事はもう久しい以前から思つてゐたことで、いつもそのことを思ふたびになんとも云い樣のない悅びと滿足が自分の心に充ちてくる。そのたびに私はその實行をますます根强いものとして取扱つてそれにともなつてくる背景をまたたきもせず愉快に見守つてゐた。

私は田舍にゆく日のかうしてゐるうちにも近づいてくるのが嬉しい。心から眞面目に自分の姿を見守れて嬉しい。靜な平和な田舍に私は都會の華さや悅樂苦惱から逃れてゆくのだ。

私は決して都會を嫌つてゐるのではない。私にとつては都會はなつかしい巣である。私の都會はいつも私を悅ばしてゐたけれども私はあまりに無智であつた。そしてその上激しい感情にあまり多くの心を使ひすぎてゐた。私の銳いさまざまの感情は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

私なにものにむかつても決して靜かでは置かせなかつた。なつかしい樣々の草花からちる露のやうに私の泪はいつも優しい私の心持の陰から離れてはくれなかつた。私の感情はひといちばいすばしこく、ひといちばいいとしげなものだつた。だから私はこの都會を決して嫌つてゐやしない。ただ私が氣付かつたばかりなのだ。

　私が田舍にゆくのは只靜かな時間がほしいのと、自分の思索と自分の本氣にかく絢のすべてがほしいからだ。私は自分が田舍に出かけて生活をすることについて隨分いいたい事も澤山ある。それについてこの月の號に「雲雀の啼く村へ」と云ふのをかく筈だつたけれど、妹の婚儀に自分の心まで遂ひ家庭的にとり込んでしまつたのでなにひとつ書くことが出來なかつた。

　この頃私は自分目のあたりに注意しすぎてゐるやうだ。そして今迄になく自分のやらうと思ふ事になにくれとなく氣を使ふちよつと憶病になつたやうな氣も一時したけれど、それが私にとつてそのまゝ有ちつゞけてゆくこと出來るものならこれからの自分に隨分よいことを與へてくれさうなので悅んでゐる。

　只この頃私はいい本を讀みたくてたまらない。靜に本が讀めればどんなによい事だらうと思つてゐる。私はだんだん成長してゐる。だんだんよいものに自分がなつてゆきさうだ。きつとよいものが自分の眞實の力から出來てくることが見えてゐる。ともすればあせり出しさうになる自分を私は強い力で押へながら、自分の遠い先きに燦いてゐるなにかに向つて元氣で眞面目に進んでゐる。

五月二十七日校正室で

　この間の旅に大和に富本さんを訪れた。燒きあげられた陶器が靜かに書院にならべられて富本さんは靜かにそこで憩んでゐられた。

　富本さんの駒鳥は隨分面白い駒鳥だ。

蓄音器でカルーソーのクゴレットをはじめると胸をはりきつて（人間ならば眞赤にきばるところ）力限り高く尖く唱ひ出すのだ。そしてほかのものをいくらやつても決してカルーソーの時のやうに興奮しない。決してしない。だまつて俯きをむいて低い聲で唱ふきりなのだ。

　それと富本さんがピツコーを吹き出すと又カルーソーのそれのやうにひどく興奮して唱ふのださうだ。

　二度目に――靜に雨が降つてゐたとき――伺つたときは丁度ピツコーで駒鳥をつり出してゐらした時だつた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

「カルーソーは駒鳥からなにかの暗示（ヒント）を得たと云ふぢやありませんか」と話された。

「雲雀はずつとずつと朝早く曉方から啼いてゐます。遠くの麥畑の方でチイチイといつて早くから啼いてゐます。雀なんか雲雀より隨分なおねぼですね、私が夜中から曉方にかうして陶器を燒いてゐると、いつも一番早く啼き出すのが雲雀です。

蒲公英は朝が早いとまだよく眠つてゐるんですね。みんな花をつつんでゐるので朝方早く散歩するとちつとも咲いたのを見かけません。それが少し朝日が昇りはじめてから二度目の散歩をするときつと蒲公英がそこいら一面に咲いてゐるのでさつき歩いて咲いてゐなかつたのによくこんなに一度に不意に咲いたものだと不思議に思ひます。けれども事實はそれだけのことなんですよ、

番紅花の今使つてゐる闘糾はその二つの事柄――朝の早い時に映つた――をとつて作つたものなのです。」

これは富本さんの話のなかの挿話だつた。意味のあることがひどく嬉しく思はれた。

來月から番紅花がすつかり衣裳をつけ直して氣持のよい歩みを希望と光明に煌いてゐる道程にすすめてゆくことになつた。

妹は今千葉の銚子海岸にいつてゐる。六月の下旬に郊外に家が建てられしだい歸京する。（カツヱ）

寄贈書籍雜誌

白樺　エゴ　假面　近代思想　藝術
卓上　青鞜　アララギ　心の花　ホトトギス
蛇の舌　歌舞伎　自畫像　風景　音樂
帝國文學　我等　反響　その他

謹告

編輯に關する用件及寄贈圖書雜誌は左記宛に御願ひ申上候

東京市下谷區下根岸八十三番地
番紅花編輯所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新刊紹介

詩集　かなたの空　川路柳虹氏著

東雲堂發行
定價八拾錢

なつかしい詩集である。
ひとつひとつ讀んでゐるうちに泌みこむやうななつかしさと寂はしさの情に囚はれてゆく。どれもこれも私にはみんなたまらなく嬉しく思はれなつかしく思はれた。
蘆の笛と低唱のなかにかぎりなく私は嬉しみを求め得た。
EXLIBRIS も心持よく裝幀もゆきとどいた作者の優しいなつかしみの情が流れてゐた。
しかし心惜しいことにはカットはその優しい美しい詩集を少しばかりきづつけてゐたやうに記憶する。かなたの空には極く不似合ひな飾(かざり)と思つた。

小説　戀娘　田村俊子氏作

牧民社發行
定價九十錢

戀娘のなかで拇指の刺と戀の手紙だけ讀んだ。みんな短篇ばかりであるが氏でなくては描けぬ感情のまつはりがやはりたまらなく味を出してゐるやうに思つた。
その人でなければ持てぬ味(あぢ)はいつまでたつてもよくなるばかりで讀むたびごとに鋭く冷く光つてゐる。優しい美しい奇麗な娘達のなぜだか是非よまればならぬ本、求めればならぬものの樣に思へた。
「戀娘」は極く極く奇麗なそしてどことなしにきどつた裝幀である。ことに表紙の千代紙に金文字で「戀むすめ」とかゝれたのはいかにも戀娘をすぐ思はせた。

涙より闘ひに　生田虎藏氏著

次號に神近さんが批評紹介する筈。

婦人解放の悲劇　伊藤野枝氏譯

東雲堂發行
定價六拾錢

男子によつて取扱はれた婦人問題は、男子の視た婦人問題である。男は男の立場から女を視る、女は女の立場から女を視る、其處に大きな距離のあるのは當然である。婦人問題を解決するものは婦人であらねばならない。最も大膽に思索し、最も勇敢に實際するこれら先覺者の聲を聴け。今や漸く眼覺めんとする私共婦人のために、寄與するところ必ずや尠くはないであらう。本書收むるところはエンマ・ゴルドマン論文婦人解放の悲劇、結婚と戀愛、少數と多數及びエレン・ケイの戀愛と道徳の四篇並びに二女史の小傳である。譯筆は極めて簡潔明快である。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

■本誌定價　一冊金參拾錢（郵稅一錢五厘）

■前金購讀料　（三冊分）金九十錢　（六冊分）一圓八十錢　（十二冊分）金三圓六十錢、郵稅は發行所に於て負擔す。

■廣告料　普通一頁　金拾五圓　特等　金貳拾圓

大正三年五月二十九日印刷納本
大正三年六月一日發行　（毎月一回一日發行）

禁轉載

編輯兼發行人　東京市日本橋區檜物町九番地　西村辰五郎

印刷人　東京市京橋區新榮町一丁目二十一番地　佐藤保太郎

發行所　東京市日本橋區檜物町　電話本局一八七一番　東雲堂書店　振替東京五六一四番

文祥堂印行

日本唯一の俳優通信學校

◉男女俳優志願者の獨學機關
◉現代演劇研究者の羅針盤

第一年 第一號
五月十日發行

演劇講義錄

學務顧問

都新聞記者 伊原青々園氏
文學博士 上田敏氏
公衆劇團舞臺監督 松居松葉氏
文學士 小山内薫氏
文學博士 醫學博士 森鷗外氏

講師

都新聞記者 伊原青々園氏
俳優 井上正夫氏
無名會俳優 東儀鐵笛氏
同 土肥春曙氏
文學士 小山内薫氏
劇作家 岡本綺堂氏
劇評家 岡鬼太郎氏
文學士 茅野蕭々氏
俳優 河合武雄氏
劇作家 吉井勇氏
文學士 高安月郊氏

田村成義氏
文學士 成瀬無極氏
文學博士 上田敏氏
楠山正雄氏
松居松葉氏
俳優 松本幸四郎氏
文學博士 藤代禎輔氏
藤間勘右衛門氏
文學士 小宮豊隆氏
劇評家 饗庭篁村氏
音樂家 北村季晴氏
文學士 島文次郎氏
島村民藏氏
文學博士 森鷗外氏
關根默庵氏
文學士 菅鏡造氏
劇評家 杉贋阿彌氏
（其他數氏）

目下入會金全免の特典あり

■五月より新學期を開始せり 此際最も入學に便なり……
■修業年限僅かに一ケ年 修業後は種々の特典あり……
■月謝一ケ月金五十錢 入會金五十錢…（目下全免）…
■講師は劇壇文壇專門大家數十名執筆……
■講義は全部振りかな付平易簡明にして何人にも解し得……
■科目は演劇初歩より懇切丁寧に解説す……
■會員は新舊劇觀覽の割引其他種々の大特典あり。

規則書葉書にて御申越次第送呈す

東京市京橋際 玉木商會内
演劇研究會事務所（編輯事務取扱）

東京市日本橋區 數寄屋町九番地
鈴木書店（規則書及入會申込取扱）

GALERIE TANAKAより

□先月より新に開きました美術店田中屋は皆様に美しく權威ある藝術品をのみ提供致し度く存じます。

□最近に陳列してあるものでは梅原、藤島、有嶋、山下、津田、岸田、リーチ、石井、萬、大野諸氏の油繪、高村、戸張、兩氏の彫刻、富本、河村リーチ津田諸氏の工藝品等で皆氣高い匂ひと輝きとに充ちた作品ばかりでムいます。なほ外國の立方派（キユビスト）表現派（エキスプレツシヨニスト）の版畫も二三ムいます。

□夫れから本月の廿三日からは

富本憲吉氏作陶器展覽會

を開催いたします。此の最近の陶器約七十點と陶器圖案とを陳列いたします。この淸楚な展覽會がいかに夏のガルリーを樂しくいたしますかは皆樣の御豫想に任します。

□本店の機關册子『卓上』の二號は左の内容で此の十日に發行いたします。御入用の方は御來店下さるか郵券貳錢御封入御申込下さい。

卓上

第二號内容

△モリス・ドニー論　ホール

△富本憲吉氏の陶器に就いて　田中喜作

△海外美術消息、餘錄

△插畫マイヨール三葉、ドニー一葉

京橋區竹川町拾一番地　美術店　田中屋

久津見蕨村先生新著

ニイチヱ

（好評再版）

本書は先生がニイチヱに對する全理會を傾倒して極めて明快にニイチヱの全豹を描出したる名著にしてニイチヱの性格、ニイチヱの事業、ニイチヱの思想、ニイチヱの哲學、ニイチヱの世界觀、ニイチヱの人生觀、ニイチヱの理想の各章、爛熟の想を行るに奇峭の文を以てし人をして世界の哲學ニイチヱの前に立ち親しくその說を諦聽するの感を起さしめずむば止まざらんとす

四六判美本　定價九十錢　郵稅八錢

内田魯庵先生新著

沈默の饒舌

（『大正文庫』第十二編）

三六判美本　定價八拾錢　郵稅八錢

維摩の一默その聲雷の如しといふ今や日本文壇の老維摩内田魯庵先生が沈默の境中に一大獅子吼を試み婦人を濟ひ文士を度し靈肉の調和を說き生活の難易を敎ふその言の懇切なるその論の穩健なる誠に人間處世の好南針たりこれを目して饒舌となしこれを評して咄哉と云はむは蓋し未だ方丈の妙諦に參する能はざるもの

東京小石川原町六　振替東京一五六八六　丙午出版社

東京小石川原町六　振替東京一三五三　鷄聲堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新刊

平塚明序
伊藤野枝譯

■婦人解放の眞意義は果して如何?■

婦人解放の悲劇

婦人を解放せよ、婦人よ自覺せよ、婦人よ、天賦の才能を發揮せよといふ叫びはただ漠然と聞へる。この時に當り歐米先進國の婦人はその所謂解放の第一歩を實現した。そしてその結果はどうであつたか。彼等は更にその第二歩の解放に入らざるべからざる窮境に陷入つた。本書、エンマ・ゴルドマン、エレン・ケイ二女史の論文四種を譯輯せるもの、最も健全にして理解ある兩性問題の解決である。既に我等に用なき因襲の羈絆を脱して女性本然の光輝ある生活に入らんとする勇氣ある女性、及び理解ある男性の一讀を切望す。

附錄
エルマ・ゴルドマン小傳
エレン・ケイ小傳

菊半裁二百七十頁頗美本
二女史肖像寫眞版挿入
定價金六十錢・送費六錢

■玆に健全なる兩性問題の解決あり■

發行所　東京市日本橋區檜物町九（振替貯金東京五六一四）　東雲堂

阿部次郎著

三太郎の日記

■再版發賣■

緑色總和布装幀
凾入紙數六百頁
定價金壹圓
送費金八錢

■弱くしてやがて強き人間の心を語れる書なり。
■寸毫も被ふ處なく自己を正視し解剖せる書なり。
■暗黒と失望と憂愁より光明と歡喜と愛への經過。
■虚妄と浮薄を排し眞理の愛護と眞生命の樹立と。

著者が事物の實相を凝視し、自己の眞性を解剖し、實在の本質に沈潜する眞摯にして遜讓なる態度は何人に向つても、輕浮と淺薄と傲慢とを振り棄てさせずにはおかぬ。著者は實に謙遜なる個性の愛護者であり、勇敢なる眞理の熱求者である。理智の戯を拒否する誠實なる内省の體驗者である。
著者は實に喧噪なる外面道德の專橫と虚妄とを排し、精神の皓潔、心情の純眞動機の正直を尙ぶ内面道德の高唱者である。『三太郎の日記』は洵に、斯くの如き今の世類似の稀なる人格者が、その内生活を端的に披瀝したものである。その尊き思索の閃きは、各人の心に光と悅びとを與へずにはおかぬ。現代の最も卓越せる容智を渴仰し最も深遠なる思想を瞻望し、最も崇高なる藝術を希求する人は必ずや、本書によつて、その渴仰と瞻望と希求との充足を感ずるであらう。（帝國文學批評摘載）

■書肆は日本の思想界に斯の如き誠實なる著書を薦め得たるを光榮とす

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四番）　東雲堂書店

六月十日 新刊發賣

新藝術の烽火

未來

新藝術の使徒

第二輯

定價金六十錢・郵税八錢

寫眞版數葉・菊判三百五十頁

詩 (創作)

三木露風
服部嘉香
川路柳虹
新城和一
西條八十
増野三良
柳澤健

譯詩

ブレーク 服部嘉香
レニエ 柳澤健
カンヂンスキイ 灰野庄平
グレーク 川路柳虹
ベルレエヌ 新城和一
ボヘミア諸詩人 西條八十
ブレーク 山宮允
リグ・ヴェダ 増野三良

科學破産以後（評論） 服部嘉香
ポエーム（樂曲） 山田耕作
月の旅（樂曲） 山田耕作
スクリアビン論（評論） 山田耕作
滯獨小品（創作） 齋藤佳三
バヴロヴの印象（評論） 齋藤佳三
新音樂論（評論） 柳澤健
ウヱデキントのパントミム（譯） 小山内薫
タゴーレの「無限の覺認」（譯） 灰野庄平
ドニーの「クラシックとしてのゴーガン及ゴーグ」（譯） 田中喜作
伸び縮み（創作） 新城和一
故片野文吉氏の「ルバイヤット」を評す 増野三良
イエッツの『ブレークとその神曲の挿繪』（譯） 山宮允
イエッツの「瑪瑙の切斷」より 山宮允
詩論（評論） 三木露風
藝壇時事評論 同人

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

■第一輯既刊■

未來

■殘部僅少■

定價六十錢郵稅八錢
菊判三百頁寫眞數葉

詩集 五十六編

女性外九篇……三木露風
手を伸ばせ外八篇……川路柳虹
雪景外十一篇……柳澤健
知見の塔外一篇……山宮允
TO R. M.外二篇……SABURO MASINO
狂氣外七篇……新城和一
鷄頭外一篇……西條八十
空外九篇……服部嘉香

■詩歌の象徴（イエーツ）……山宮允譯
■ピアニスト・パツマン論……柳澤健
■緣に搖ろろ空へ（戯曲）……灰野庄平

■分裂（小説）……新城和一
■智慧樹（東方詩劇）……增野三良
■領土（小説）……西條八十
■醉ひどれの船（ラム・ボオ）……柳澤健
■タゴーレの詩……灰野庄平譯
■アルベエル・サマンの詩……新城和一譯
■リズム論……服部嘉香
■エルハアレンが詩の徑路……西條八十
■製作……川路柳虹
■見、不可見……灰野庄平
■曲譜……山田耕作

■

未來主催

音樂大演奏會

六月下旬
帝國ホテルに於て

（詳細第二輯誌上掲載）

■

發行所

東京市日本橋區檜物町九番地
電話本局一八七一・振替五六一四

東雲堂書店

■

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

詩集

かなたの空

川路柳虹著

■新刊發賣■

四六版三百頁
總カット天金
黑と金と白の裝幀
美術的製本
定價金八十錢
送費八錢

最近四年間の勞作約八十篇を集めたる著者の第二詩集なり、著者の自序にも言へるが如く、本集の前半と後半とにては、其內容と格調とに著しき變化を示せり、前半の諸作が銀線のふるへる如く人生感傷の情を歌へるに反し、後半、殊に「かなたの空」に含める諸作に於ては、手を伸ばし、曉を望み、未知と未來の中へ飛躍せんと欲せり、本集が伊太利ミラノに萠芽せる未來派と如何なる點まで交涉するか、そは未知の問題なるも、全篇に共通する著者獨特の韻律と、辭句の烹練とは、前著『路傍の花』より一歩を進めたるが如し。（萬朝報批評再錄）

內容

■蘆の笛……十章
■低唱……小曲二十二章
■伸びゆく芽……十六章
■內心……十七章
■かなたの空……十二章

作曲（海の小唄）　山田耕作
カット　廣川松五郎
Exlibris及裝幀　著者

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四）　東雲堂書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

柳澤健著

詩 果樹園 集

未來叢書第二編

近刊

音樂的情操を有する點に於て此著者の如きは方今の詩壇に稀なり。其詩は白日の中の噴水、柔かき玉となりてしたゝり彈くに似たり。生を愛すること情人の如き、其聲の何ぞ娓々として哀婉なるや。加ふるに著者の叡智ある資性は、其表はすところの生を最も智惠あるものにしたり。純粹に生の美を愛し且つ詩壇の乾燥に倦む者は、乞ふ來りて本書に就け。

著者裝幀・四六版三百頁

定價八十錢・郵稅六錢

發行所 東京市日本橋區檜物町九（振替貯金東京五六一四）東雲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

近刊豫告

現代佛蘭西詩集

リラの花

與謝野寛譯
梅原良三郎畫

現代の佛蘭西詩人中、新進のロオメン、ワウケエル、ダウリヤツク、シマル、ボルセエ、トルバン、ワアド女史、ケネアン、トラポルト女史、バンヌロオ、マンダン、メリエ、ブロツシユ、テイボオル、ドレエム、アウグマアル、メルシエ、トツサン、ドロマア夫人、バサン、デスプラス、フレミエル、サントクロア、ドクトン、アラン、ビゼ、ブツテイ、マルテイネ、ヹシエル、ラヹエ、デイギヤツク、ボルドリイ、サウケ等數十氏の近作を主とし、ヹルレエヌ、ボドレエル、マウパツサン、サマン等の故人、ヹルアラン、レニエ、ノアイユ公爵夫人等の現代名家、及び伊太利詩人ダンヌンチヨ、マリネツテイ諸家の詩篇を此集に收む。是等は譯者が概ね巴里ラタン區の珈琲店クロツスリイ・ド・リラの一隅の卓に凭りつゝ讀みたるものなれば、記念として「リラの花」と題したり。

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四番）　東雲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

層雲第一句集

荻原井泉水選著

——六月中旬發兌——四六版約三百頁——定價七十錢——

□夜を支配してゐた月が褪せて黎明の光がさし初めたやうに俳句界は今しも朝を迎へやうとしてゐる。

□私達、早く目覺めたものは舊い因襲の床を脱け出して廣い土の上に出たのである。

□此の爽やかな空氣、東の空の美しさ、私達の胸はおごる。

□「歩々に樂し露に滿ちて、歩々に咲く花の新しき」——そのやうな心持で私達が摘み集めた花が此の句集である。

□内容□

◉選句——新しき人々の句(約千首)

◉習作——叡山の二日　悲報明易うせり　三日の月悲し
秋田の會へ　北陸の會へ　富士の二日
けふも書齋より　机にうつる青空　行春の一夜

◉俳話——(約五十頁)

發行所　東京市日本橋區檜物町九　振替東京五一六四　東雲堂書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

■愛蘭文學號は完全を期するため初秋迄延期■

■新思潮■

六月號

六月一日發行

ヒヤシンス・ハルヴエイ誤譯早見表……草田杜太郎

■藝術の宗教（評論）……山宗允

■逐はれし人（小説）……豊島與志雄

■春の心臓（小品・イエーツ）……柳川隆之介

■海への騎者（戯曲・シング）……井上恭

■美術劇場と無名會……山本有三

■安成貞雄氏に答ふ……山宮允

オスカア・ワイルド社會主義下の人心……近衛文麿

■五月號は發賣禁止の厄に罹り御求めに應じ難し■

發行所　東京日本橋區本銀町三ノ二　振替口座東京一二〇五五番　啓成社

定價一部廿五錢　郵税一錢五厘

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

毎月一回

音樂

第五巻第六號

一日發行

六月號要目

■樂壇時評……
□新内節の品位……井上猛一
■音樂好きの教育（上）……牛山充
□音樂教授法（十）……草川宣雄
■感化事業の音樂……松井壯水
□近代樂の作家……太田黑元雄
■チャイコフスキー（一）……女子研究生
□歌劇『カッサンドウラ』の上演……牛山充
■觀るまゝ聽くまゝ……太田黑元雄
■樂譜皇太后陛下奉悼歌……千家尊福歌 東京音樂學校作曲
■口繪グラッオーノッフ 東京音樂學校卒業生
□第三の邦（詩）……富田碎花
■マルチア フネーブレ（詩）……こけい
□ゆく春（詩）……中川一政
■夜の旅裝（詩）……長瀬虎朗
□日本の人間（詩）……早資篤宜
■銀の小徑（詩）……坂本潮郎
□夜がらす（詩）……津端修
■半日（詩）……高辻秀宜
□みづうみの歌……内田月城
■海内樂壇海外樂壇……
□作曲法入門……
■音樂通論（二）……乙骨三郎
□歌劇物語（三）『セミラミーデ』……牛山充

■發行所 東京音樂學校學友會
振替口座 東京二〇六二番
■發賣所 神田裏神保町 東京堂

■會友募集 半ケ年 會費、壹圓參拾錢以上前納者は會友となり本會所催の演奏會に參聽し得べし
■會友は東京音樂學 所催の演奏會にも土曜日に於て入場の便宜を得べし
■學友會土曜演奏會及春季大演奏會は五月下旬若くは六月に入つて開催すべし

■定價 一部 二十五錢
郵税 一錢五厘
半ケ年前金税共 一圓三十錢
一ケ年前金税共 二圓五十錢

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

第二十卷　第六號

帝國文學

六月號

（定價金二十錢）（郵稅一錢五厘）

△回避乎鬪爭乎（評論）　山田檳榔
△ドストイエフスキイ（評論）　石坂養平
△齒（小説・ハムスン）　西澤富則
△ものゝおこりは（戯曲・トルストイ）　前田太郎
△サラ・ベルナアル（評論・シモンズ）　半田良平
△鎌倉より（感想）　加藤一夫
△ほろび（短歌）　井田虎男
△五月の文壇（時評）　石坂養平

京橋　大日本圖書株式會社　銀座

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

我等

一年分　送料共　金三圓

定價　二十五錢
郵稅　二錢

短歌　六月號　募集

譯詩十一篇……森林太郎
曙光……原田琴子
女が來て……與謝野晶子
後……三ケ島葭子
馭者ヘンシエル……秦豐吉
水のあなたより
坩堝の譫語……佐々木好母
シシリアの俳優……半田良平
痴人の日記……萬造寺齊
眞實心經……吉井勇
薔薇……佐藤春夫
大正博の彫刻評……高村光太郎

東京市本郷區駒込林町一九〇
我等發行所

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

心の花

第十八巻　六月號　第六號

深夜（小説）　長尾素枝

南獨逸の春の日　長紅雪

闇の精（ベインの印度古詩）　松村みね子

詩形論　時枝誠之

時枝學士の詩形論に就て　鳥谷部陽太郎

短歌

佐々木信綱　姉崎正治　吉野臥城

澤式　人見小華　印東昌綱

永田龍雄　須藤みどり　梨畑花城

中澤豐三郎　石槫千亦　樺山常子

高田雪子　安中花子　下村かづ子

木村幸子　久保勇子　外山たか子

萬葉集講義　佐々木信綱

新百人一首新釋　志田義秀

萬葉十首　小花清泉

やまご心を謹讀す　志田義秀

西片町より　佐々木雪子

定價一部金二十錢・半年前金一圓・一年前金二圓・郵稅共

東京日本橋區　竹柏會出版部　本石町一ノ一

電話本局五一七〇番　振替東京四三〇〇〇番

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

特價三十錢

假面

郵税金二錢

第三卷第六號　六月號

□ゴルトン・クレイグ舞臺意匠五葉（挿畫）
□或る新しき劇場へ（評論クレイグ）……伊東六郎
□紙上戀情（詩）……日夏耿之介
□死の勝利（戯曲ソログーブ）……松永信
□黎明（小説）……山川亮
□桑の葉かげ（歌）……石井直三郎
□大團圓（戯曲）……丘草太郎
□「かなたの空」を讀む（評論）……西條八十
□春の新劇壇合評　□クレイグの舞臺意匠

假面社編

近代評傳叢書

第一篇　加能作次郎　ストリンドベルヒ

第二篇　瀬戸義直　ドストエフスキイ

本月中旬發行　袖珍頗美本
定價金五十錢　郵税金六錢

發行所　東京市外西大久保三百十一　假面社

發賣元　東京神田錦町一丁目十九　中興館　振替東京四一二三一番

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

六月一日發行

アララギ

六月特別號

特價 卅錢

○櫻（短歌）……尾山篤二郎
○青める木々（短歌）……若山喜志子
○をはりの明り（短歌）……島木赤彥
○このびく雪山（短歌）……平瀨泣崖
○蒼きなぎさ（短歌）……中村憲吉
○蛙（短歌）……古泉千樫
○侏儒ひとり（短歌）……齋藤茂吉
○抒情詩三篇……柳澤健

○鍼の如く（短歌）……長塚節
○或る夜の事（感想）……木下杢太郎
○諦めの論理（評論）……赤木桁平
○齋藤君と古泉君（評論）……長塚節
○萬葉短歌輪講（一）……赤彥 千樫 茂吉 憲吉
○目白臺にて（歌論）……河西青五
○短歌雜論……齋藤茂吉
○良寛和歌集私鈔……齋藤茂吉

短歌

清水謙一郎 並樹秋人 土田耕平 河西青五
岡千里 河野愼吾 平沼ひさし 兩角七美雄
星川清雄 吉川かすみ 伊東壽一 井澤蛇川
柳本城西 沖鹽正光 金原よしを 竹下美代子

誌友募集

各月普通誌友卅錢特別誌友五十錢

東京青山南町五丁目八十一番地齋藤茂吉方

アララギ發行所

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

定價二十五錢

青鞜

革新紀念號

郵稅一錢五厘

■面目一新せる六月號■

戀愛の自由　エレンケイ
繼しい仲　岩野清
婦人の生活を重んじない社會　らいてう
別れし人に　三ケ嶋葭
萬人は如何ともあれ　齋賀琴
ソニア・コヴアレフスキイの自傳　野上彌生譯
S先生に　野枝
結婚　西崎花世
「惟然坊」を觀て　哥津
枕草紙現代語譯抄　上野葉
やみのうち　望月れい
歡喜の失踪（オリーブ・シユライネル）　山田わか譯
青鞜社詠草　社員等
「三太郎の日記」を讀んで　らいてう
最近の感想と讀んだものゝ批評　野枝・みどり　らいてう等
編輯室より　らいてう・野枝

■編輯者　らいてう・野枝■

發賣所　東京市神田區表神保町　東京堂

第二巻
第六號

エゴ

六月一日發行
定價金廿五錢

第六月號

目次

母親の心配（五幕物）　武者小路實篤
雜感　千家元麿
悪しき夢（一幕物）　佐藤惣之助
神の惱み（感想）　千家鐵麿
返事（同）　土屋小介
地獄界（詩）　佐藤惣之助
六號雜感　同人

附錄

ミケルアンヂエロ（ローマン・ローラン）　長與善郎譯

挿繪

サチールの首　ミケンアンヂエロ
男の裸　同
光の陰の創造　同
グロテスク　同

發行兼編輯所　東京牛込區新小川町三ノ一三　エゴ社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

現代の洋畫 六月號

一冊本號三十五錢

挿畫

女の裸體習作（色刷）……高村光太郎
風景（同）（特別刷）……ポール・アザンヌ
家族（同）……エデウアル・マネ
公園の一隅（同）……石井柏亭
女の顏（同）……竹久夢二
風景（自畫像）……ヴアン・ゴオホ
橋（靜物）……ポール・セザンヌ

記事

セザンヌ……
パブロピアン……森口多里
セザンヌの逸話……北山清太郎
後期印象派の位置……木村莊八
ゴオホ論……渡邊吉次
初夏の二展覽會……酒井憶尋
其他……未定

セザンヌ風景複製特別印刷のため特價三十五錢に臨時定價變更す

七月より改題『現代の美術』

英譯

ゴオホの妹、ケスネ・ヴアン・ゴオホ著

多胡淳一氏譯

追想のゴオホ（全）

四六版。百二十頁。挿畫色刷二枚、寫眞版十六枚。

六月十日發行

（定價五十錢 送料六錢）

發行所 日本洋畫協會

小石川區西江戸川町九 振替四三七三

月刊美術雑誌

みづゑは本邦最古にして且唯一の水彩畫専門研究雑誌なり

みづゑ

第百十二

六月三日發行

一部金廿六錢

水彩畫を描く人は勿論愛好せらるゝ諸士は一日も本誌を座右に欠く可からず

□雲上人（錦絵原色版）……豊原國周
□百日草（水彩畫原色版）……織田一磨
□風景（同）……石川欽一郎
□寄居（同）……大下藤次郎
□昆蟲應用圖案（チンク版）……織田一磨
□大正博の水彩畫（寫眞版）瀧澤邦行、丸山晩霞、三宅克巳、吉田豊、海老名文雄、望月省三、中澤弘光、相田直彥、後藤工志、赤城泰舒

□専門家にならうと志す青年に就て……石川欽一郎
□ミレー傳……武田雨水
□寫樂の似顔畫……小島烏水
□妙義と伊香保……石井柏亭
□新三脚物語……鵜澤四丁
□大正博の水彩畫……石井柏亭
□昆蟲を應用したる圖案　織田一磨
□大島の旅……赤城泰舒
□追憶の傳說……磯萍水
□研究所だより

發行所　春鳥會
東京小石川關口駒井町三
振替口座東京六九六三番

自畫像

六月號

■表紙繪（ゆきを）

エゴの哲學（ジエームス）　北落師門
密航（小説）　久保寒三
戀百合（ロセツテイ）　ゆきを
初ひ子（詩）　菊池香一郎
無花果の熟する頃（小説）　木村幹
聖堂まで（小説）　小川房子
二階（小説）　宮下杜子
憂鬱病（ヹルレーヌ）　牧村宇多吉
破船（モオパツサン）　牧夫

■六月一日發行（定價廿五錢）

發行所　東京府下西大久保七八　菊池方　自畫像社
發賣所　東京市神田區南神保町十六番地（振替口座一九三四四番）　尚文堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

■生活と藝術六月號

は左の諸家の新しき作品を以て埋む

定價十八錢
郵稅壹錢

■ストライキの前後　仲田勝之助
□伊庭孝君に與へて僕の近狀を嘲ける書　楠山正雄
■ロダンの藝術と演劇　伊庭孝
□若葉の頃　荒川義英
■簿書堆裡　西村陽吉
□街上不平　土岐哀果
■投稿をしらべて　土岐哀果
□海邊より　矢口達
■新らしき歌　青年諸氏

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四番）　東雲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY